

飯舘村 住民意向調査 報告書

平成29年3月

復興庁
福島県
飯舘村

飯舘村 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 現在の職業	19
3-1-4 震災発生当時の住居形態	22
3-1-5 避難前の自宅へ戻る頻度	23
3-1-6 避難前の自宅へ定期的に戻る理由	24
3-1-7 現在の住居形態	25
3-2 将来の意向	29
3-2-1 飯舘村への帰還意向	29
3-2-2 飯舘村への帰還時期	34
3-2-3 飯舘村へ戻る場合の家族	36
3-2-4 飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数	38
3-2-5 飯舘村へ帰還する場合の住居形態	39
3-2-6 飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	42
3-2-7 村営住宅への入居意向	43

3-2-8	村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で 希望するサービス	44
3-2-9	飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援	45
3-2-10	飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報	48
3-2-11	帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において 必要な支援	51
3-2-12	現時点で戻らないと決めている理由	54
3-2-13	帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態	57
3-2-14	飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援	58
3-2-15	飯舘村との“つながり”を保ちたいか	61
3-3	現在の生活について	63
3-3-1	教育の充実を図るために必要なこと	63
3-3-2	村外に転校した子どもの教育の充実を図るために 必要なこと	64
3-3-3	除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理	65
3-3-4	除染終了後の農地の維持管理	66
3-4	意見・要望	67
IV	参考資料	81
4-1	使用調査票	83

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、飯舘村住民の避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	飯舘村
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 2,844 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 29 年 1 月 4 日（水）～平成 29 年 1 月 18 日（水）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、飯舘村
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,271 世帯（有効回収率 44.7%）

1-5 報告書の見方

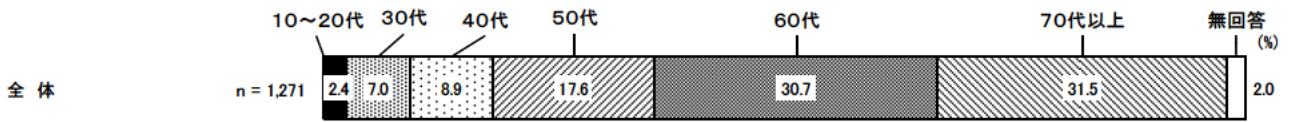
- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が 30 を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

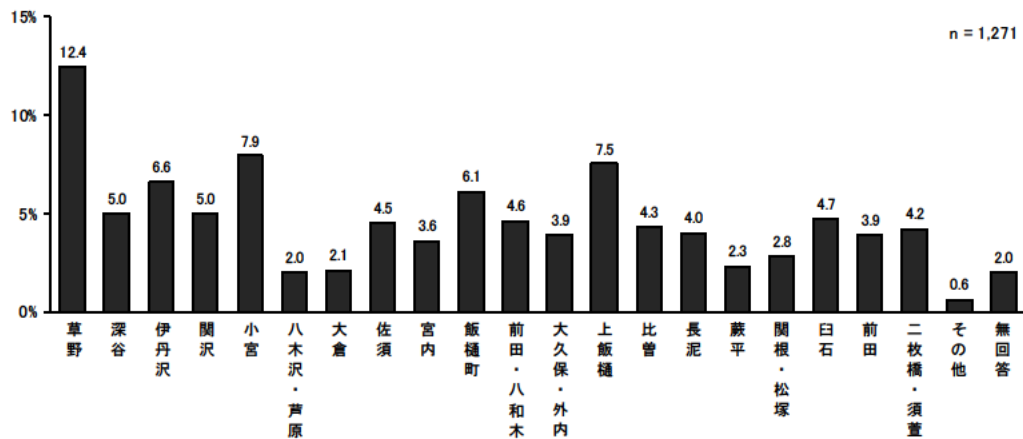
(1) 年齢

<図表2-1-1>



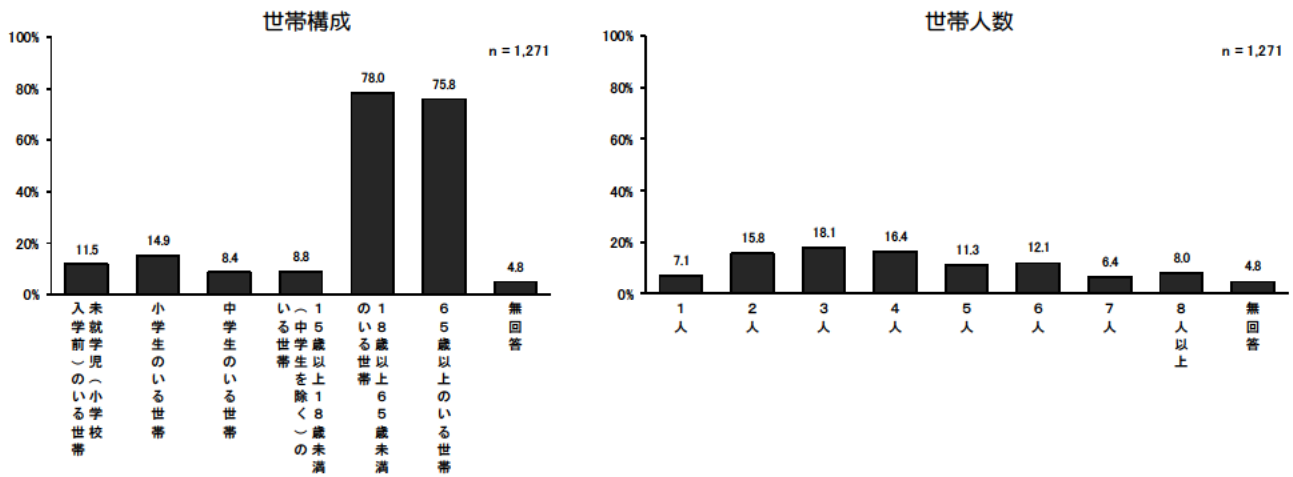
(2) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-2>



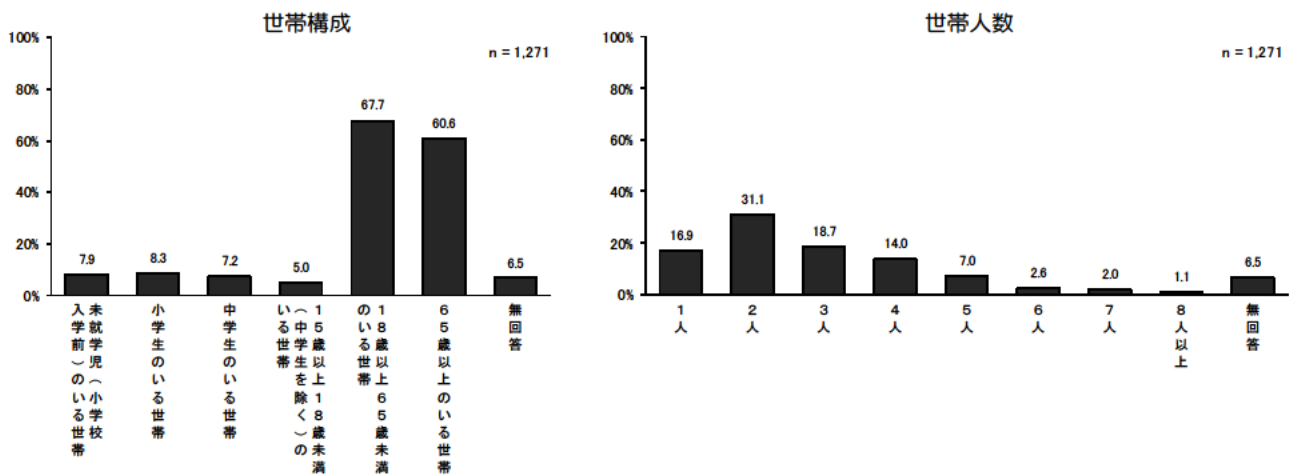
(3) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-3>



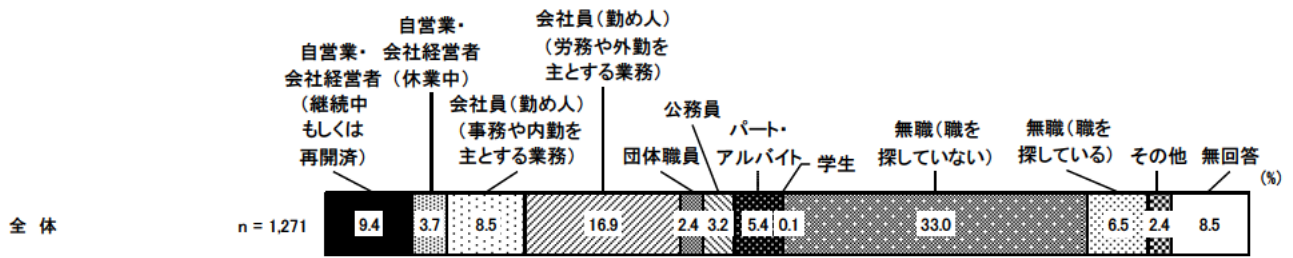
(4) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-4>



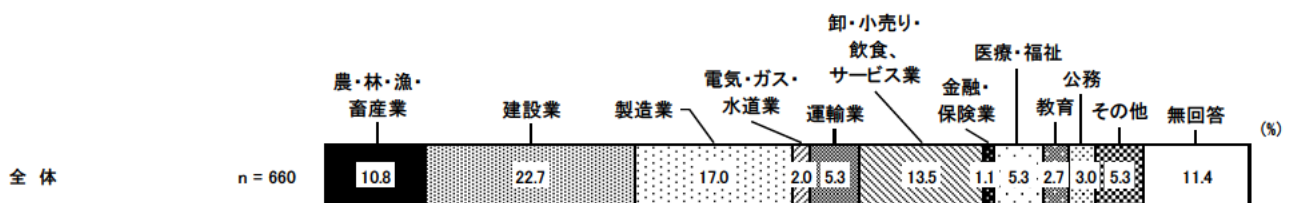
(5) 現在の職業（就業形態）

<図表2-1-5>



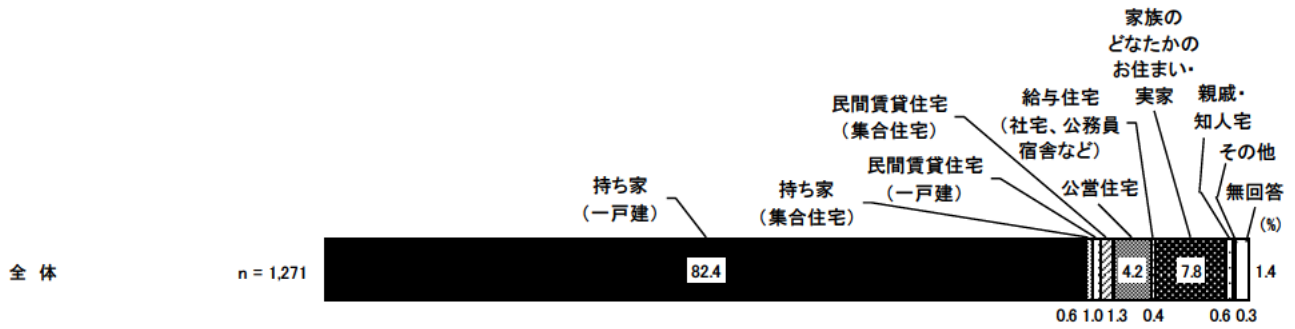
(6) 現在の職業（業種）

<図表2-1-6>



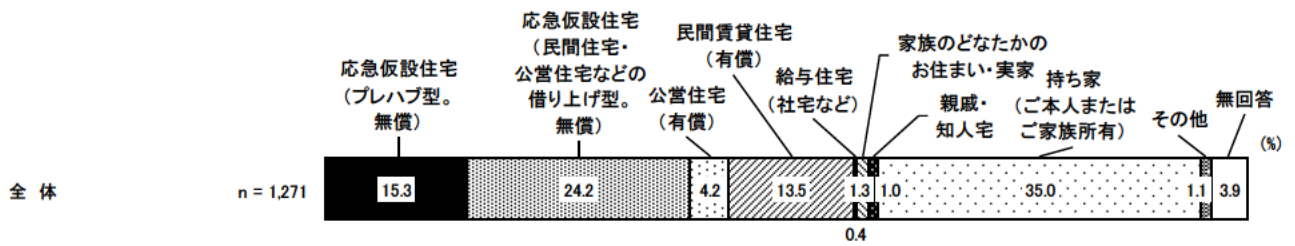
(7) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-7>



(8) 現在の住居形態

<図表2-1-8>



III 調査結果

3-1 現在の状況

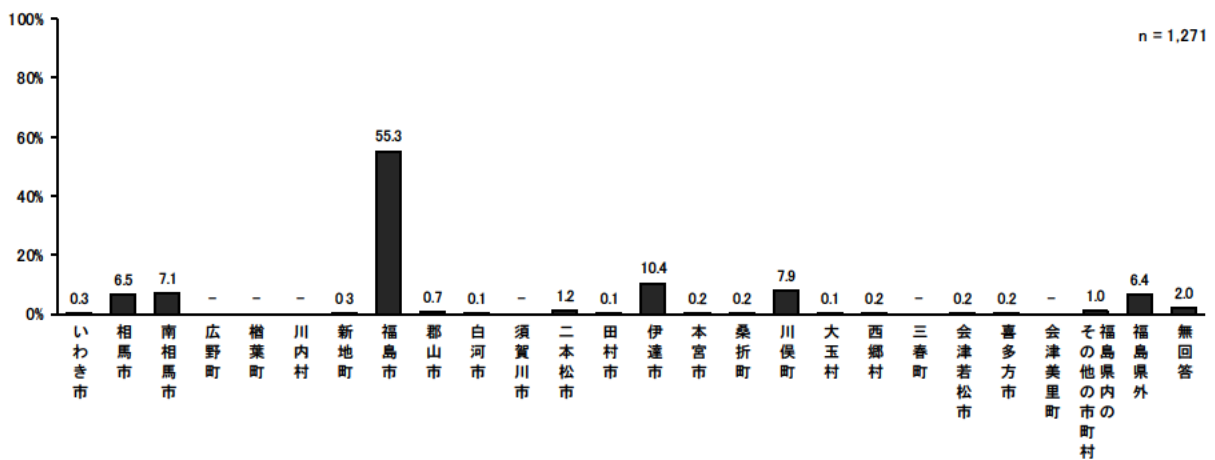
3-1-1 現在の避難先自治体

問6 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(〇は1つ)

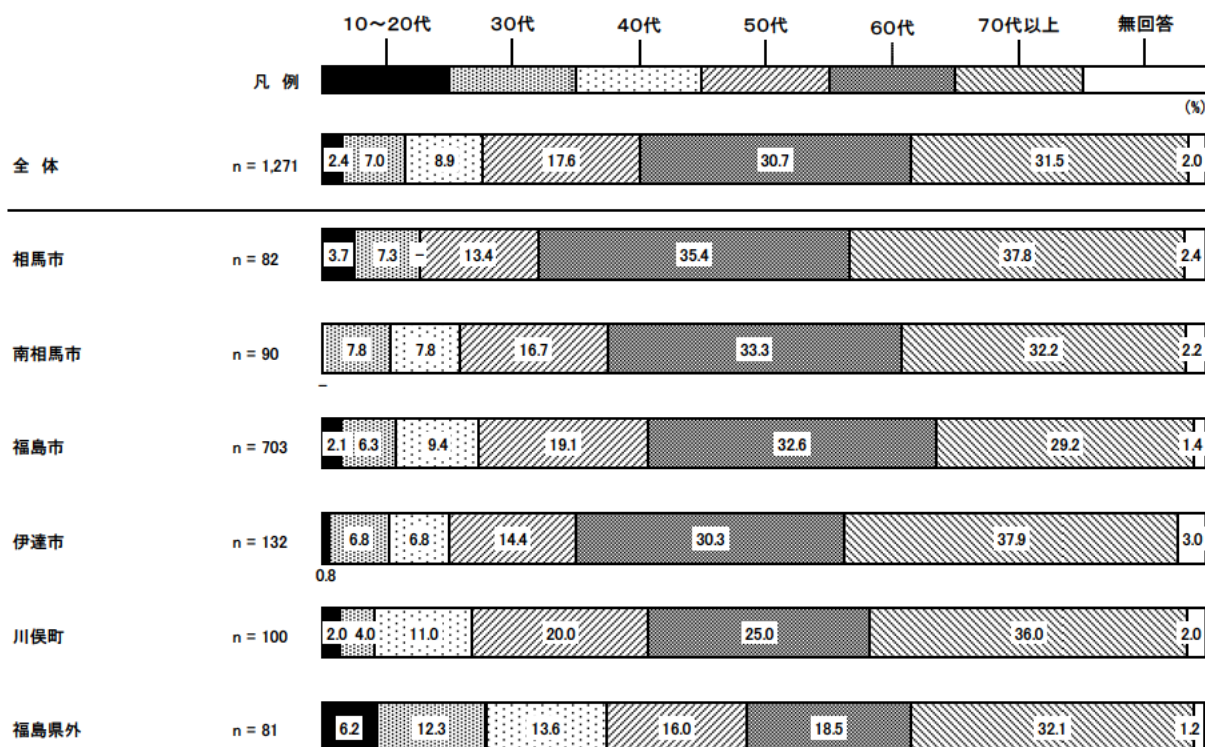
現在の避難先自治体については、「福島市」が55.3%と最も高く、次いで「伊達市」が10.4%、「川俣町」が7.9%となっている。

主な避難先自治体について、回答者の年齢別にみると、60代以上では「相馬市」(73.2%)、「伊達市」(68.2%)、「南相馬市」(65.5%)、「福島市」(61.8%)、「川俣町」(61.0%)が6割以上となっている。

<図表3-1-1-1 避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主な避難先自治体の年齢構成>



III 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、深谷、伊丹沢、大久保・外内、上飯樋、長泥、関根・松塚、白石、二枚橋・須萱では「福島市」が6割以上、大倉では「相馬市」が6割以上となっている。

<図表3-1-1-3 主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	(%)					
		相馬市	南相馬市	福島市	伊達市	川俣町	福島県外
全体	1,271	6.5	7.1	55.3	10.4	7.9	6.4
草野	157	7.6	6.4	52.9	8.9	3.2	12.7
深谷	63	3.2	4.8	73.0	3.2	4.8	3.2
伊丹沢	84	7.1	2.4	66.7	8.3	4.8	6.0
関沢	64	12.5	10.9	45.3	4.7	6.3	9.4
小宮	100	9.0	20.0	42.0	11.0	8.0	8.0
八木沢・芦原	26	7.7	11.5	53.8	7.7	3.8	-
大倉	27	63.0	7.4	7.4	-	3.7	11.1
佐須	57	3.5	1.8	35.1	42.1	10.5	3.5
宮内	46	4.3	15.2	58.7	2.2	6.5	4.3
飯樋町	77	5.2	7.8	59.7	3.9	11.7	6.5
前田・八和木	59	6.8	8.5	59.3	5.1	10.2	6.8
大久保・外内	50	-	10.0	66.0	8.0	8.0	4.0
上飯樋	95	2.1	3.2	64.2	11.6	10.5	4.2
比曾	55	1.8	-	50.9	7.3	21.8	9.1
長泥	51	3.9	3.9	72.5	3.9	7.8	3.9
蔵平	29	13.8	20.7	37.9	6.9	3.4	3.4
関根・松塚	36	2.8	2.8	66.7	8.3	5.6	-
白石	60	-	5.0	60.0	15.0	10.0	3.3
前田	49	-	-	32.7	42.9	10.2	12.2
二枚橋・須萱	53	-	1.9	81.1	3.8	7.5	1.9
その他	8	-	-	50.0	25.0	-	-

3-1-2 世帯構成・人数

(1) 震災発生当時の世帯構成・人数

問7 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

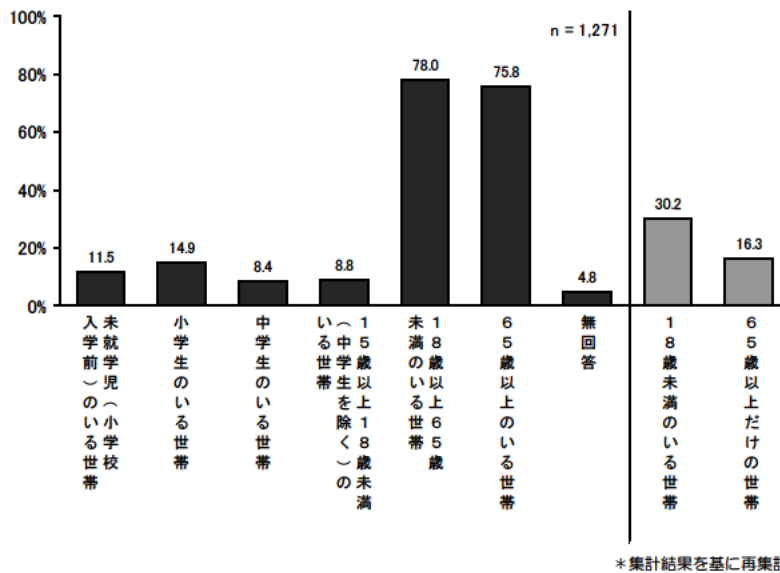
(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

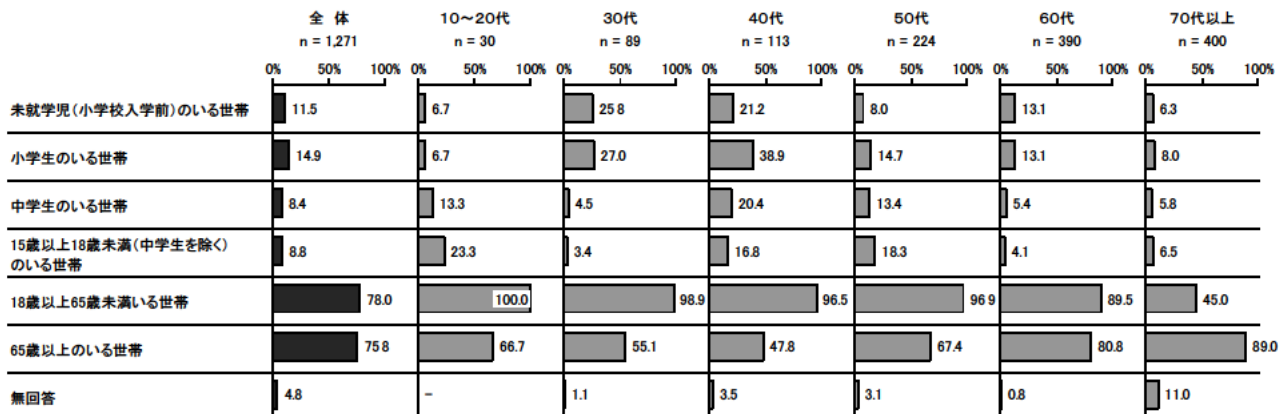
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が78.0%、「65歳以上のいる世帯」が75.8%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(11.5%)、「小学生のいる世帯」(14.9%)、「中学生のいる世帯」(8.4%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(8.8%)はいずれも1割前後となっている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯構成(年齢別)>

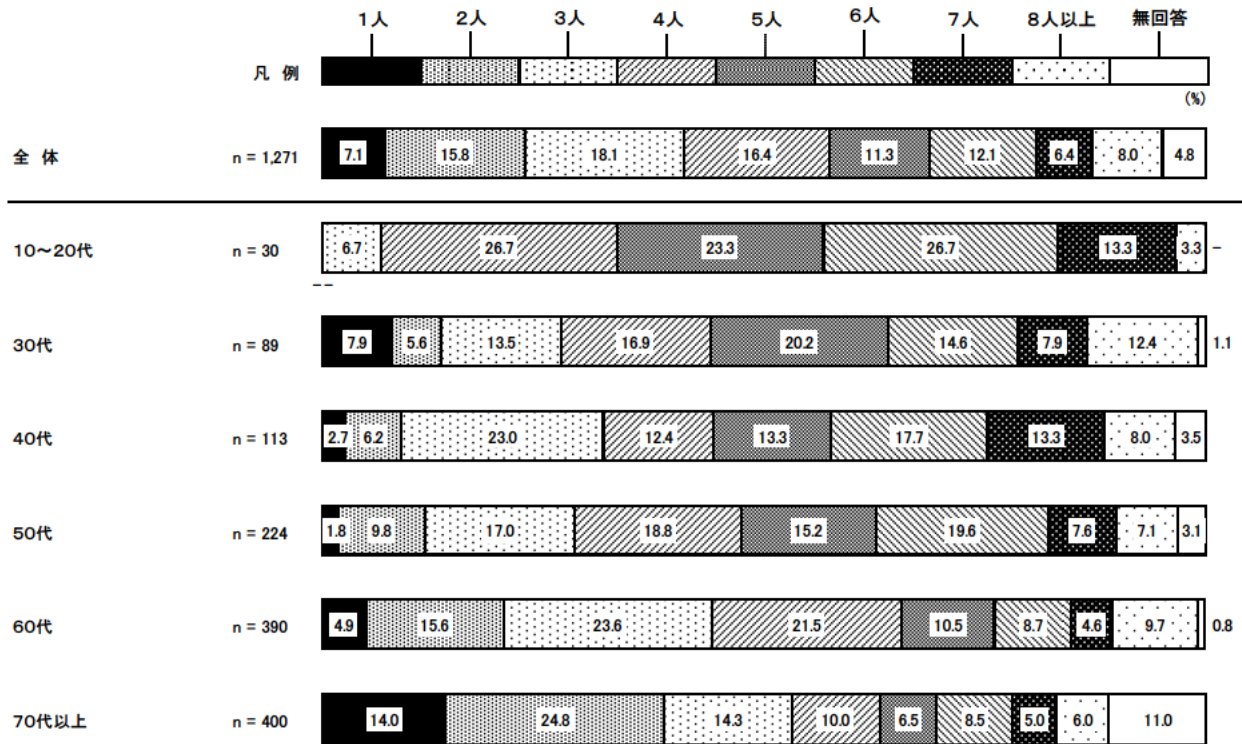


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「3人」が18.1%と最も高く、次いで「4人」が16.4%、「2人」が15.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「3人」は40代(23.0%)、60代(23.6%)、「4人」は10~20代(26.7%)、60代(21.5%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-3 震災発生当時の世帯人数(年齢別)>



(2) 現在の世帯構成・人数

問7 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

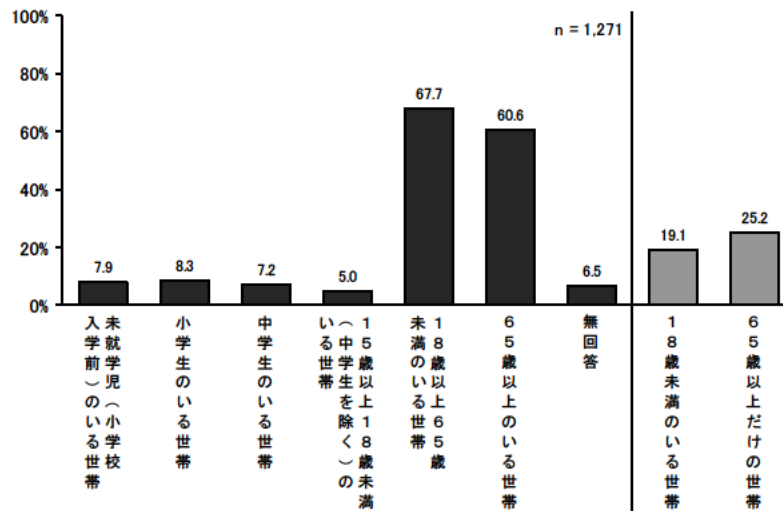
(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

① 現在の世帯構成

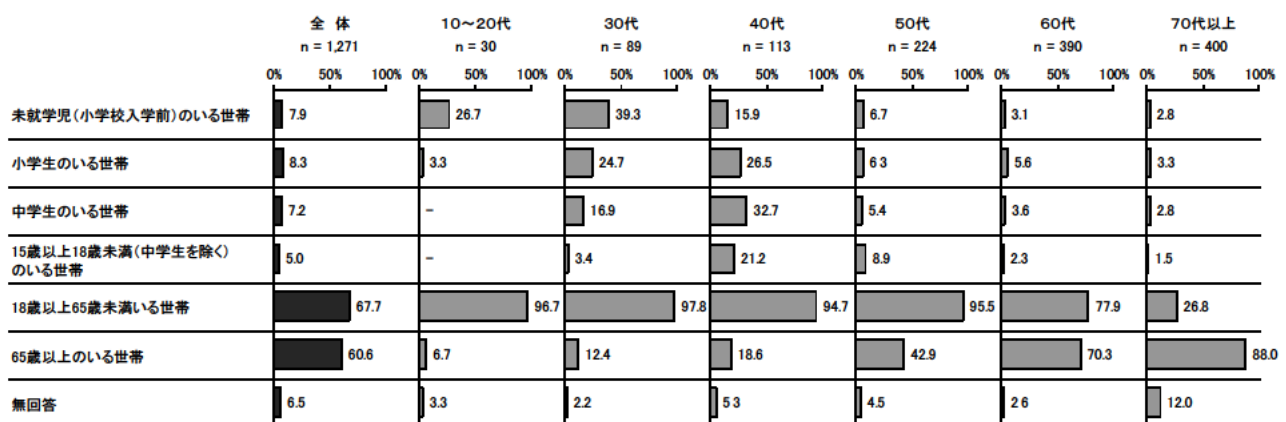
現在の世帯構成は、「18歳以上65歳未満のいる世帯」が67.7%、「65歳以上のいる世帯」が60.6%となっている。一方、「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(7.9%)、「小学生のいる世帯」(8.3%)、「中学生のいる世帯」(7.2%)、「15歳以上18歳未満(中学生を除く)のいる世帯」(5.0%)はいずれも1割を下回る。

<図表3-1-2-4 現在の世帯構成>



*集計結果を基に再集計

<図表3-1-2-5 現在の世帯構成(年齢別)>

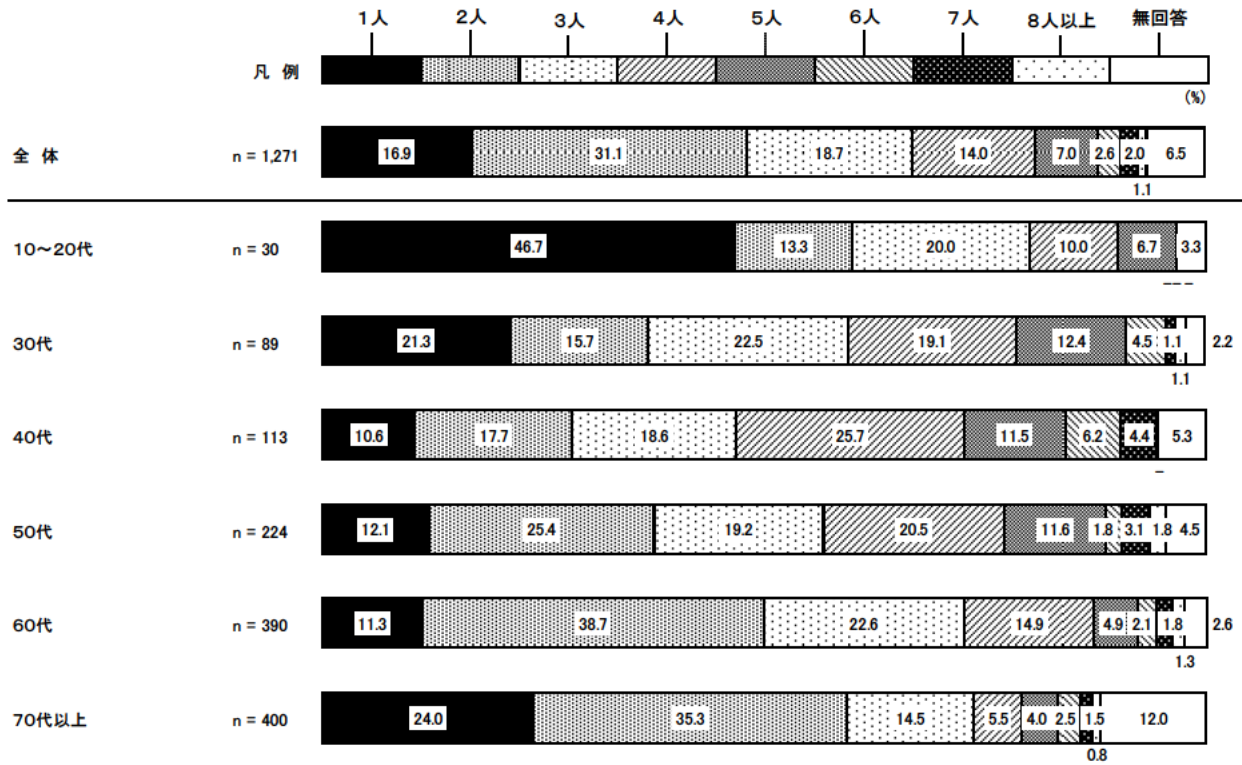


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2人」が31.1%と最も高く、次いで「3人」が18.7%、「1人」が16.9%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は60代(38.7%)、70代以上(35.3%)、「3人」は30代(22.5%)、60代(22.6%)、「1人」は10~20代(46.7%)、「4人」は40代(25.7%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(年齢別)>



3-1-3 現在の職業

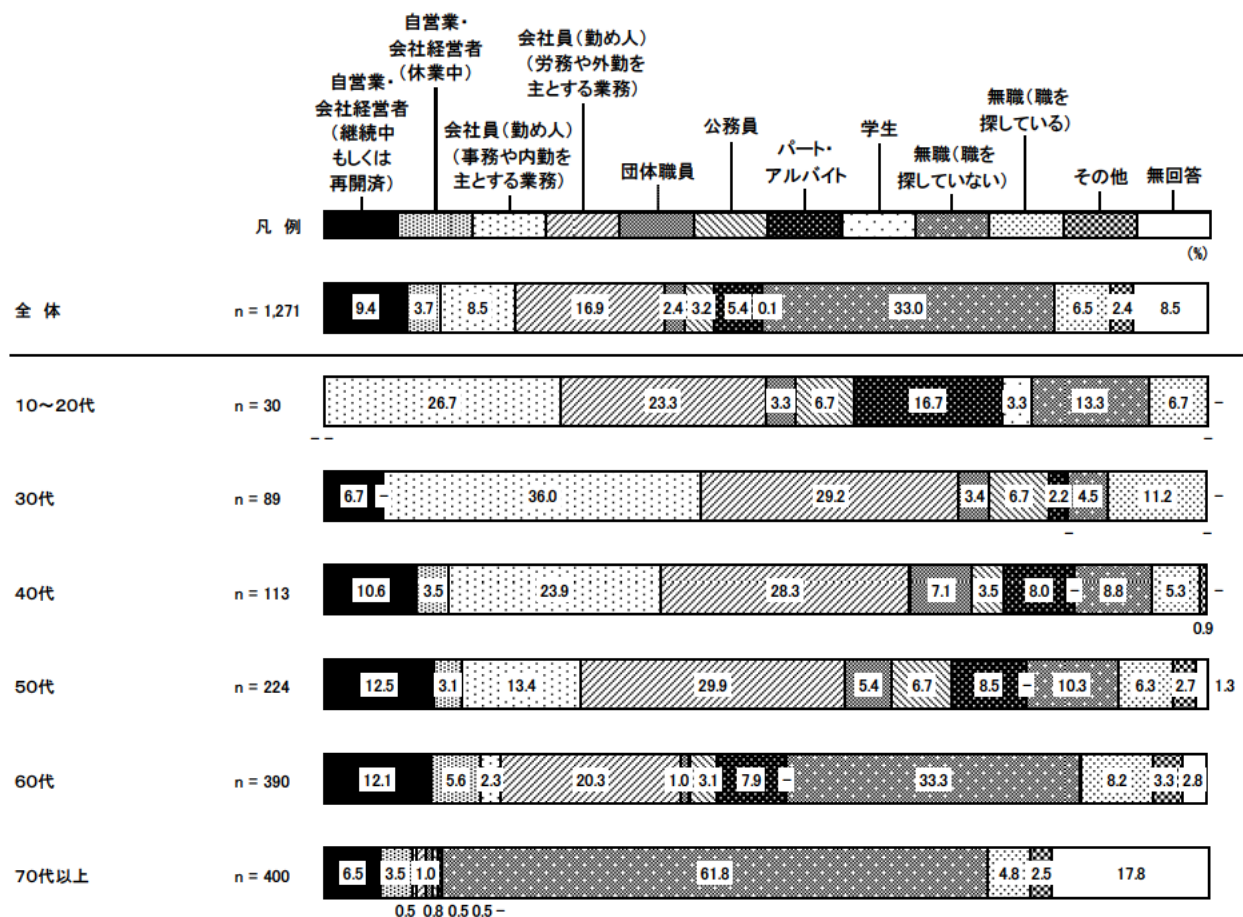
(1) 職業（就業形態）

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
 (1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が16.9%と最も高く、次いで「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」が9.4%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が8.5%となっている。

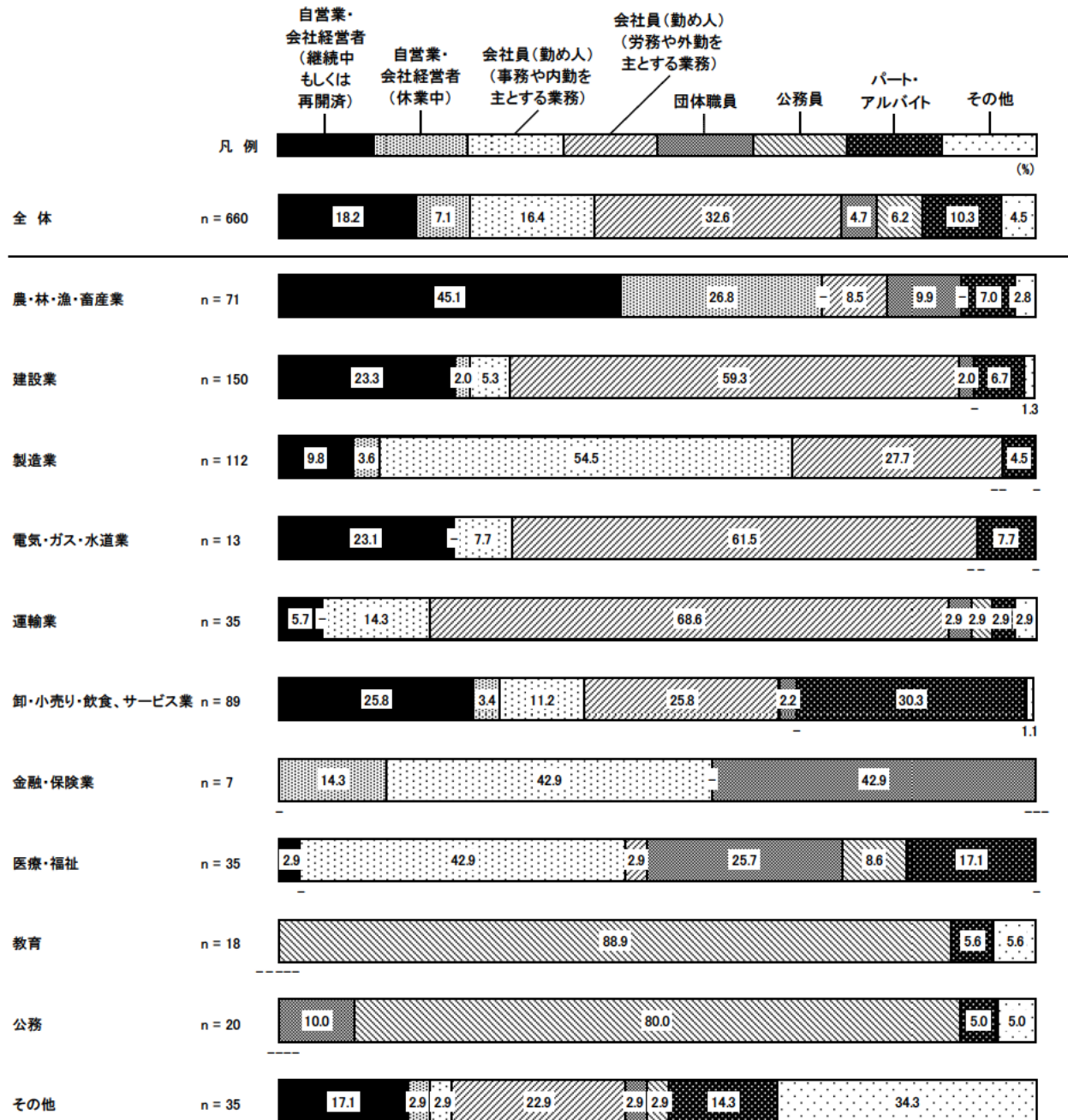
回答者の年齢別にみると、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は30代（29.2%）、40代（28.3%）、50代（29.9%）、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」は10～20代（26.7%）、30代（36.0%）、40代（23.9%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-1 現在の職業（年齢別）>



業種別にみると、運輸業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（68.6%）、農・林・漁・畜産業では「自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）」（45.1%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（54.5%）、卸・小売り・飲食、サービス業では「パート・アルバイト」（30.3%）が、他の業種と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-2 現在の職業（業種別）>



(2) 業種

問2 現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

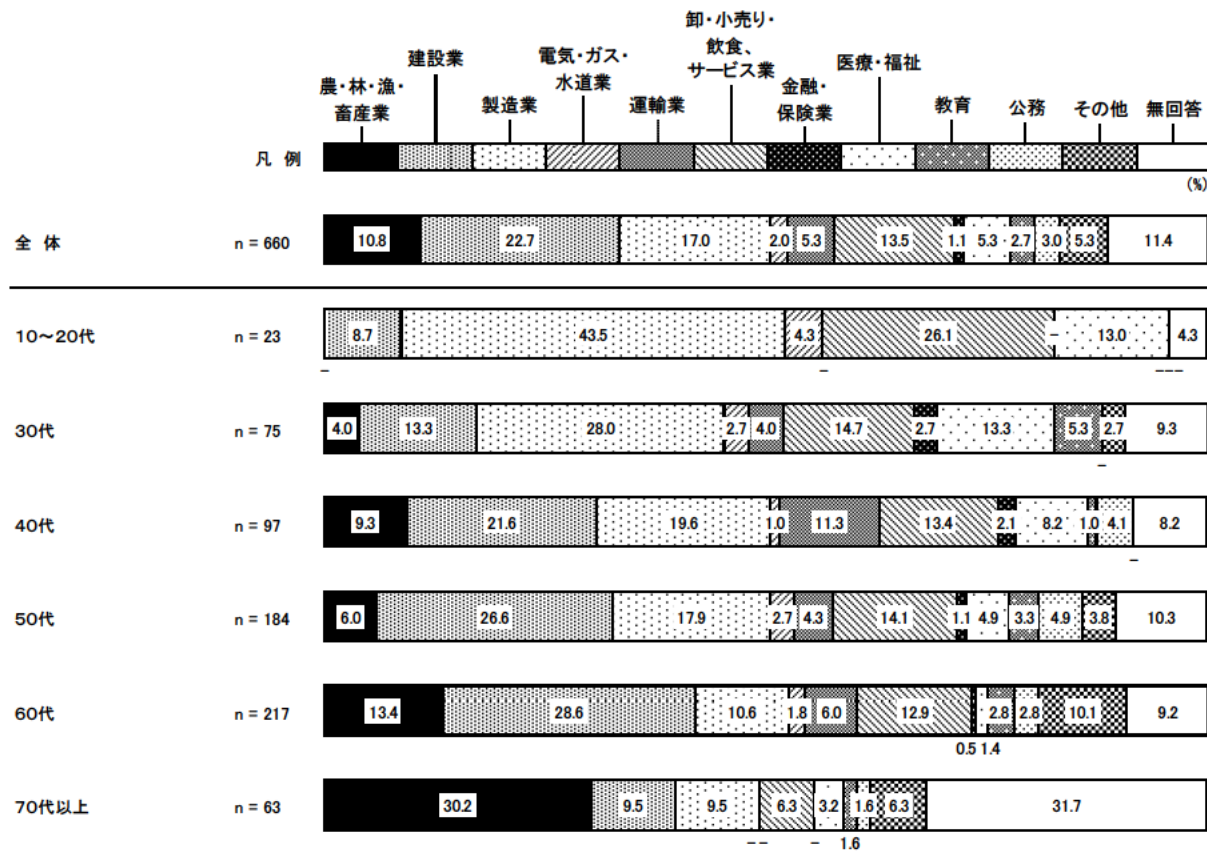
【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

現在の業種については、「建設業」が22.7%と最も高く、次いで「製造業」が17.0%、「卸・小売り・飲食、サービス業」が13.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は50代(26.6%)、60代(28.6%)、「製造業」は30代(28.0%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-3-3 現在の業種(年齢別)>



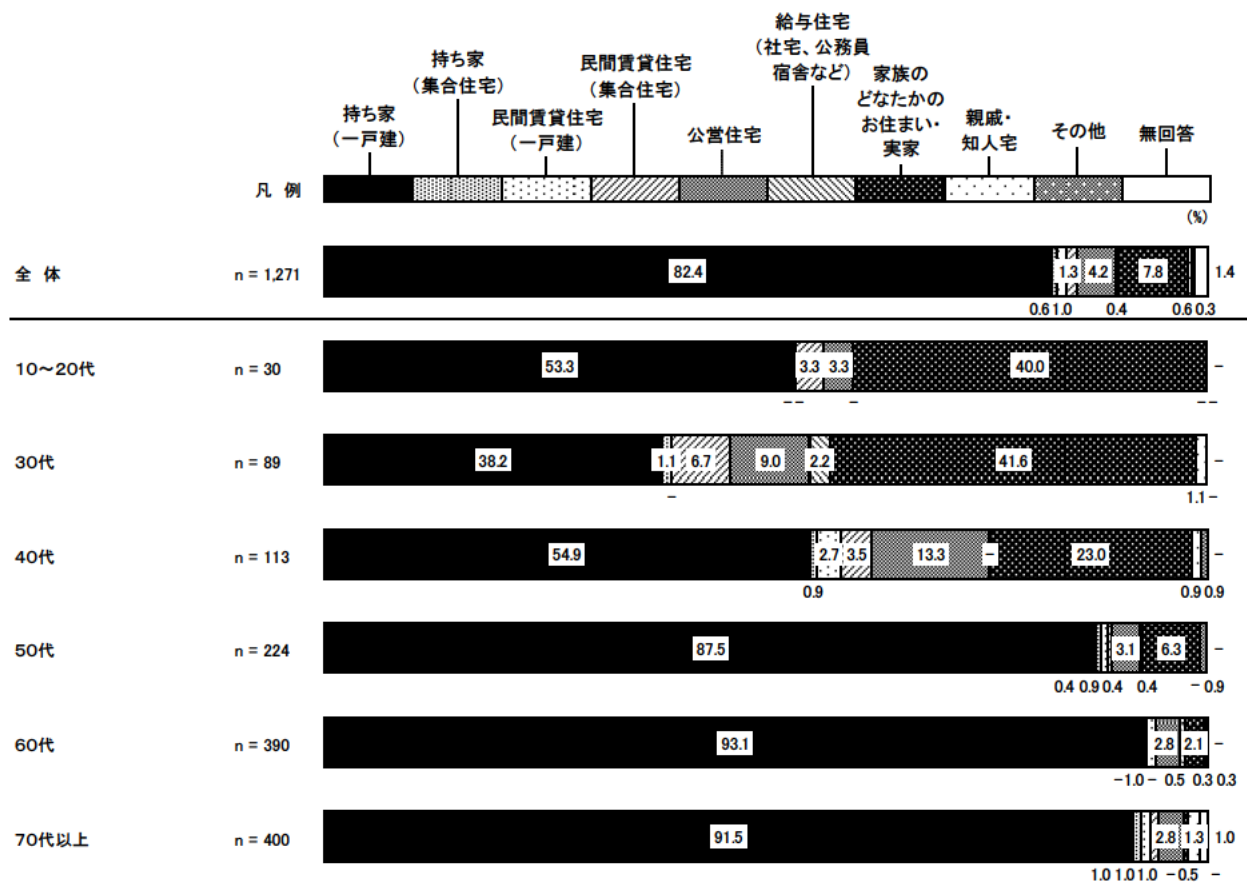
3-1-4 震災発生当時の住居形態

問4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が82.4%と最も高く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」が7.8%、「公営住宅」が4.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高いほど割合が高くなる傾向にあり、50代、60代、70代以上では概ね9割となっている。また、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10～20代(40.0%)、30代(41.6%)、「公営住宅」は30代(9.0%)、40代(13.3%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-1-4-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



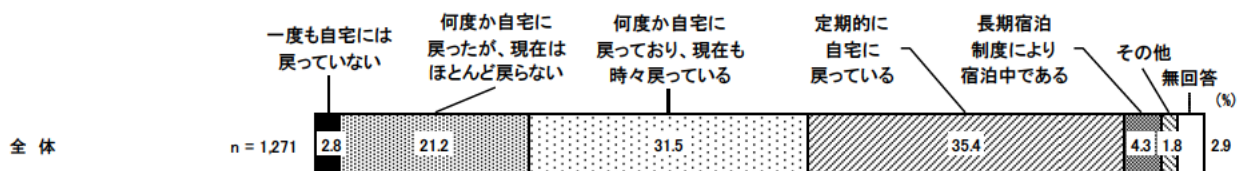
3-1-5 避難前の自宅へ戻る頻度

問5-1 あなた（もしくはあなたのご家族）は、避難後に村のご自宅への程度戻られていますか（一時帰宅の形も含まれます）。（〇は1つ）

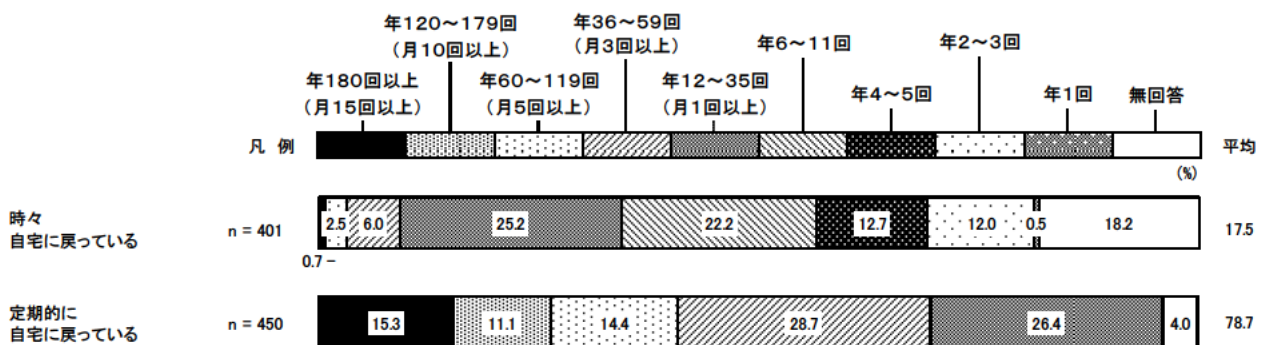
避難前の自宅へ戻る頻度については、「定期的に自宅に戻っている」が35.4%と最も高く、次いで「何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」が31.5%、「何度か自宅に戻ったが、現在はほとんど戻らない」が21.2%となっている。

現在も時々戻っている、定期的に戻っている方の、避難前の自宅へ戻る回数については、現在も時々自宅に戻っている方は「年12～35回（月1回以上）」（25.2%）、定期的に戻っている方は「年36～59回（月3回以上）」（28.7%）が最も高くなっている。なお、避難前の自宅に戻る年間平均回数は「何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」が17.5回、「定期的に自宅に戻っている」が78.7回となっている。

<図表3-1-5-1 避難前の自宅へ戻る頻度>



<図表3-1-5-2 避難前の自宅へ戻る回数（年換算）>



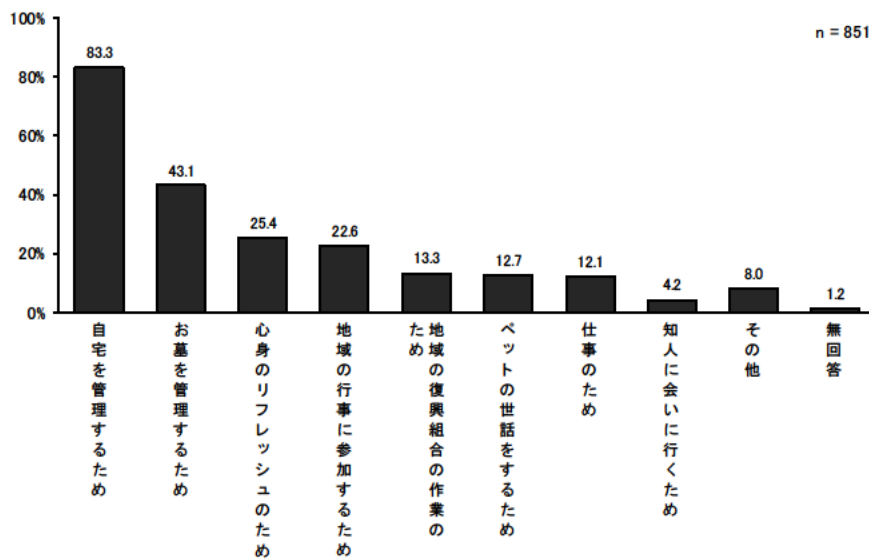
3-1-6 避難前の自宅へ定期的に戻る理由

【問5-1で「3. 何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」「4. 定期的に自宅に戻っている」と回答した方にうかがいます。】

問5-2 避難前のご自宅へ定期的に戻られる理由は何ですか。(〇はいくつでも)

避難前の自宅へ定期的に戻る理由については、「自宅を管理するため」が83.3%と最も高く、次いで「お墓を管理するため」が43.1%、「心身のリフレッシュのため」が25.4%となっている。

<図表3-1-6-1 避難前の自宅へ定期的に戻る理由>



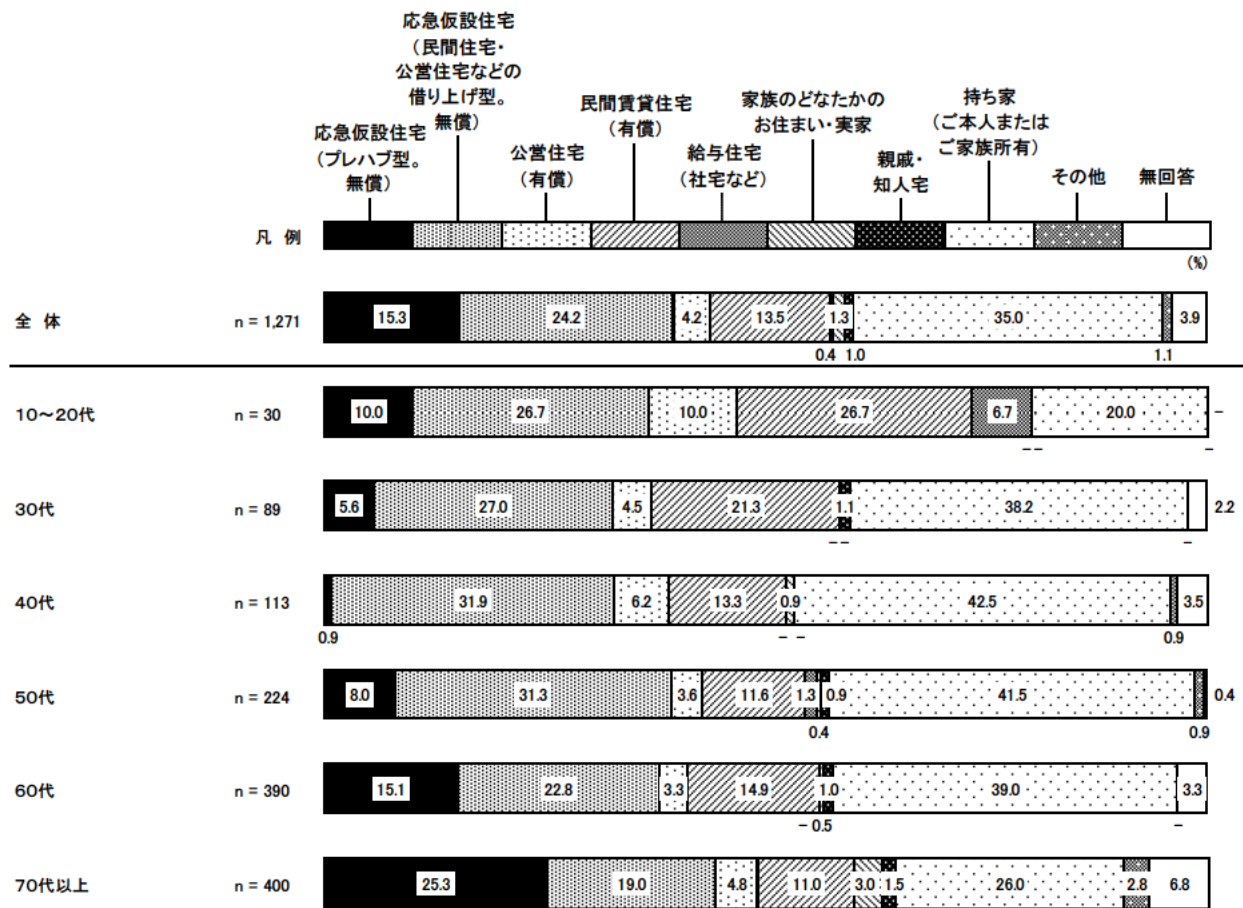
3-1-7 現在の住居形態

問8 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が35.0%と最も高く、次いで「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）」が24.2%、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が15.3%となっている。

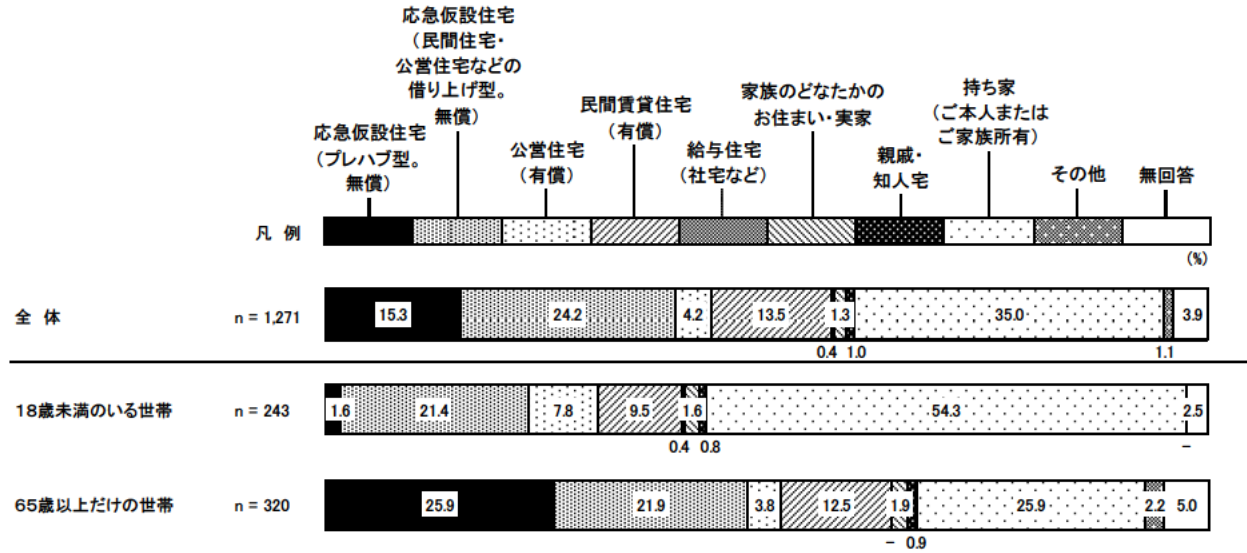
回答者の年齢別にみると、30代以上では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が最も高い割合となっているが、10～20代では「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）」、「民間賃貸住宅（有償）」（ともに26.7%）が最も高い割合となっている。

<図表3-1-7-1 現在の住居形態（年齢別）>



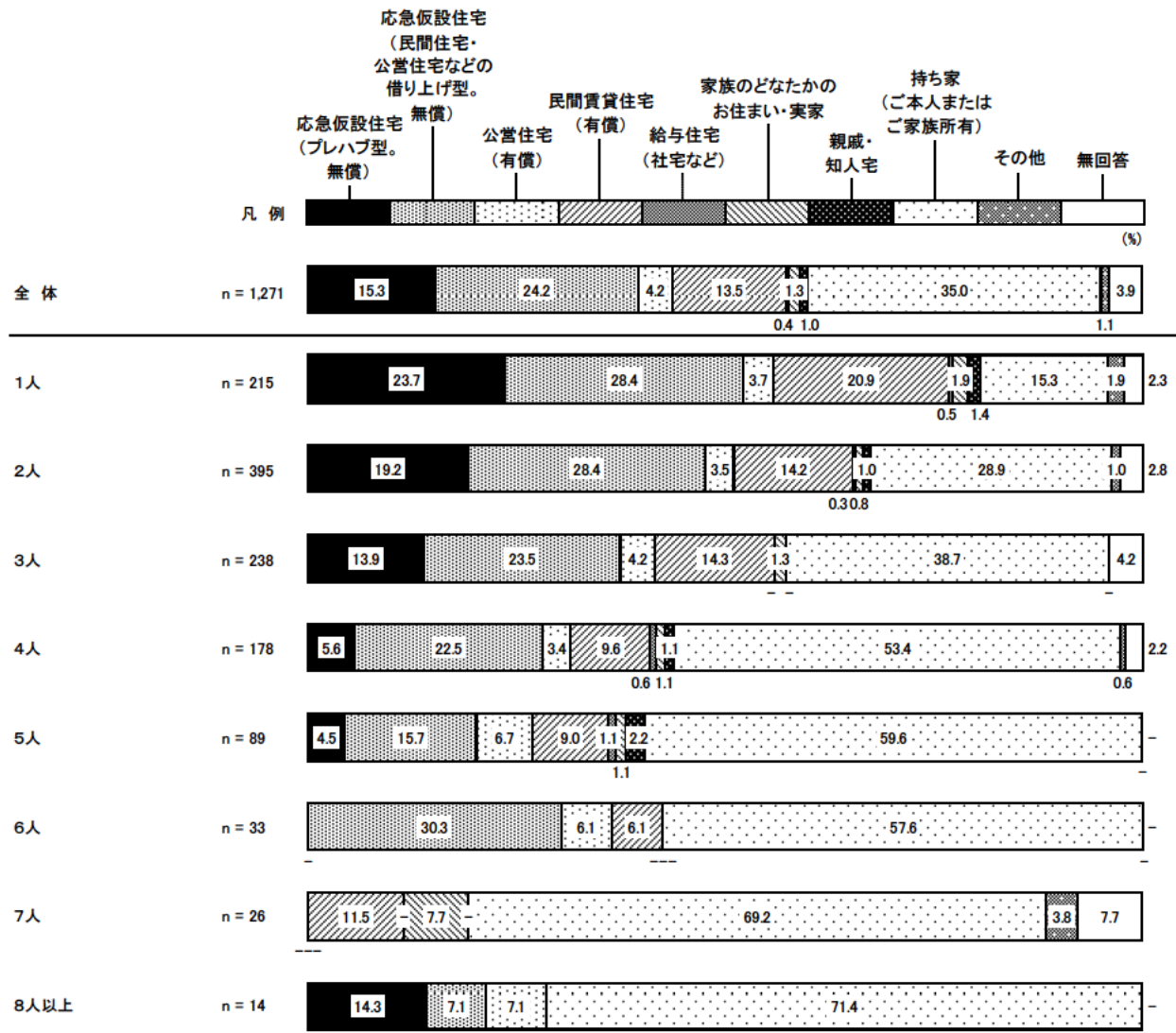
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が54.3%と過半数を占めている。一方、65歳以上だけの世帯では「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」（ともに25.9%）が最も高くなっている。

<図表3-1-7-2 現在の住居形態（世帯構成別）>



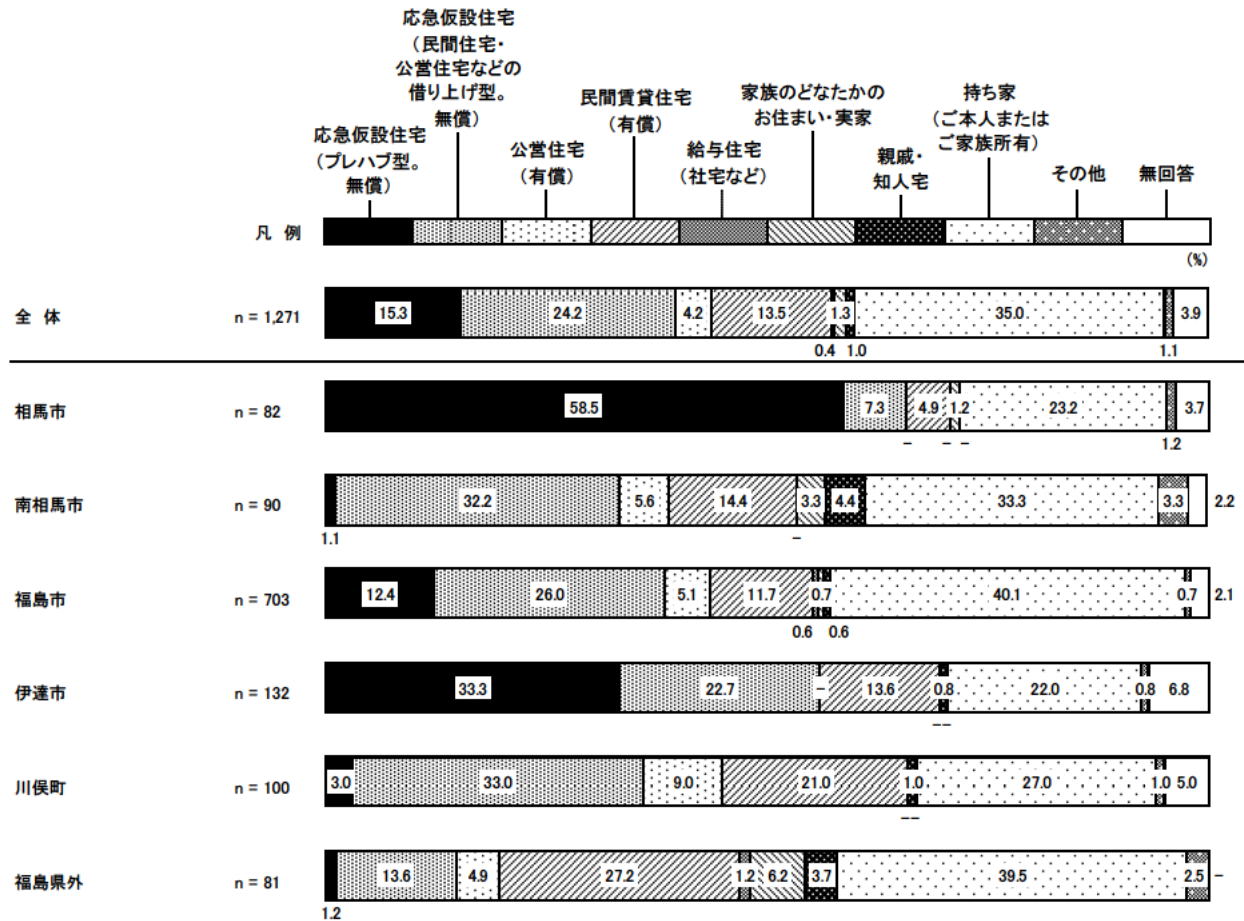
世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は1人（23.7%）が最も高くなっている。一方、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるほど割合が高くなる傾向があり、5人では59.6%、6人では57.6%となっている。

<図表3-1-7-3 現在の住居形態（世帯人数別）>



主な避難先自治体別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は福島市、福島県外で約4割を占めている。また、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借上げ型。無償）」は川俣町（33.0%）、南相馬市（32.2%）、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は相馬市（58.5%）、伊達市（33.3%）で、他の自治体と比べて高くなっている。

<図表3-1-7-4 現在の住居形態（主な避難先自治体別）>



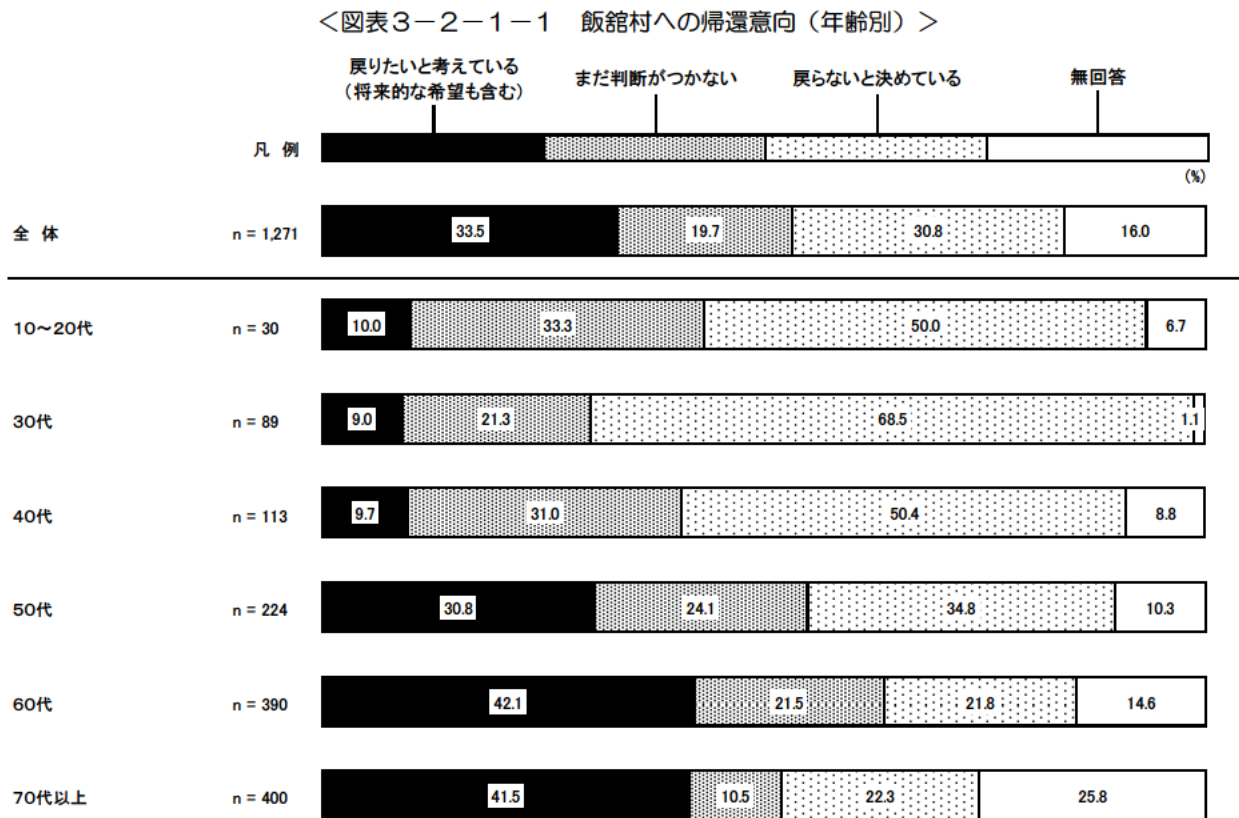
3-2 将来の意向

3-2-1 飯舘村への帰還意向

問9 飯舘村の避難指示が解除された後の飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(〇は1つ)

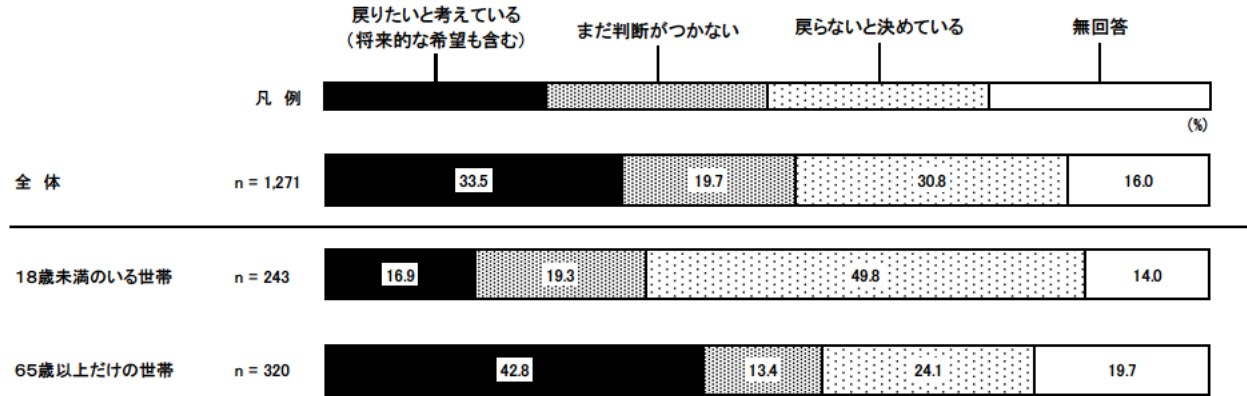
将来、飯舘村の避難指示が解除された後の帰還意向については、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が33.5%と最も高く、次いで「戻らないと決めている」が30.8%、「まだ判断がつかない」が19.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向にあり、60代では42.1%、70代以上では41.5%となっている。



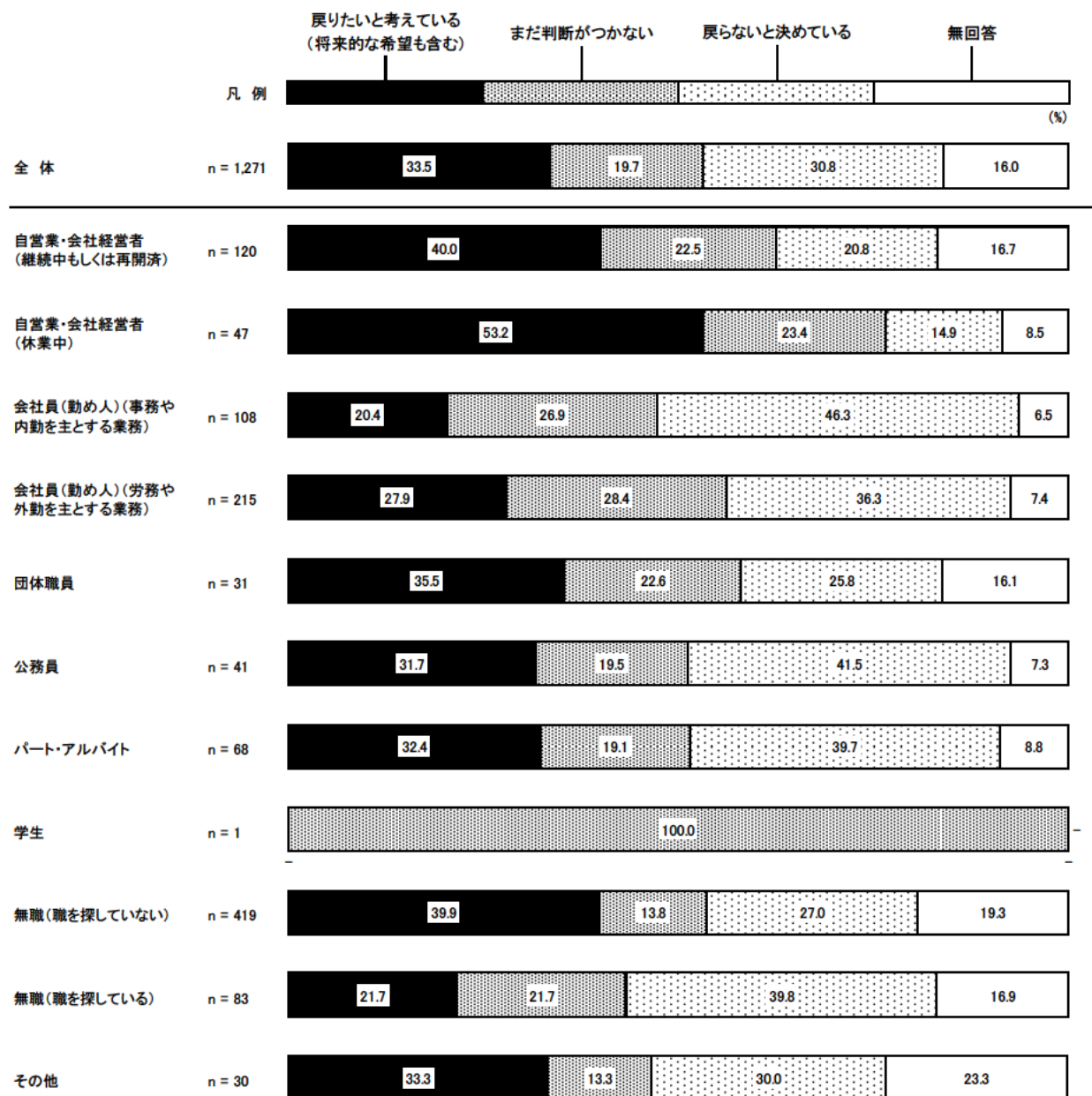
世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「戻らないと決めている」が49.8%と約5割を占める。一方、65歳以上だけの世帯では「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」が42.8%と最も高くなっている。

<図表3-2-1-2 飯舘村への帰還意向（世帯構成別）>



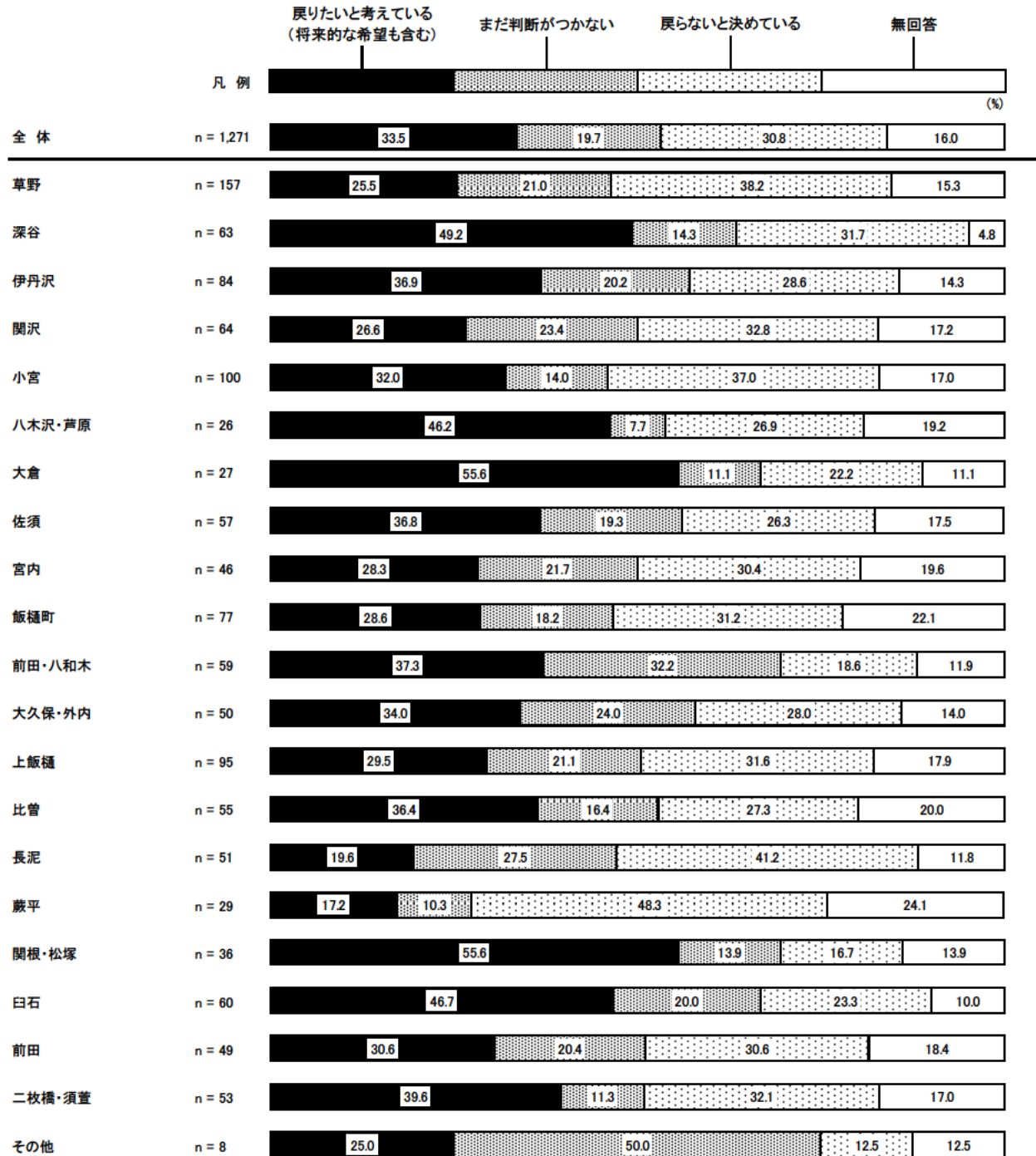
現在の職業別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は自営業・会社経営者（休業中）で53.2%となっており、他の職業と比べて高くなっている。一方、「戻らないと決めている」は会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）で46.3%となっており、他の職業と比べて高くなっている。

<図表3-2-1-3 飯舘村への帰還意向（現在の職業別）>



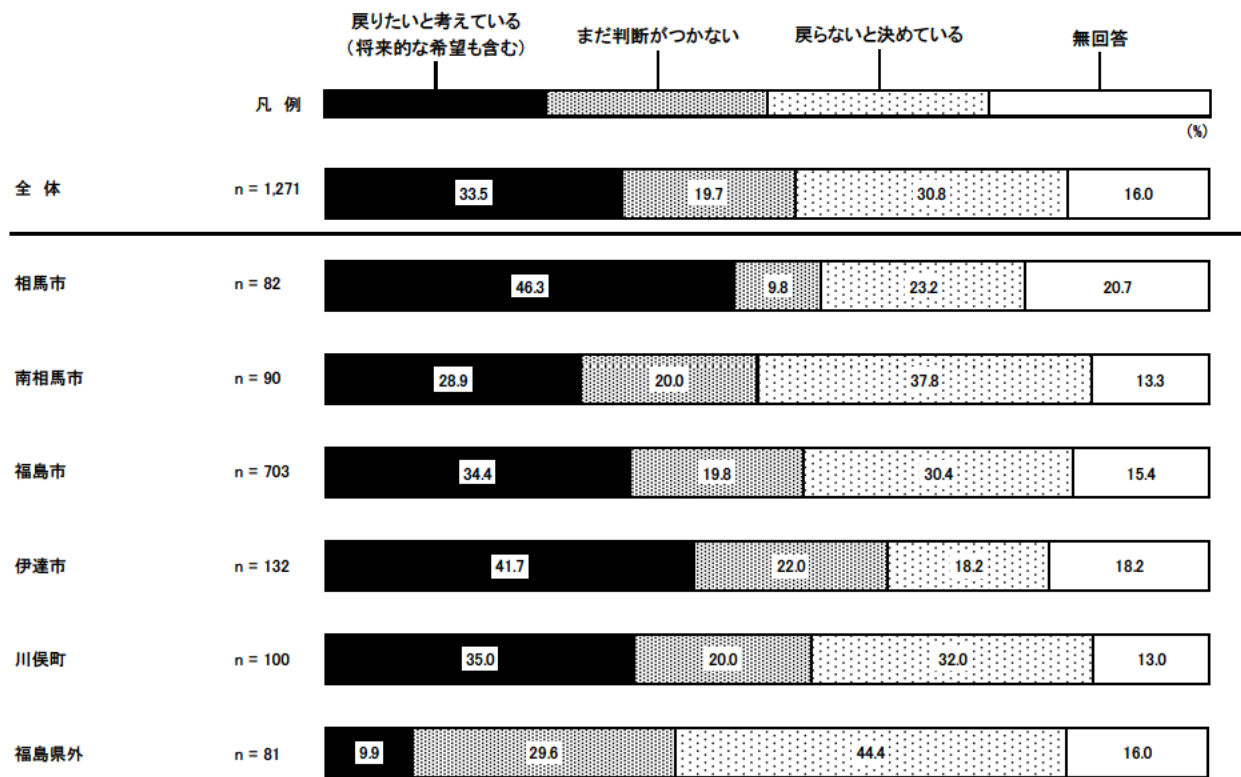
震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は大倉、関根・松塚（ともに55.6%）で、他の居住行政区と比べて高くなっている。

＜図表3-2-1-4 飯舘村への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞



主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」は相馬市で46.3%、伊達市で41.7%となっており、他の避難先自治体と比べて高くなっている。

<図表3-2-1-5 飯舘村への帰還意向（主な避難先自治体別）>



3-2-2 飯舘村への帰還時期

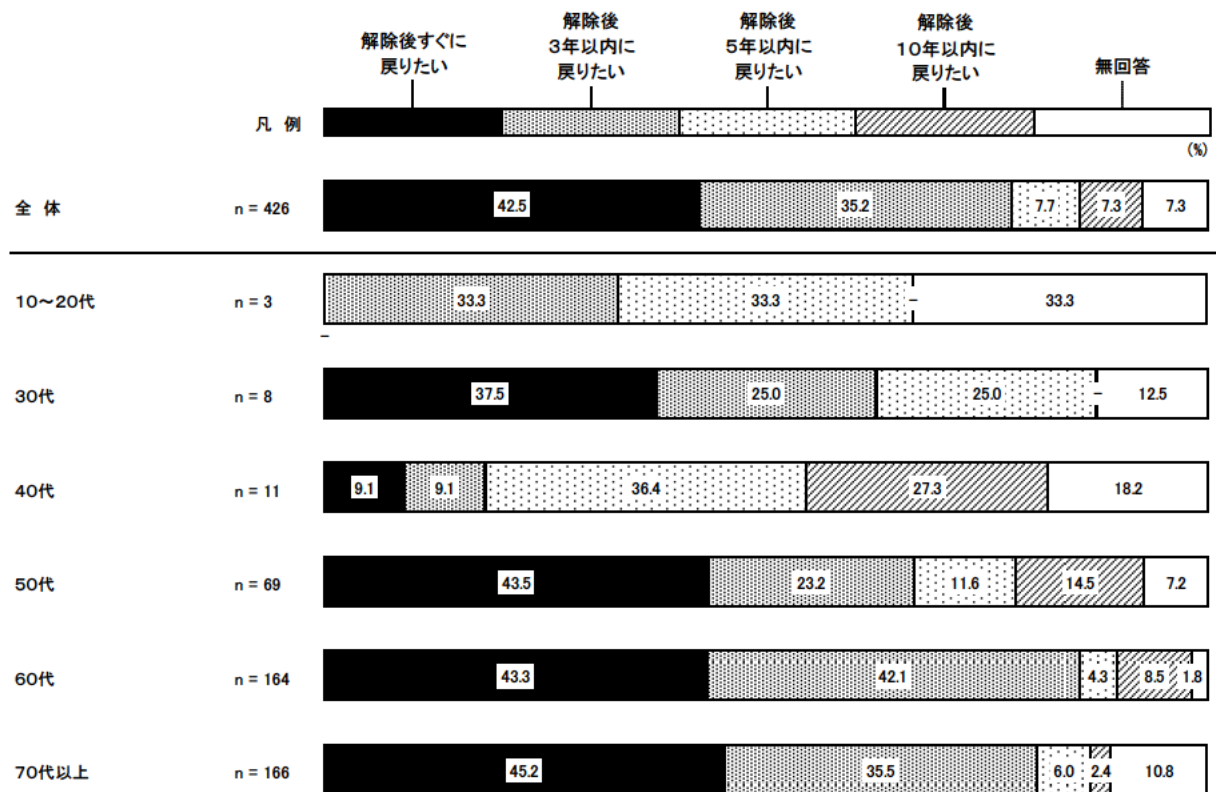
【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問9-1-1 飯舘村へ戻りたい時期を教えてください。（○は1つ）

飯舘村への帰還時期については、「解除後すぐに戻りたい」が42.5%と最も高く、次いで「解除後3年以内に戻りたい」が35.2%、「解除後5年以内に戻りたい」が7.7%となっている。

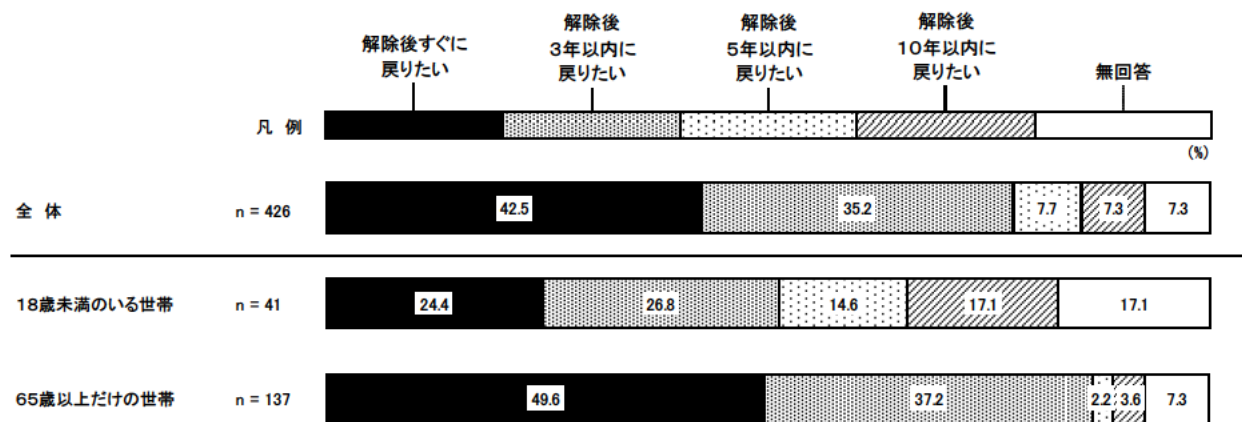
回答者の年齢別にみると、「解除後すぐに戻りたい」は50代以上で4割以上となっている。「解除後3年以内に戻りたい」は60代が42.1%となっており、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-2-1 飯舘村への帰還時期（年齢別）>



世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「解除後すぐに戻りたい」が49.6%と約5割を占めている。

<図表3-2-2-2 飯舘村への帰還時期（世帯構成別）>



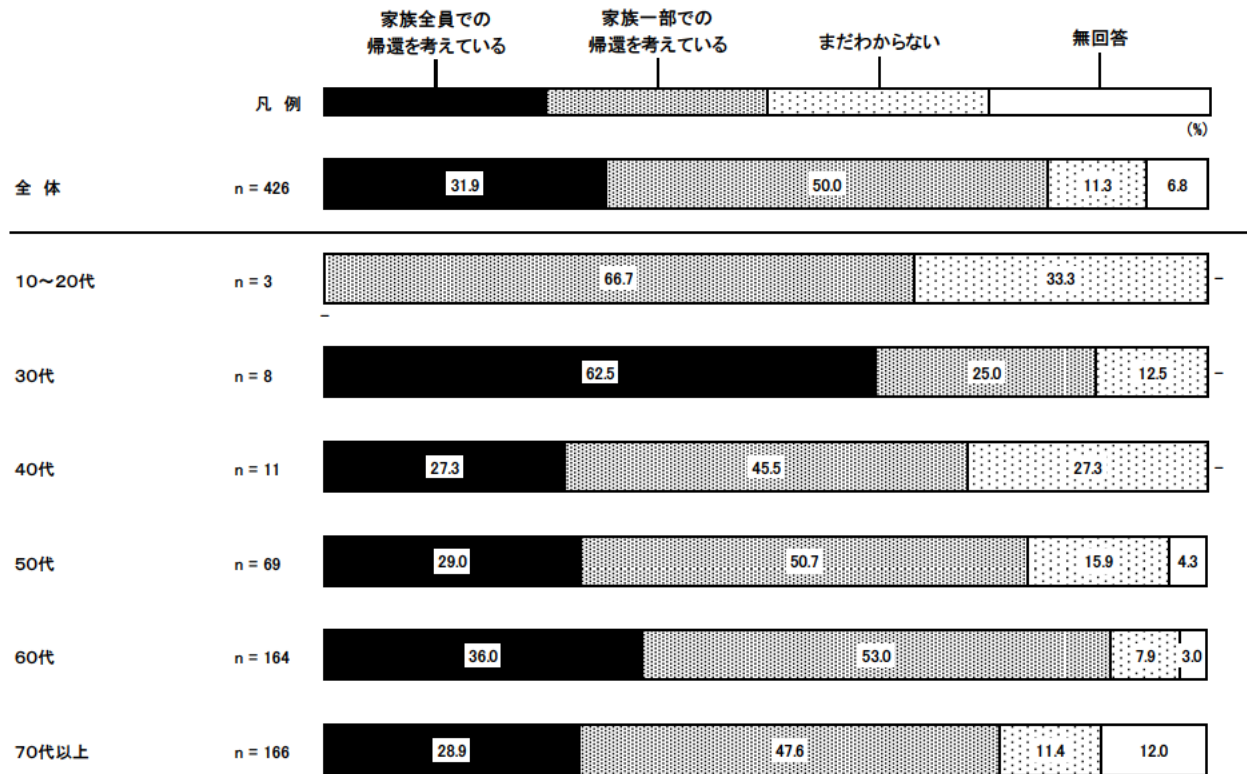
3-2-3 飯舘村へ戻る場合の家族

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問9-1-2 飯舘村へ戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（〇は1つ）

飯舘村へ戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が50.0%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が31.9%、「まだわからない」が11.3%となっている。

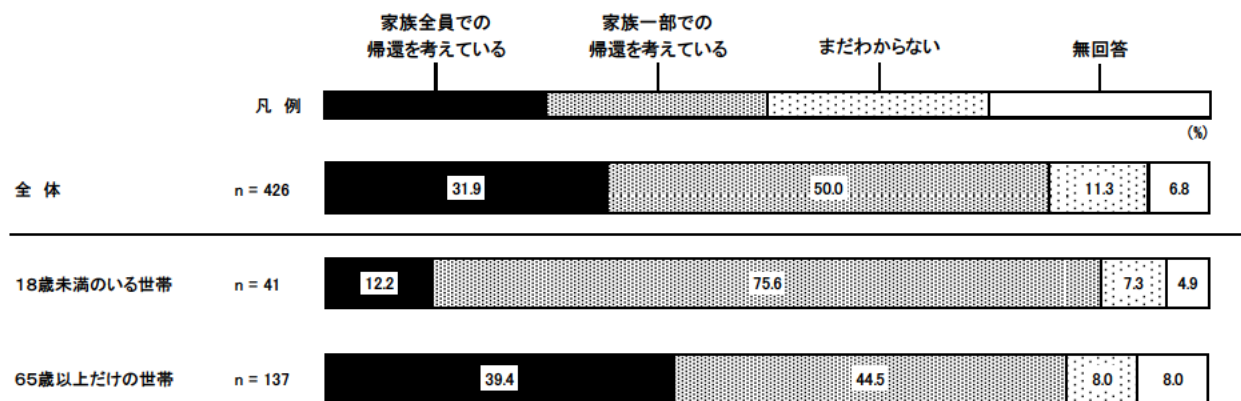
回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は60代（36.0%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-3-1 飯舘村へ戻る場合の家族（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「家族一部での帰還を考えている」が75.6%となっており、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「家族全員での帰還を考えている」が39.4%となっており、18歳未満のいる世帯と比べて高くなっている。

<図表3-2-3-2 飯舘村へ戻る場合の家族（世帯構成別）>

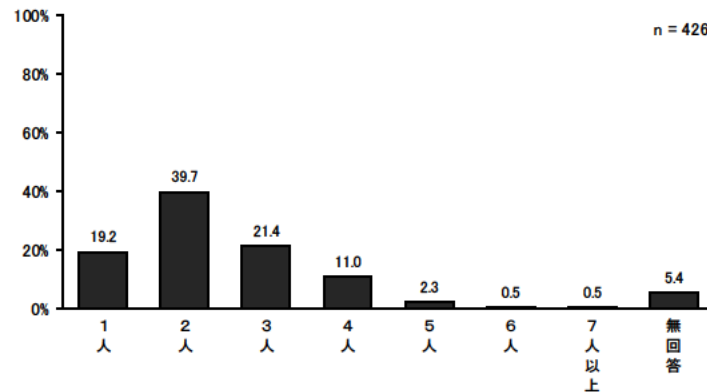


3-2-4 飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。
問10-2 帰還した場合のお住まいに、一緒に住む予定の人数を教えてください。（〇は1つ）

飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数については、「2人」が39.7%と最も高く、次いで「3人」が21.4%、「1人」が19.2%となっている。

<図表3-2-4-1 飯舘村へ戻る場合の住まいに入居する世帯人数>



3-2-5 飯舘村へ帰還する場合の住居形態

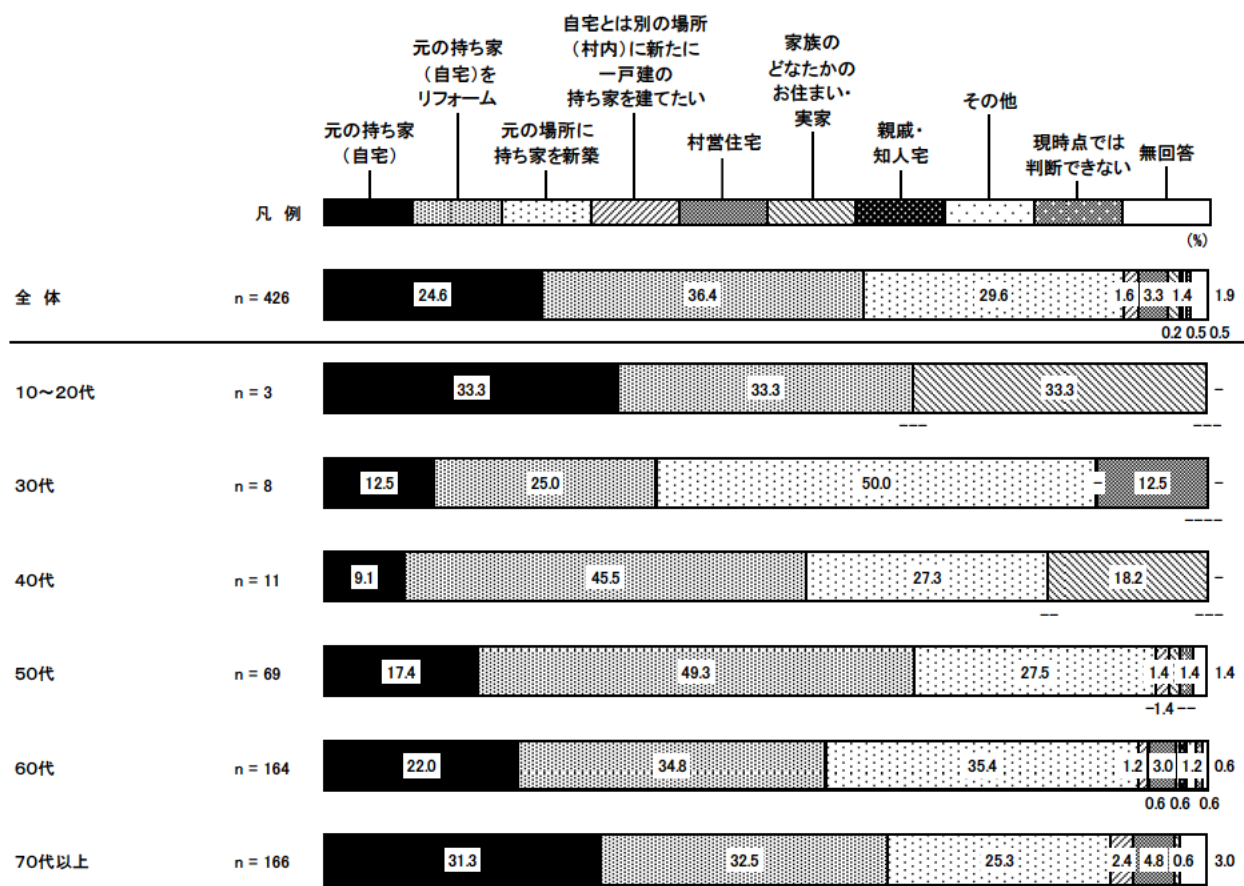
【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問10-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態となりますか、又は希望されますか。（〇は1つ）

飯舘村へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）をリフォーム」が36.4%と最も高く、次いで「元の場所に持ち家を新築」が29.6%、「元の持ち家（自宅）」が24.6%となっている。

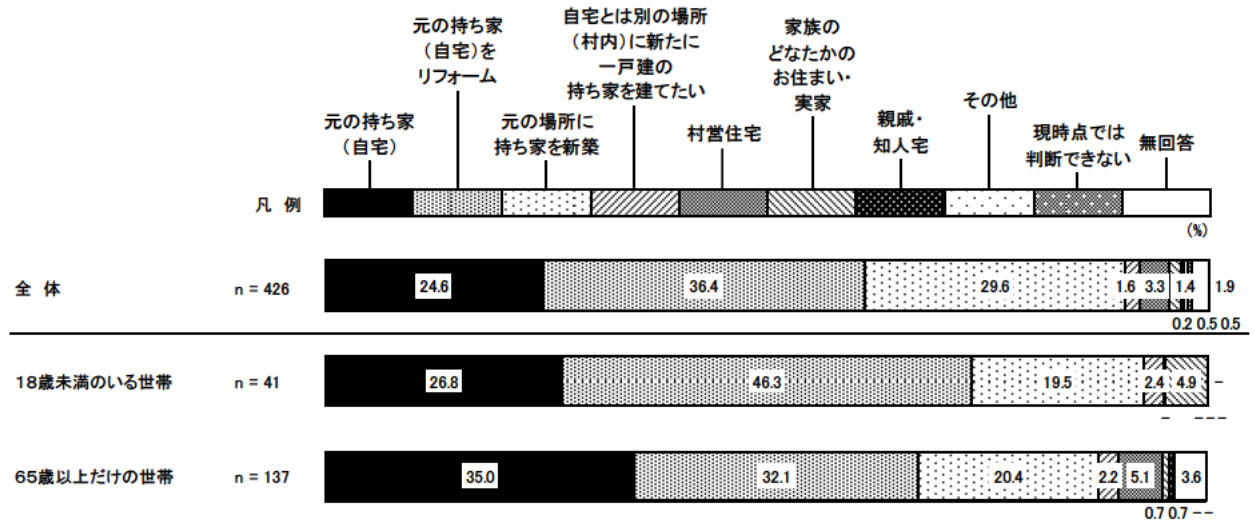
回答者の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）をリフォーム」は50代（49.3%）、「元の場所に持ち家を新築」は60代（35.4%）、「元の持ち家（自宅）」は70代以上（31.3%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-5-1 飯舘村へ帰還する場合の住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「元の持ち家（自宅）をリフォーム」が46.3%と最も高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「元の持ち家（自宅）」が35.0%と最も高くなっている。

<図表3-2-5-2 飯舘村へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）をリフォーム」は大倉、宮内、上飯樋、長泥、二枚橋・須萱で5割以上となっている。

<図表3-2-5-3 飯舘村へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	元の持ち家（自宅）	元の持ち家（自宅）をリフォーム	元の場所に持ち家を新築	建てた（戸建の持ち家を）	（村内）別の場所に	村営住宅	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答
全体	426	24.6	36.4	29.6	1.6	3.3	1.4	0.2	0.5	0.5	1.9	
草野	40	20.0	22.5	35.0	2.5	15.0	5.0	-	-	-	-	
深谷	31	38.7	25.8	29.0	-	6.5	-	-	-	-	-	
伊丹沢	31	25.8	19.4	38.7	-	3.2	-	-	-	-	12.9	
関沢	17	11.8	47.1	35.3	5.9	-	-	-	-	-	-	
小宮	32	25.0	28.1	37.5	3.1	3.1	-	-	-	-	3.1	
八木沢・芦原	12	16.7	33.3	33.3	-	-	16.7	-	-	-	-	
大倉	15	6.7	66.7	13.3	13.3	-	-	-	-	-	-	
佐須	21	28.6	33.3	33.3	-	4.8	-	-	-	-	-	
宮内	13	7.7	53.8	38.5	-	-	-	-	-	-	-	
飯樋町	22	36.4	27.3	22.7	4.5	4.5	-	-	4.5	-	-	
前田・八和木	22	22.7	45.5	22.7	-	-	-	-	4.5	4.5	-	
大久保・外内	17	35.3	47.1	11.8	-	-	5.9	-	-	-	-	
上飯樋	28	17.9	53.6	21.4	-	-	-	-	-	3.6	3.6	
比叡	20	25.0	30.0	45.0	-	-	-	-	-	-	-	
長泥	10	10.0	50.0	30.0	-	-	-	10.0	-	-	-	
蕨平	5	60.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	
関根・松塚	20	10.0	30.0	60.0	-	-	-	-	-	-	-	
臼石	28	39.3	35.7	14.3	-	3.6	3.6	-	-	-	3.6	
前田	15	20.0	33.3	26.7	6.7	6.7	-	-	-	-	6.7	
二枚橋・須萱	21	28.6	57.1	14.3	-	-	-	-	-	-	-	
その他	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	

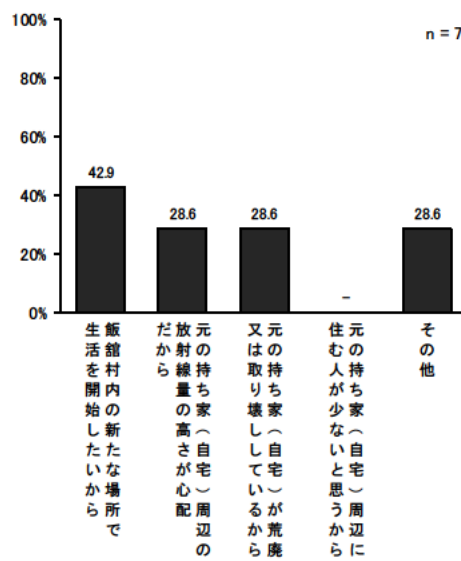
3-2-6 飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 10-3 で「4. 自宅とは別の場所（村内）に新たに一戸建の持ち家を建てたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 自宅とは別の場所を希望される理由は、何ですか。（〇はいくつでも）

飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「飯舘村内の新たな場所で生活を開始したいから」が42.9%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「元の持ち家（自宅）が荒廃又は取り壊ししているから」がともに28.6%となっている。

<図表3-2-6-1 飯舘村へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



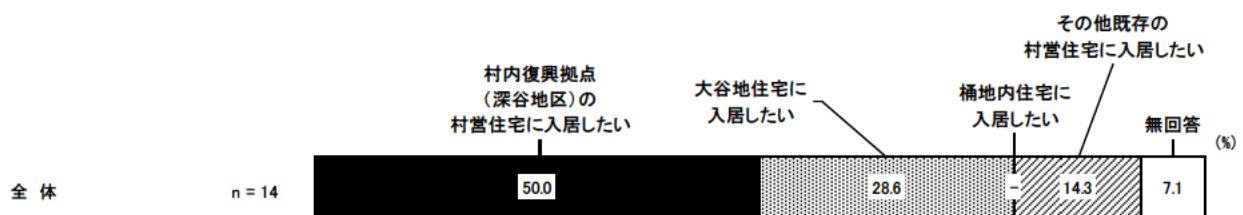
3-2-7 村営住宅への入居意向

【問 10-3 で「5.村営住宅」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 村では、自宅に戻っても一人暮らしが難しい高齢者や、村内で働く方などのための村営住宅（復興住宅）を深谷地区の村内復興拠点エリアに建設する予定です。また、草野大谷地地区、飯樋桶地内地区にも新しく村営住宅の建設を予定しています。村営住宅が建設された場合、入居を希望しますか。（〇は1つ）

村営住宅への入居意向については、「村内復興拠点（深谷地区）の村営住宅に入居したい」が 50.0%、次いで「大谷地住宅に入居したい」が 28.6%となっている。

＜図表3-2-7-1 村営住宅への入居意向＞



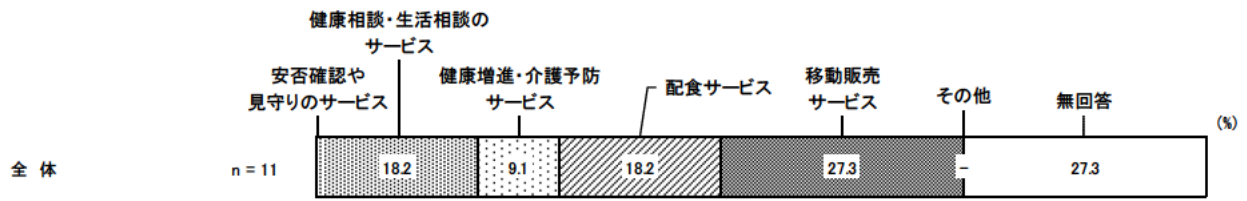
3-2-8 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望するサービス

【問 10-5 で「1.村内復興拠点（深谷地区）の村営住宅に入居したい」「2.大谷地住宅に入居したい」「3.桶地内住宅に入居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-6 新しく整備を計画している村営住宅について、どのようなサービスがあればよいと考えますか。
（〇は1つ）

村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望するサービスについては、「移動販売サービス」が 27.3% と最も高く、次いで「健康相談・生活相談のサービス」、「配食サービス」がともに 18.2% となっている。

<図表3-2-8-1 村営住宅（村が今後村内に整備する住宅）で希望するサービス>



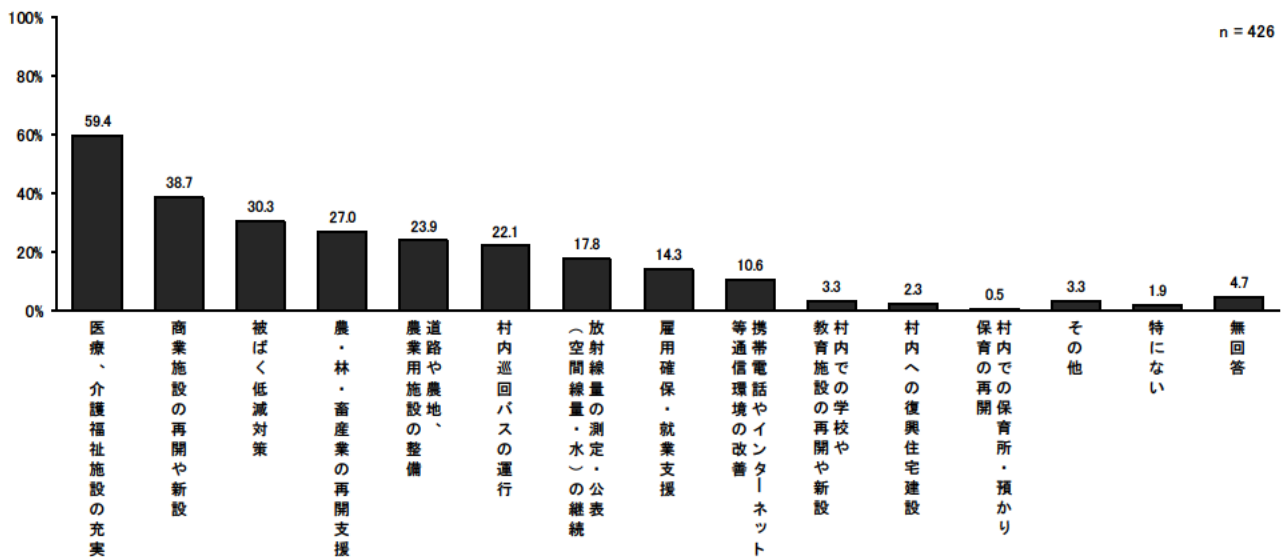
3-2-9 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問10-1 飯舘村に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。
 （特に重要と思うものに3つまで○）

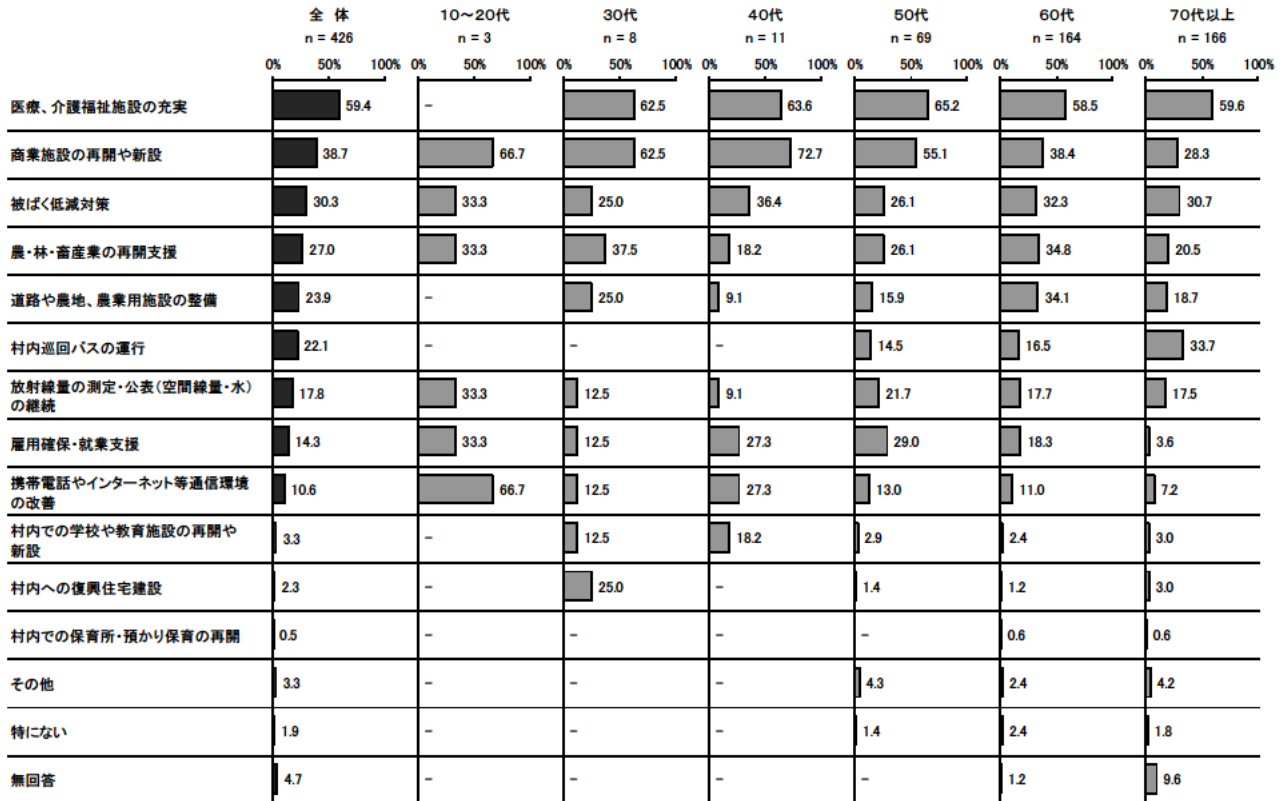
飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療、介護福祉施設の充実」が59.4%と最も高く、次いで「商業施設の再開や新設」が38.7%、「被ばく低減対策」が30.3%となっている。

<図表3-2-9-1 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援>



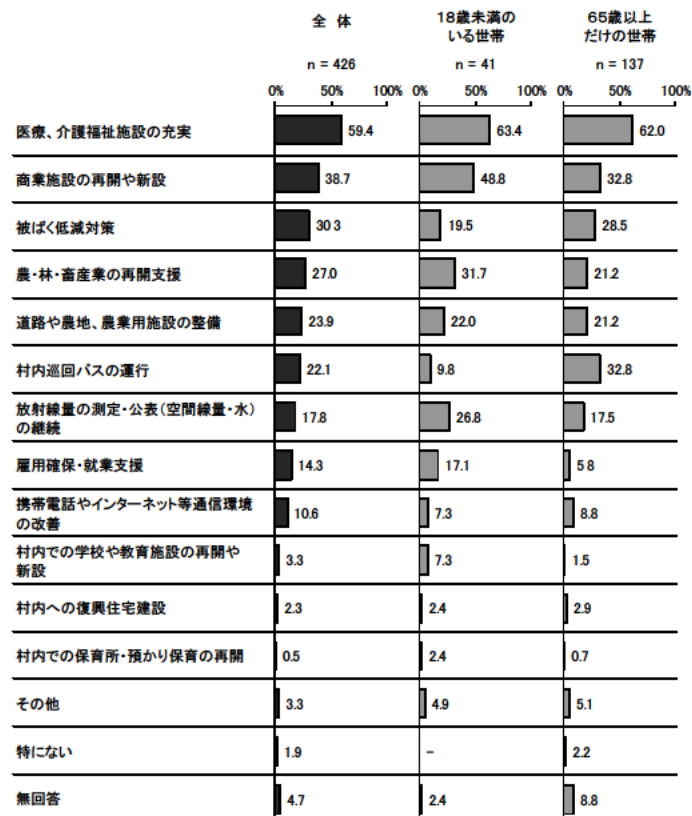
回答者の年齢別にみると、50代では「医療、介護福祉施設の充実」(65.2%)、「商業施設の再開や新設」(55.1%)、「雇用確保・就業支援」(29.0%)が、60代では「道路や農地、農業用施設の整備」(34.1%)、70代以上では「村内巡回バスの運行」(33.7%)が、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-9-2 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援(年齢別)>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「商業施設の再開や新設」(48.8%)、「農・林・畜産業の再開支援」(31.7%)、「放射線量の測定・公表(空間線量・水)の継続」(26.8%)、「雇用確保・就業支援」(17.1%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「被ばく低減対策」(28.5%)、「村内巡回バスの運行」(32.8%)が、18歳未満のいる世帯と比べて高くなっている。

<図表3-2-9-3 飯舘村へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



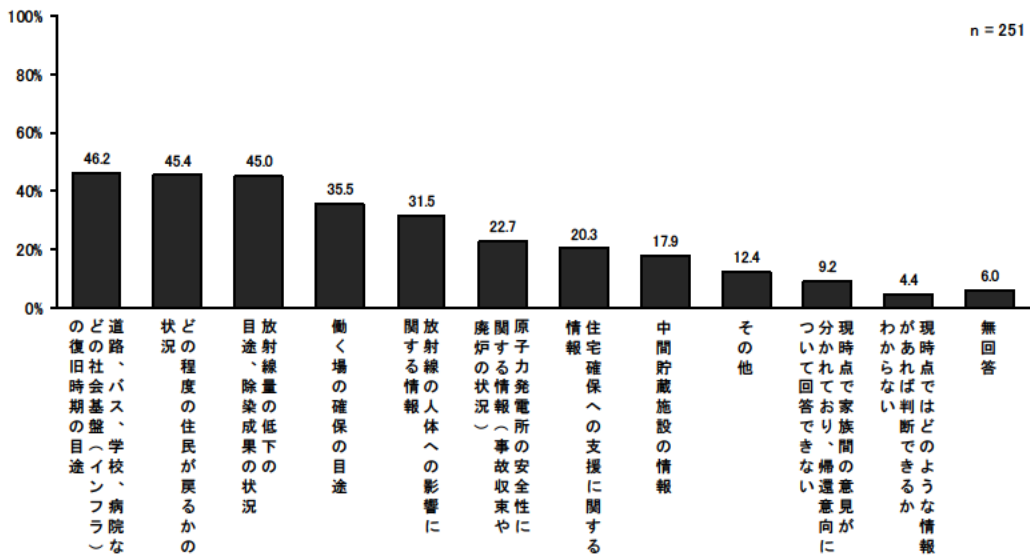
3-2-10 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問9で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問9-2-1 飯舘村へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。(〇はいくつでも)

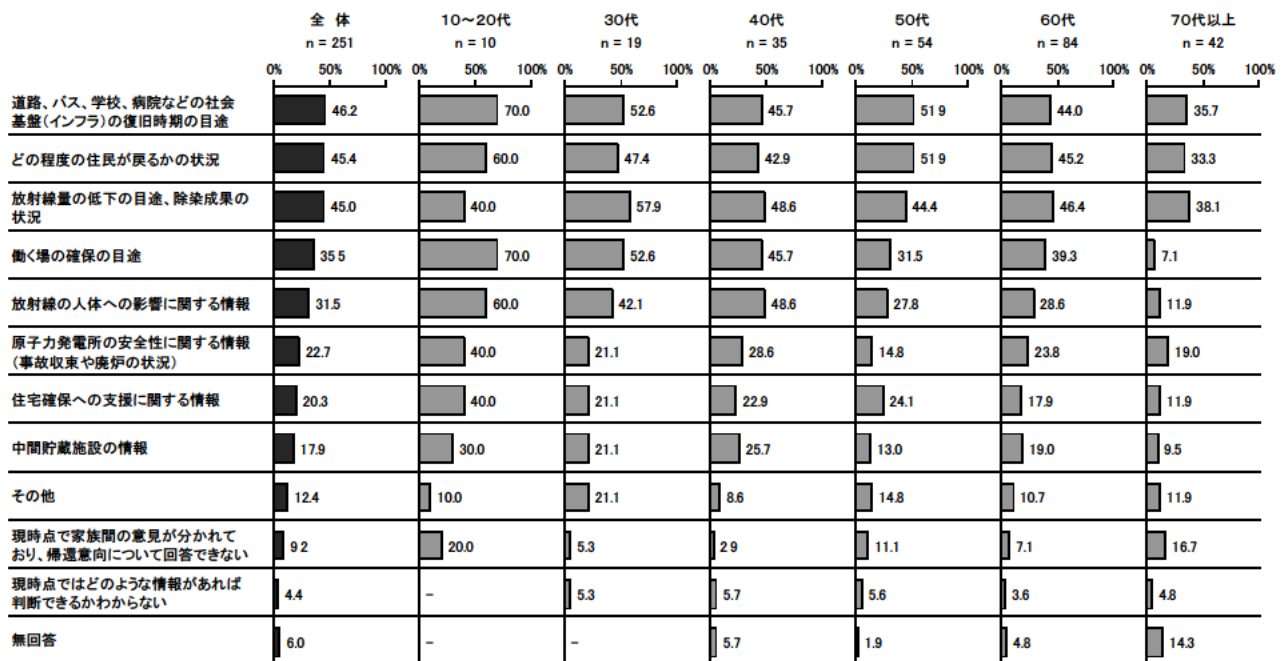
飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、バス、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が46.2%と最も高く、次いで「どの程度の住民が戻るかの状況」が45.4%、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が45.0%となっている。

<図表3-2-10-1 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報>



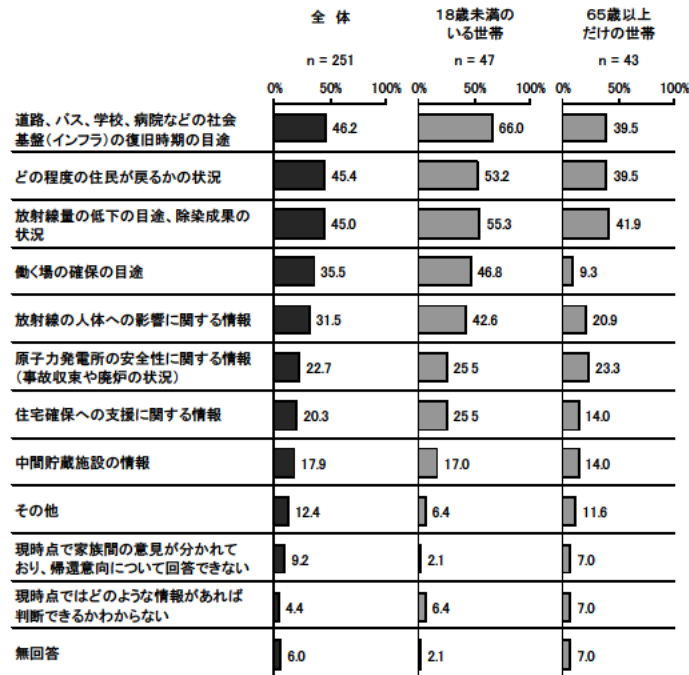
回答者の年齢別にみると、40代では「働く場の確保の目的」(45.7%)、「放射線の人体への影響に関する情報」(48.6%)、「中間貯蔵施設の情報」(25.7%)が、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-10-2 飯館村への帰還を判断する上で必要と思う情報(年齢別)>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「道路、バス、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」（66.0%）、「どの程度の住民が戻るかの状況」（53.2%）、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」（55.3%）、「働く場の確保の目途」（46.8%）、「放射線の人体への影響に関する情報」（42.6%）、「住宅確保への支援に関する情報」（25.5%）が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

<図表3-2-10-3 飯舘村への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）>



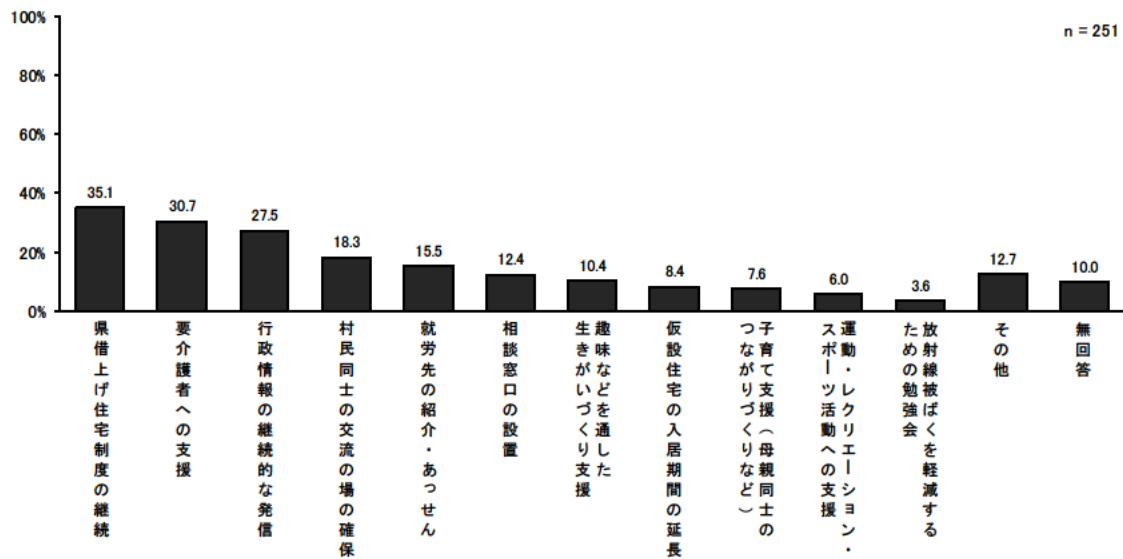
3-2-11 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援

【問9で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問11 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

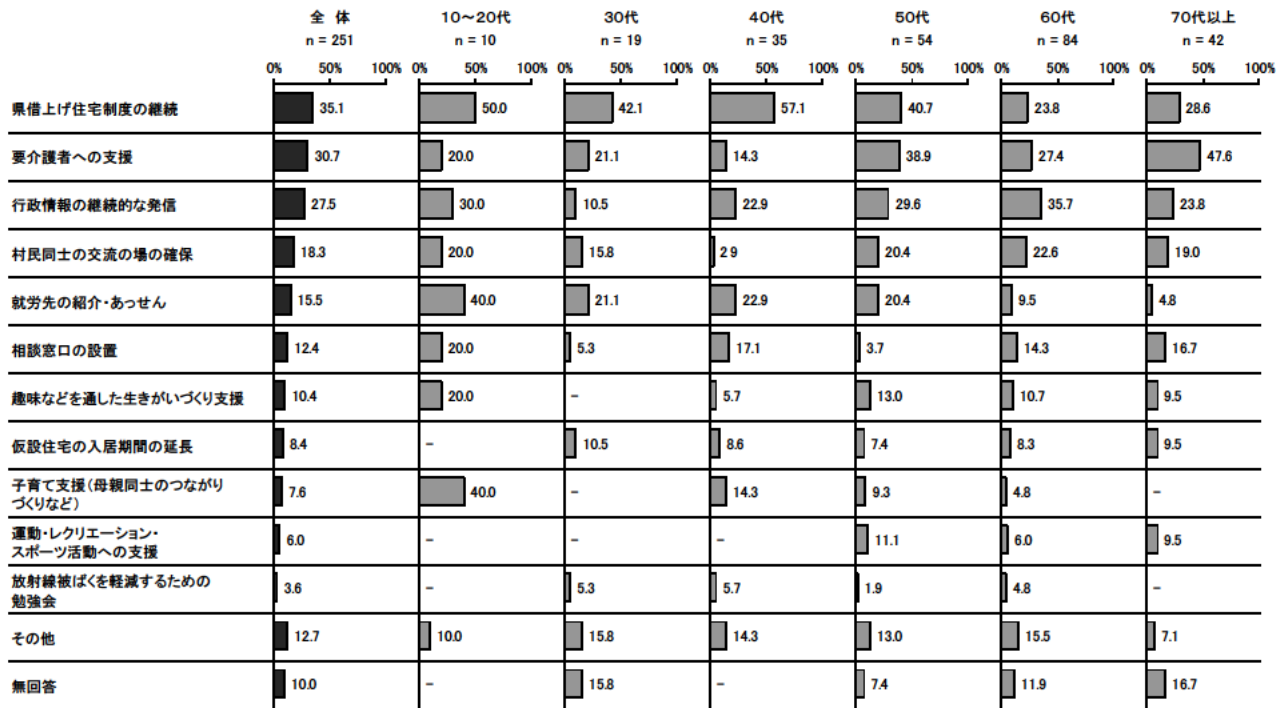
飯舘村への帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援については、「県借上げ住宅制度の継続」が35.1%と最も高く、次いで「要介護者への支援」が30.7%、「行政情報の継続的な発信」が27.5%となっている。

＜図表3-2-11-1 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援＞



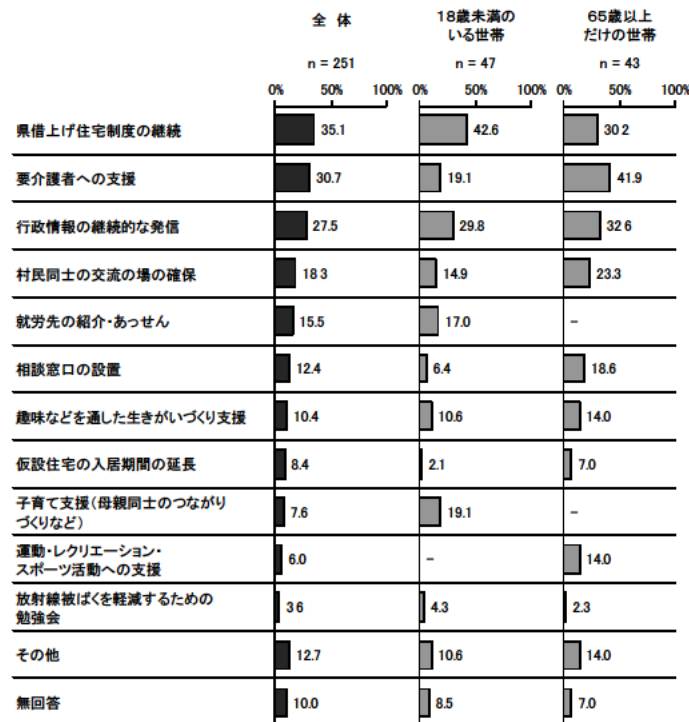
回答者の年齢別にみると、「県借上げ住宅制度の継続」は40代（57.1%）、「要介護者への支援」は70代以上（47.6%）、「行政情報の継続的な発信」は60代（35.7%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

＜図表3-2-11-2 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「県借り上げ住宅制度の継続」(42.6%)、「就労先の紹介・あっせん」(17.0%)、「子育て支援(母親同士のつながりづくりなど)」(19.1%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「要介護者への支援」(41.9%)、「村民同士の交流の場の確保」(23.3%)、「相談窓口の設置」(18.6%)、「運動・レクリエーション・スポーツ活動への支援」(14.0%)が、18歳未満のいる世帯と比べて高くなっている。

<図表3-2-11-3 帰還の判断がつかない場合の、今後の生活において必要な支援(世帯構成別)>



3-2-12 現時点で戻らないと決めている理由

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

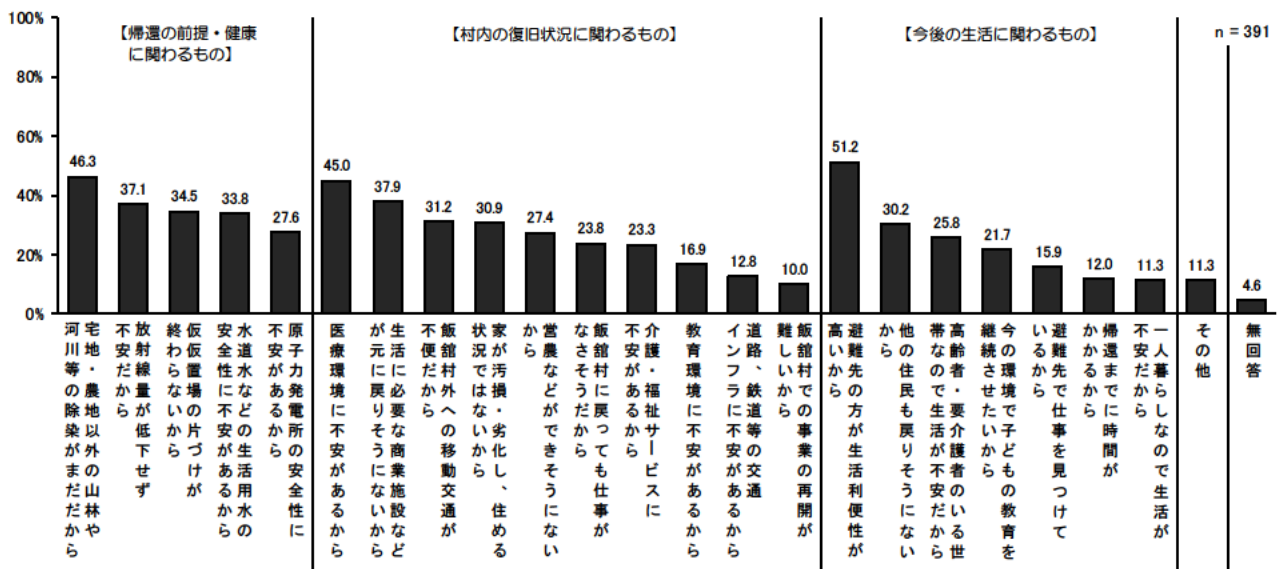
問12-1 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由について、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから」が46.3%と最も高く、次いで「放射線量が低下せず不安だから」が37.1%、「仮仮置場の片づけが終わらないから」が34.5%となっている。

【村内の復旧状況に関わるもの】では、「医療環境に不安があるから」が45.0%と最も高く、次いで「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が37.9%、「飯館村外への移動交通が不便だから」が31.2%となっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」が51.2%と最も高く、次いで「他の住民も戻りそうにないから」が30.2%、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」が25.8%となっている。

<図表3-2-12-1 現時点で戻らないと決めている理由>

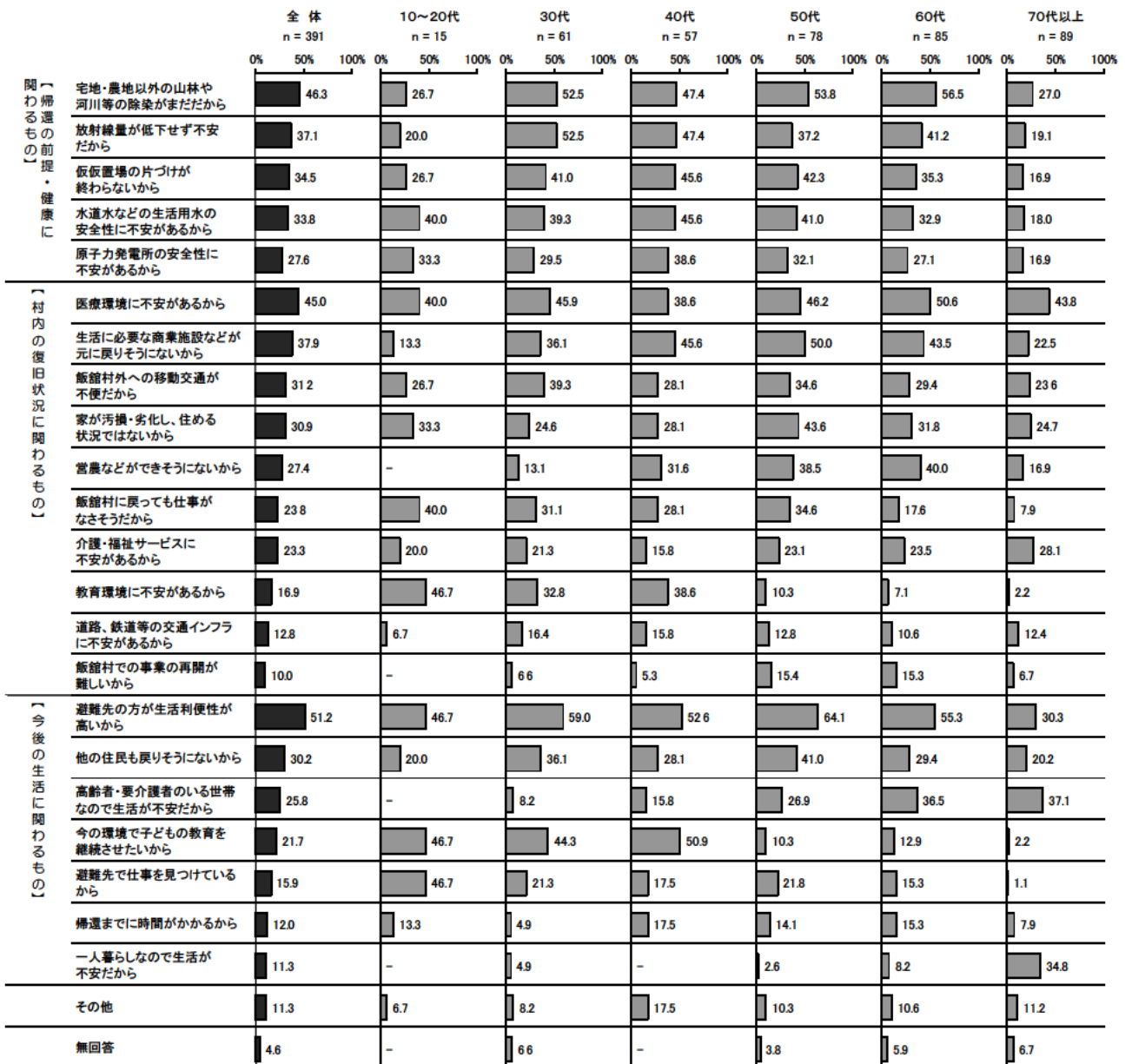


回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、「放射線量が低下せず不安だから」は30代（52.5%）、「原子力発電所の安全性に不安があるから」は40代（38.6%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

【村内の復旧状況に関わるもの】では、「飯館村外への移動交通が不便だから」は30代（39.3%）、「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」は50代（43.6%）、「営農などができそうにないから」は50代（38.5%）、60代（40.0%）、「教育環境に不安があるから」は30代（32.8%）、40代（38.6%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、「避難先の方が生活利便性が高いから」は30代（59.0%）、50代（64.1%）、「他の住民も戻りそうにないから」は30代（36.1%）、50代（41.0%）、「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」は60代（36.5%）、70代以上（37.1%）、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は30代（44.3%）、40代（50.9%）、「一人暮らしなので生活が不安だから」は70代以上（34.8%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-12-2 現時点で戻らないと決めている理由（年齢別）>

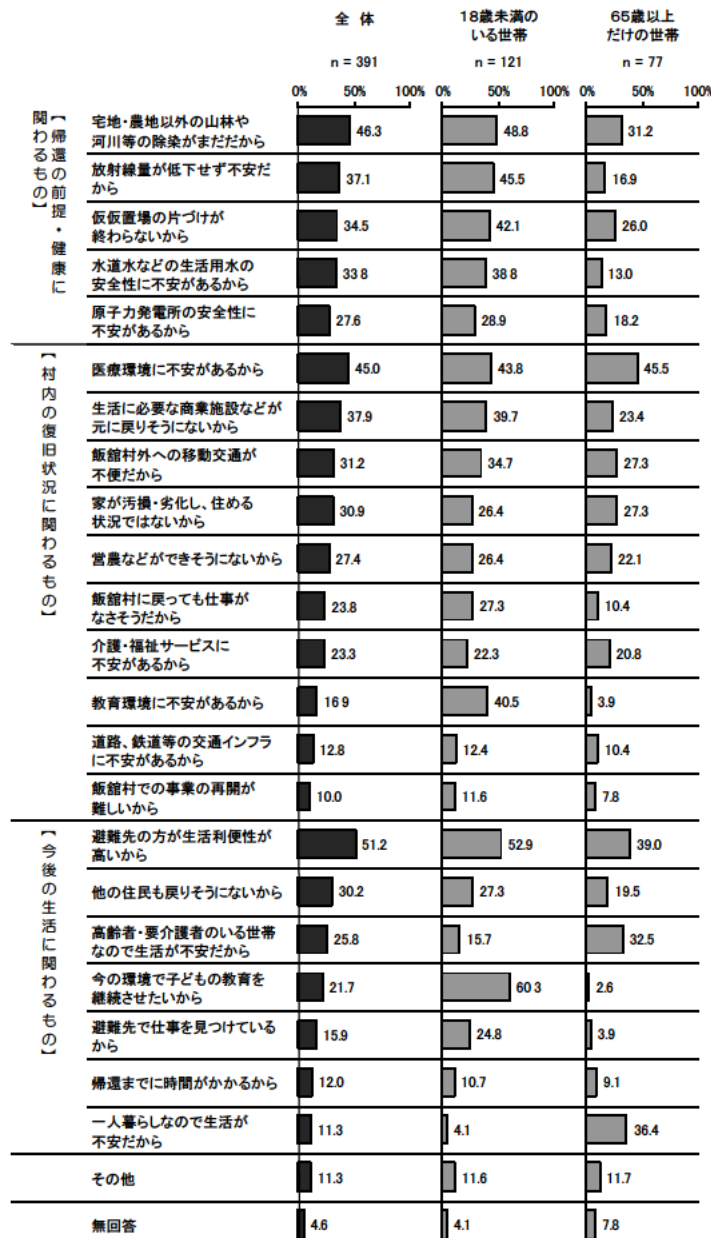


世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから」(48.8%)、「放射線量が低下せず不安だから」(45.5%)、「仮置き場の片づけが終わらないから」(42.1%)、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」(38.8%)、「原子力発電所の安全性に不安があるから」(28.9%)のいずれも、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

【村内の復旧状況に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(39.7%)、「飯館村外への移動交通が不便だから」(34.7%)、「飯館村に戻っても仕事がなさそうだから」(27.3%)、「教育環境に不安があるから」(40.5%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。

【今後の生活に関わるもの】では、18歳未満のいる世帯では「避難先の方が生活利便性が高いから」(52.9%)、「他の住民も戻りそうにないから」(27.3%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(60.3%)、「避難先で仕事を見つけているから」(24.8%)が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」(32.5%)、「一人暮らしなので生活が不安だから」(36.4%)が、18歳未満のいる世帯と比べて高くなっている。

<図表3-2-12-3 現時点で戻らないと決めている理由(世帯構成別)>



3-2-13 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態

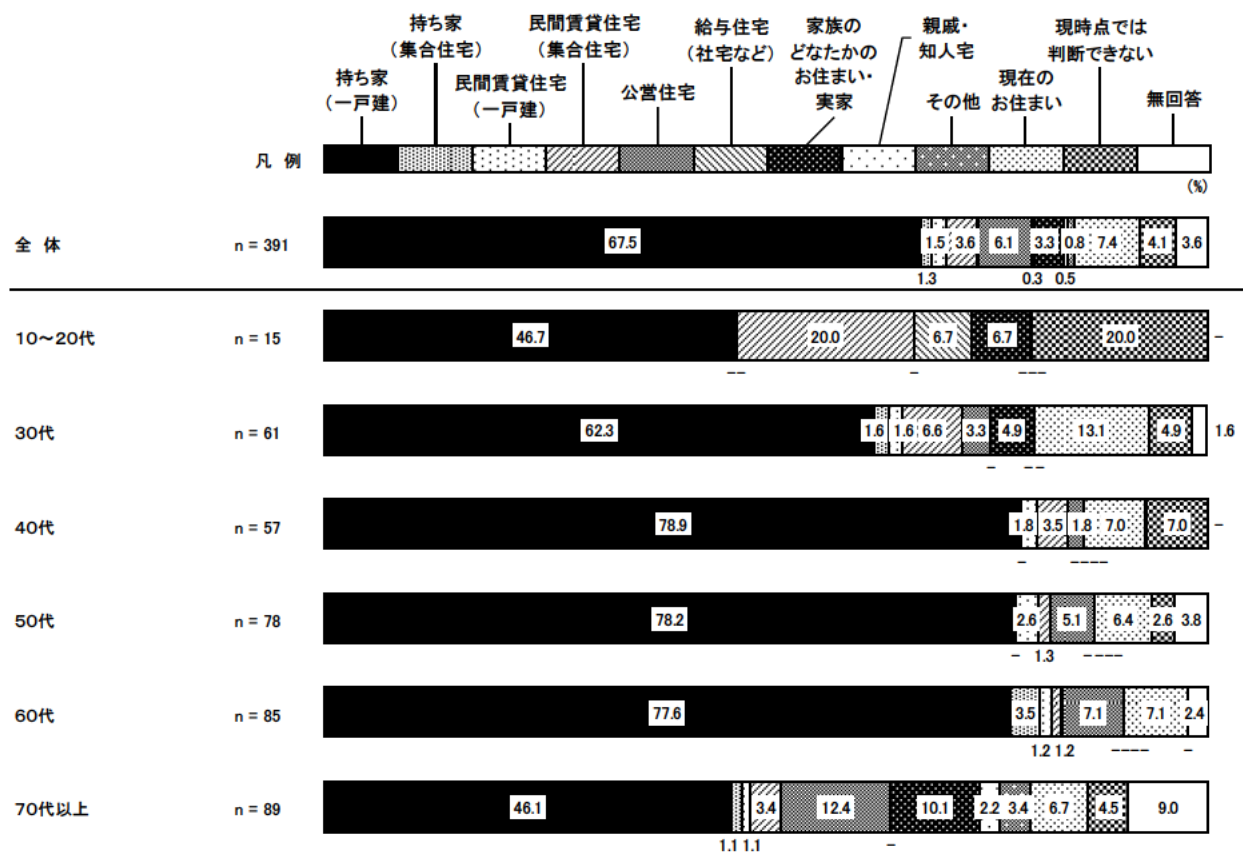
【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-2 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（〇は1つ）

帰還せず別の自治体に転居する場合に希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が67.5%と最も高く、次いで「現在のお住まい」が7.4%、「公営住宅」が6.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「持ち家（一戸建）」の割合が最も高くなっている。また、「現在のお住まい」は30代（13.1%）、「公営住宅」は70代以上（12.4%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-13-1 帰還しない場合に今後の住まいとして希望する住居形態（年齢別）>



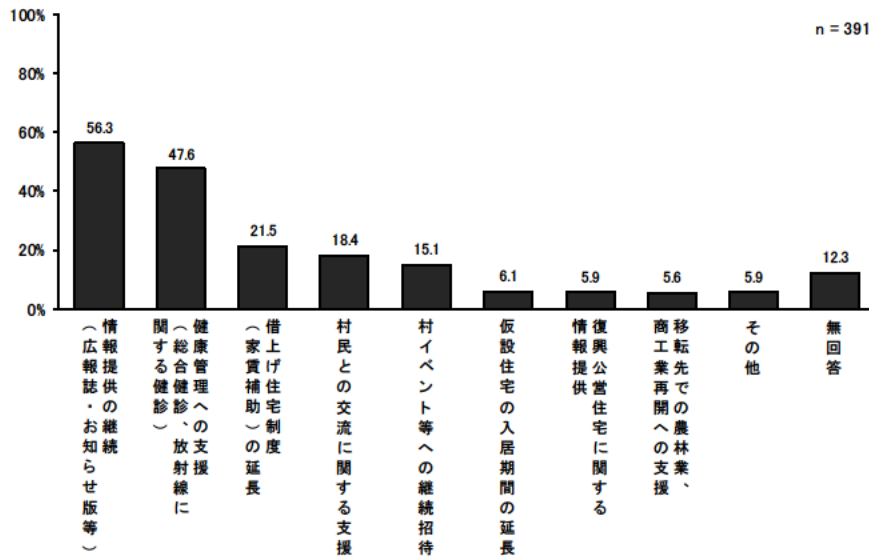
3-2-14 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問12-3 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

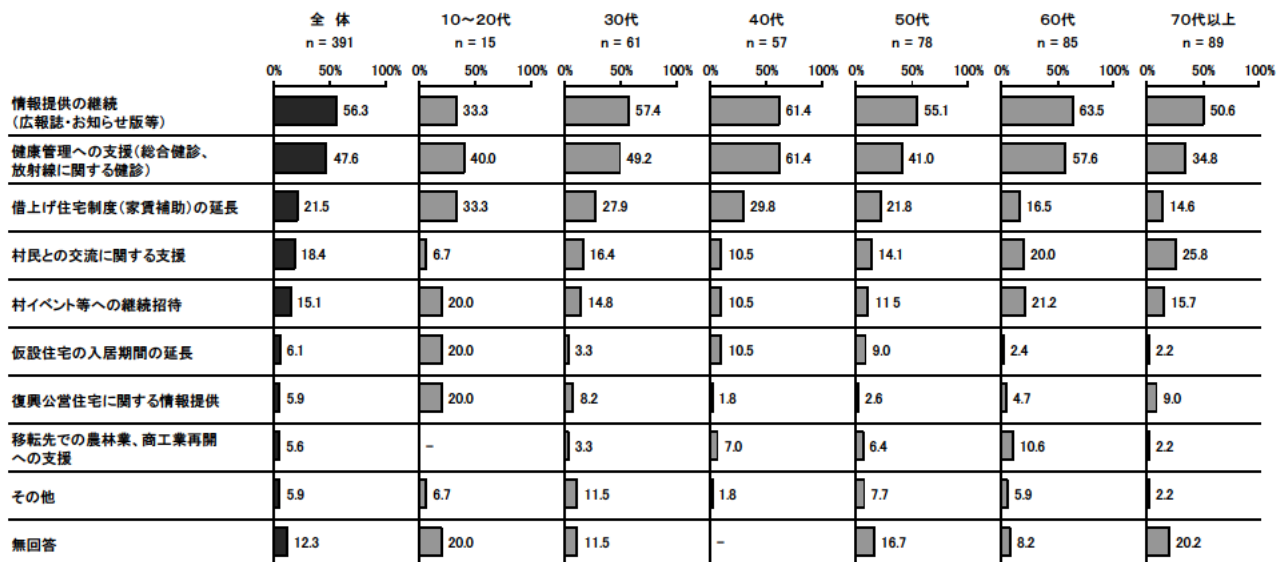
飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援については、「情報提供の継続（広報誌・お知らせ版等）」が56.3%と最も高く、次いで「健康管理への支援（総合健診、放射線に関する健診）」が47.6%、「借上げ住宅制度（家賃補助）の延長」が21.5%となっている。

<図表3-2-14-1 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援>



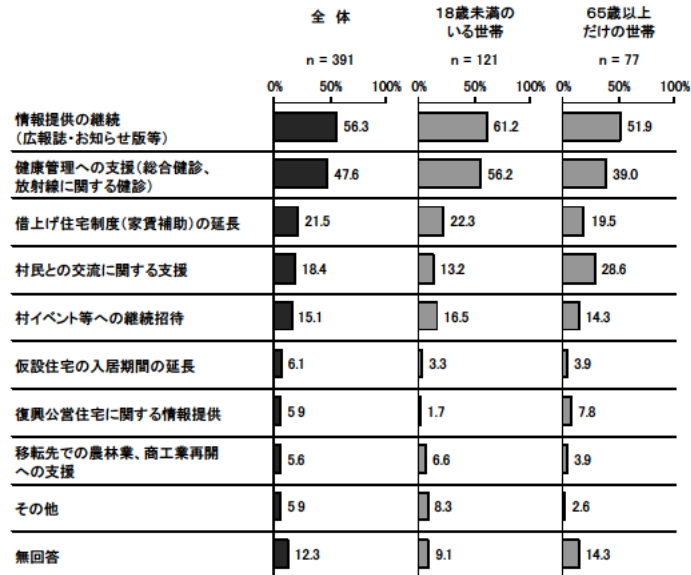
回答者の年齢別にみると、「健康管理への支援（総合健診、放射線に関する健診）」は40代（61.4%）、60代（57.6%）、「借上げ住宅制度（家賃補助）の延長」は30代（27.9%）、40代（29.8%）、「村民との交流に関する支援」は70代以上（25.8%）、「村イベント等への継続招待」は60代（21.2%）で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-2-14-2 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）>



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「情報提供の継続（広報誌・お知らせ版等）」（61.2%）、「健康管理への支援（総合健診、放射線に関する健診）」（56.2%）が、65歳以上だけの世帯と比べて高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「村民との交流に関する支援」（28.6%）が、18歳未満のいる世帯と比べて高くなっている。

<図表3-2-14-3 飯舘村へ帰還しない場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）>



3-2-15 飯舘村との“つながり”を保ちたいか

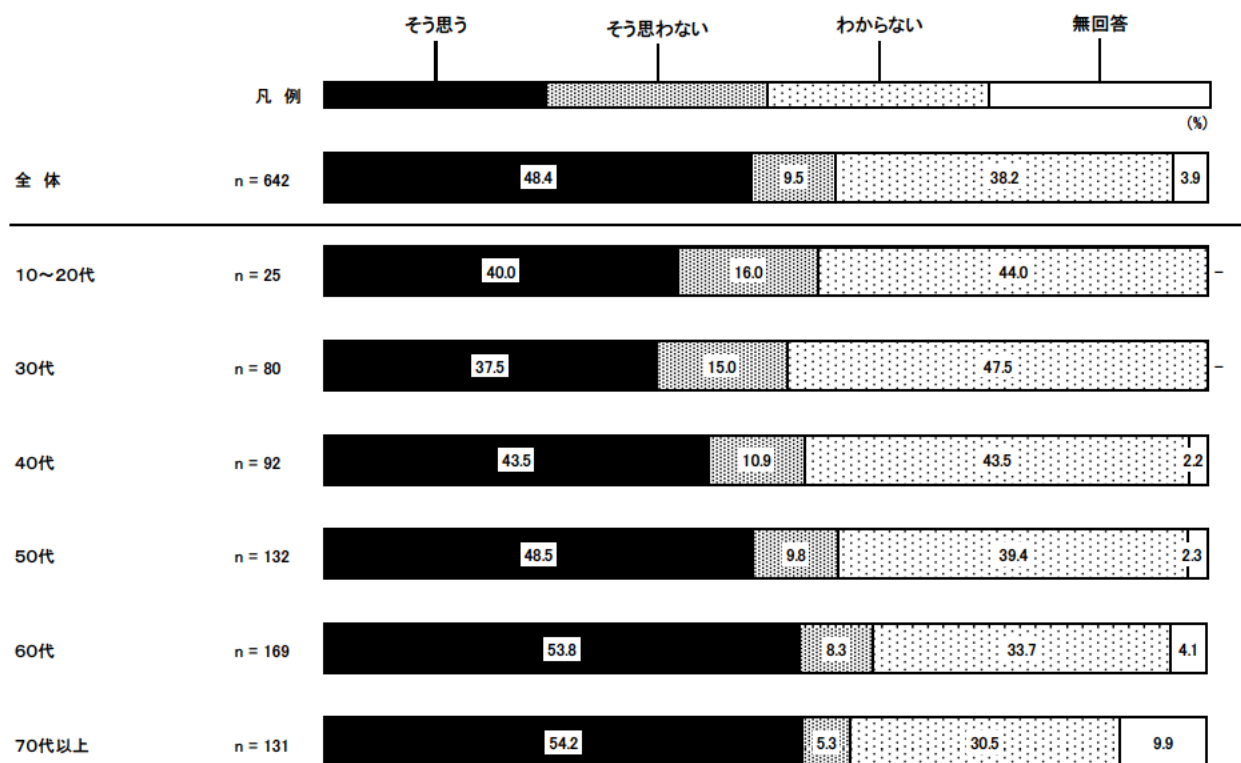
【問9で「2. まだ判断がつかない」「3. 戻らないと決めている」と回答した方にかがいます。】

問9-2-2、問9-3 今後も行政参加や住民同士のコミュニティ等、飯舘村との“つながり”を保ちたいと思いますか。(〇は1つ)

飯舘村との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」が48.4%と最も高く、次いで「わからない」が38.2%、「そう思わない」が9.5%となっている。

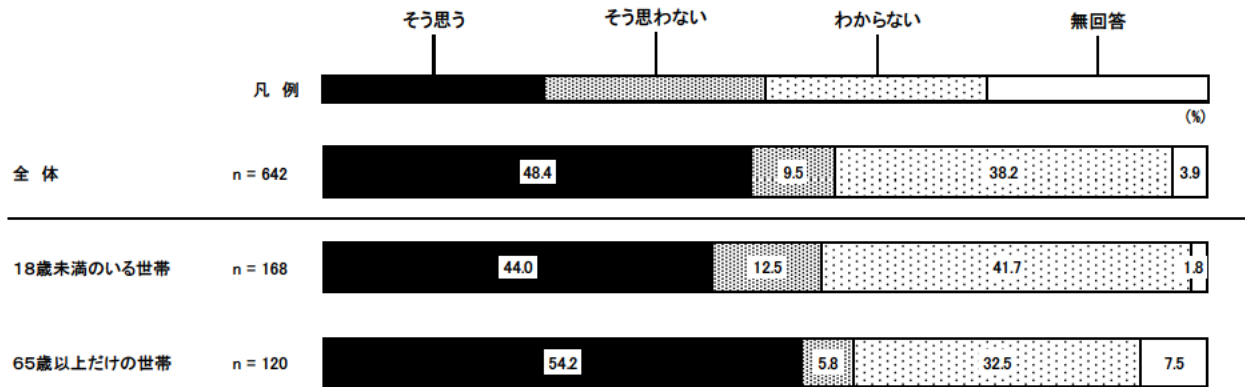
回答者の年齢別にみると、60代以上では「そう思う」が過半数を占めている。

<図表3-2-15-1 飯舘村との“つながり”を保ちたいか(年齢別)>

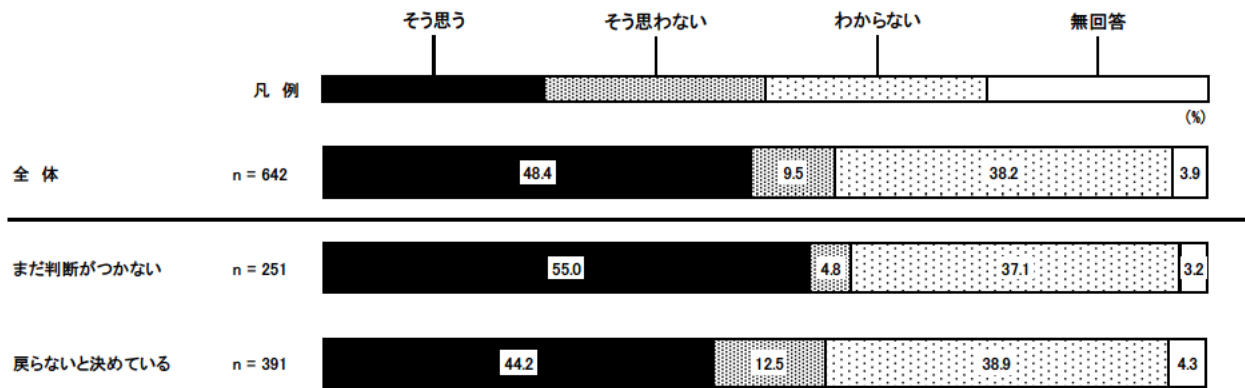


世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「そう思う」(54.2%)が過半数を占めている。帰還意向別にみると、いずれの帰還意向でも「そう思う」の割合が最も高くなっている。

＜図表3-2-15-2 飯舘村との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）＞



＜図表3-2-15-3 飯舘村との“つながり”を保ちたいか（帰還意向別）＞



3-3 現在の生活について

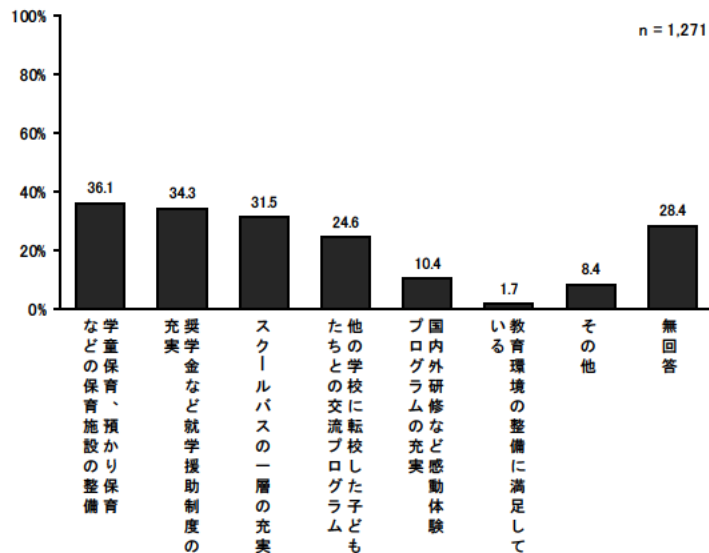
3-3-1 教育の充実を図るために必要なこと

問 13 今後、村の教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。(〇は3つまで)

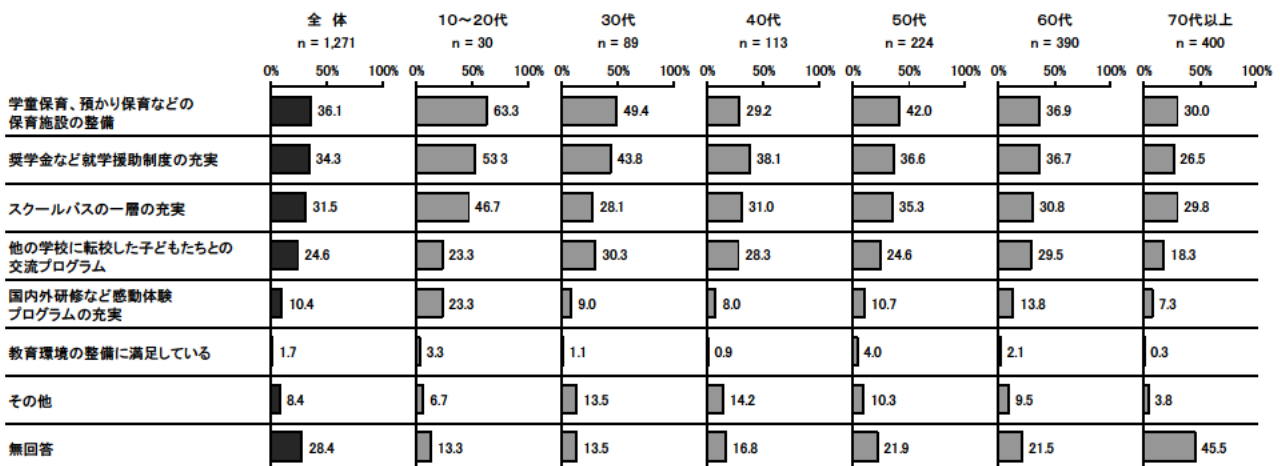
教育の充実を図るために必要なことについては、「学童保育、預かり保育などの保育施設の整備」が36.1%と最も高く、次いで「奨学金など就学援助制度の充実」が34.3%、「スクールバスの一層の充実」が31.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、10~20代では「学童保育、預かり保育などの保育施設の整備」(63.3%)、「奨学金など就学援助制度の充実」(53.3%)、「スクールバスの一層の充実」(46.7%)、「国内外研修など感動体験プログラムの充実」(23.3%)が、他の年齢に比べて高くなっている。

<図表3-3-1-1 教育の充実を図るために必要なこと>



<図表3-3-1-2 教育の充実を図るために必要なこと(年齢別)>



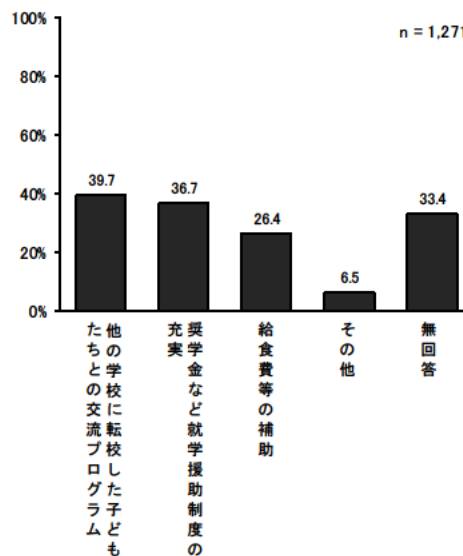
3-3-2 村外に転校した子どもの教育の充実を図るために必要なこと

問 14 村外に転校した子どもの教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。
(〇はいくつでも)

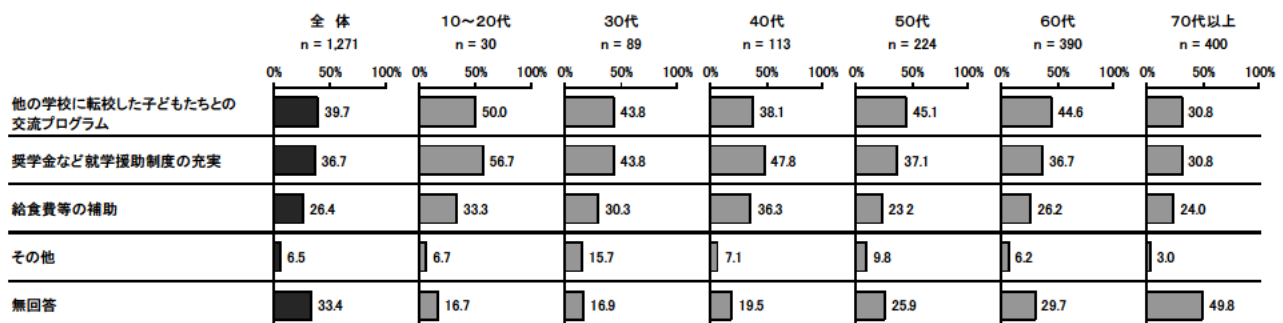
村外に転校した子どもの教育の充実を図るために必要なことについては、「他の学校に転校した子どもたちとの交流プログラム」が39.7%と最も高く、次いで「奨学金など就学援助制度の充実」が36.7%、「給食費等の補助」が26.4%となっている。

回答者の年齢別にみると、10～20代では「他の学校に転校した子どもたちとの交流プログラム」(50.0%)、「奨学金など就学援助制度の充実」(56.7%)が、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-2-1 村外に転校した子どもの教育の充実を図るために必要なこと>



<図表3-3-2-2 村外に転校した子どもの教育の充実を図るために必要なこと>



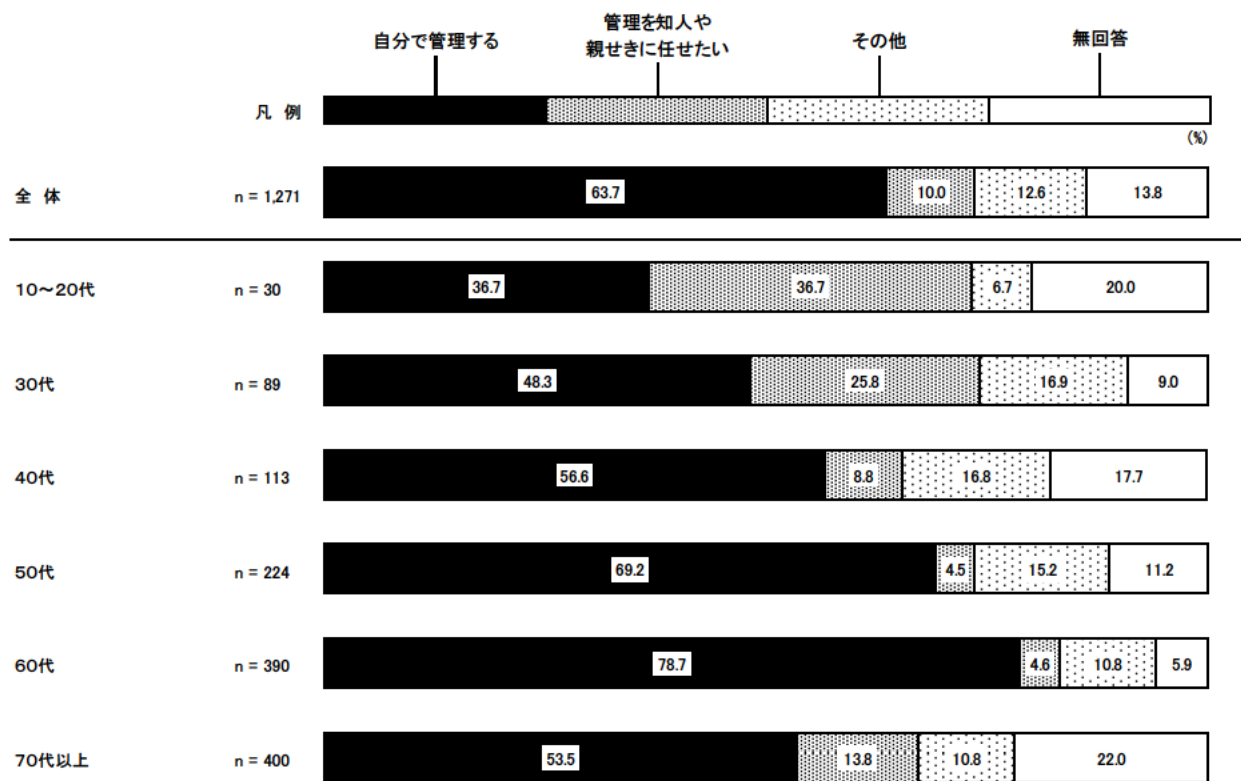
3-3-3 除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理

問 15 除染が終了した後の家屋及び家屋周辺の維持管理についてはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理については、「自分で管理する」が63.7%と最も高く、次いで「管理を知人や親せきに任せたい」が10.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「自分で管理する」は、50代(69.2%)、60代(78.7%)で、他の年齢と比べて高くなっている。一方、「管理を知人や親せきに任せたい」は10~20代(36.7%)、30代(25.8%)で、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-3-1 除染終了後の家屋及び家屋周辺の維持管理(年齢別)>



3-3-4 除染終了後の農地の維持管理

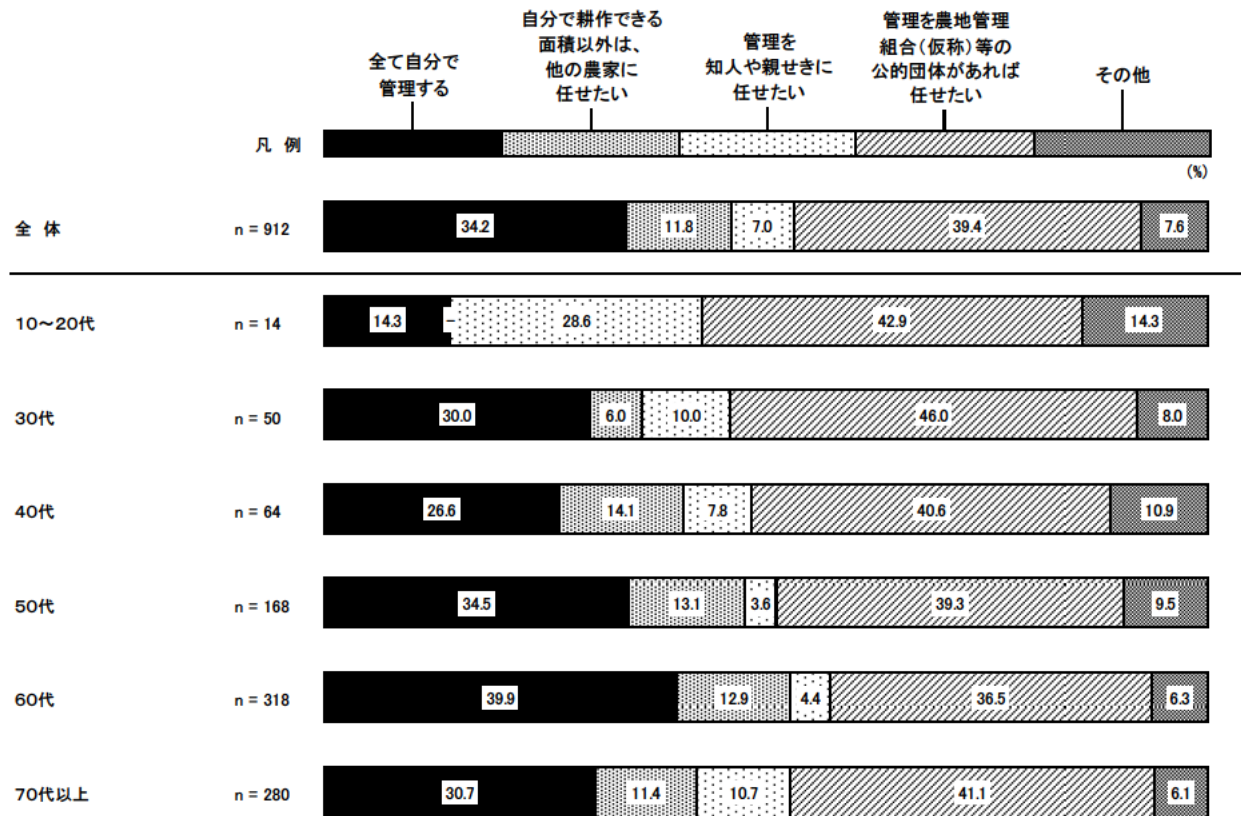
【農地を所有するすべての方にうかがいます。】

問 16 除染が終了した後の農地の維持管理についてはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

除染終了後の農地の維持管理については、「管理を農地管理組合（仮称）等の公的団体があれば任せたい」が39.4%と最も高く、次いで「全て自分で管理する」が34.2%、「自分で耕作できる面積以外は、他の農家に任せたい」が11.8%となっている。

回答者の年齢別にみると、「管理を農地管理組合（仮称）等の公的団体があれば任せたい」は30代で46.0%、「全て自分で管理する」は60代で39.9%となっており、他の年齢と比べて高くなっている。

<図表3-3-4-1 除染終了後の農地の維持管理（年齢別）>



3-4 意見・要望

問17 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、437 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染廃棄物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

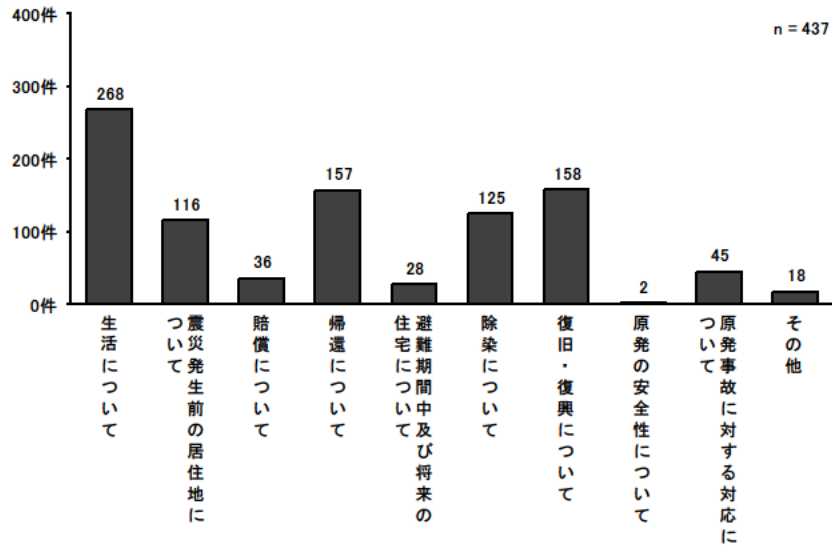
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が268件と最も多く、次いで「復旧・復興について」が158件、「帰還について」が157件などとなっている。

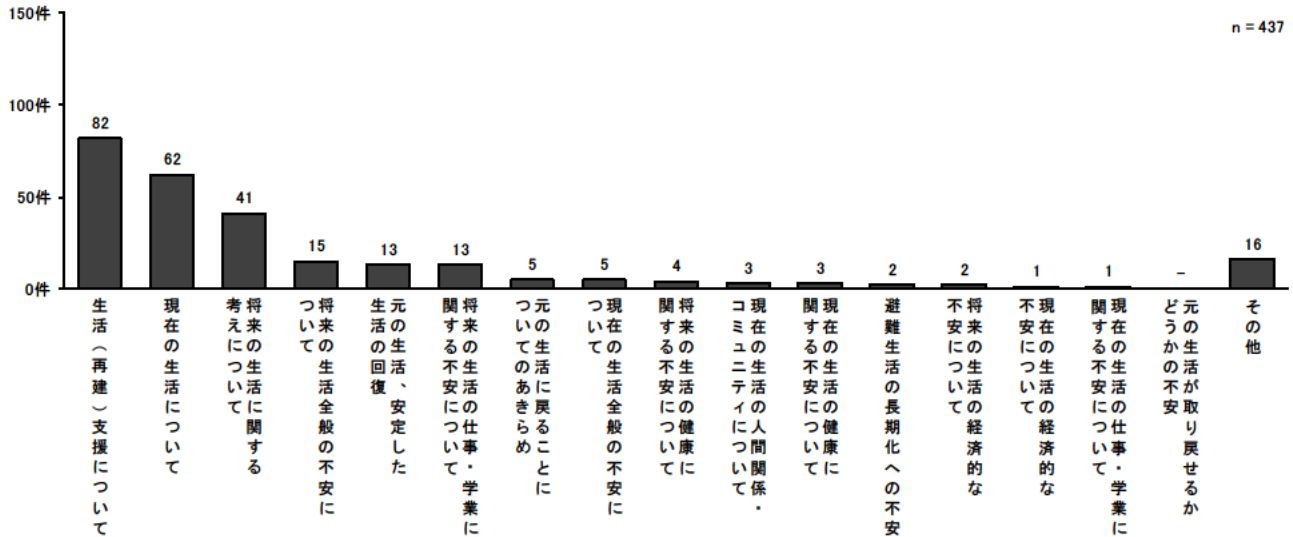
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が82件と最も多く、次いで「現在の生活について」が62件、「将来の生活に関する考えについて」が41件などとなっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【生活（再建）支援について】

- ・ 帰村後の生活の公共料金など、高額になると生活が大変になるので、水道料とか下水道料金などを自治体である程度の援助を要望したい。(60代)
- ・ 村内で農業再開の人へは助成があるようだが、村外で農業をやりたい人には何か補助的なものはあるのか。広報誌などに載せてほしい。(40代)
- ・ 帰村してからもう少し働きたいな…などと考えております。シルバー人材センターみたいな年寄りでも何か少しでも働ける場所があればいいなあと考えております。(60代)

【現在の生活について】

- ・ まだまだ、大変な方々がたくさんいらっしゃいますが…私達夫婦は、なんとか現在は落ち着いて生活が出来る様になっています。(50代)
- ・ 避難生活を始めて早6年、夢のような、不安定な精神を何とか心身のバランスを保つよう心がけながら、一日また一日と過して来ました。多くの人々に支えられながら。私よりもっと大変で、大きな悩みや悲しみを抱えている方々がいっぱいいるのだからと考えると忍耐する事が苦しいと思いませんでした。(60代)
- ・ 一年二年と経つうち5年が過ぎ年齢が年齢だけに福島まで帰るのもままならぬ状況です。(70代以上)

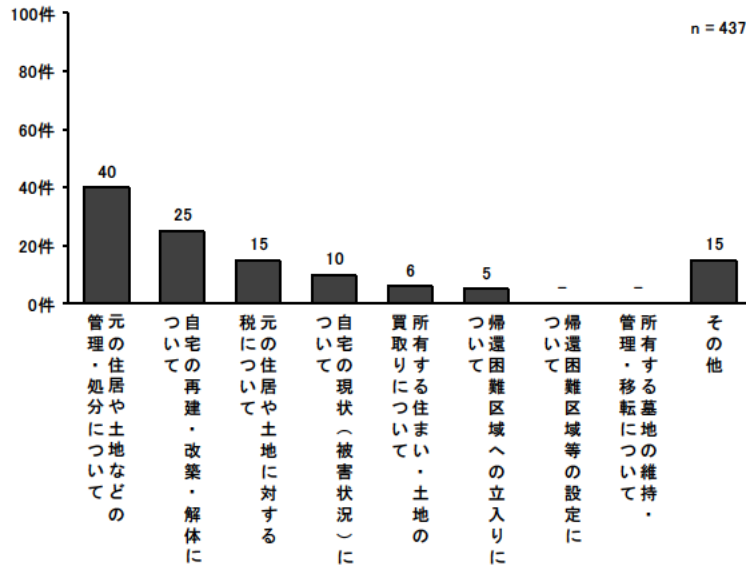
【将来の生活に関する考えについて】

- ・ 両親が今後帰還を望んでおり、子である私は別の市町村を拠点に住み、たまに子供を連れて実家に帰りたいたいと思っています。(10~20代)
- ・ 一番は子供の将来が心配なので、その部分の不安がなくなることには考えられない。除染を終えても自分自身の中で100%安心出来る状態にならないことには一歩も前に進めないと考えています。(30代)
- ・ 3月には避難解除になり様々な暮らしがスタートとなり、避難生活での苦労の積み重ねが支えになり良い暮らしが出来ると思います。(70代以上)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が40件と最も多く、次いで「自宅の再建・改築・解体について」が25件、「元の住居や土地に対する税について」が15件などとなっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔元の住居や土地などの管理・処分について〕

- 原発事故がなければ一生村に住もうと思って買った土地と家だったのに、その処分について悩まなければいけないというのも複雑な気持ちです。そういった村の不動産についてのフォローが欲しいです。(50代)
- 今私は農地を管理していますが、いつまでも出来るかわかりません。1ターンでもいいから若い人たちに任せたいと思います。私も色々応援しますが行政も仕組み作りをお願いしたい。(60代)
- 農地管理はある程度、復興組合でカバーできるが、戻らない人の宅地や民地の管理は困難が予想される。不要になった公共施設をどうするか。戻った地域住民が維持管理をするには限界がある。(60代)

〔自宅の再建・改築・解体について〕

- 村に戻って住む為の家のリフォーム等の補助をお願いしたい。すぐに戻る事が出来ないで、5年、10年後に戻る時に補助してくれないと戻れない。(50代)
- 飯舘村の自宅はリフォームをして、村に帰った時に心落ち着ける場所づくりをしたいと思っている。(60代)
- 家を残したかったが線量が高いので解体してもらうことにしました。(60代)

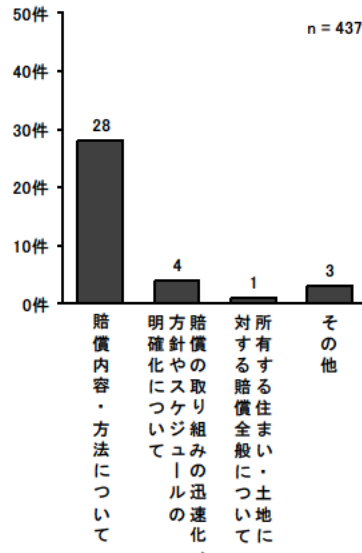
〔元の住居や土地に対する税について〕

- 無理やり避難解除して、固定資産税等を徴収したりするのはとんでもない事だと思う。(50代)
- 戻らない、戻れない人にとって税金（固定資産税）の支払いは当然免除されるべきである。(60代)
- 持ち家の税金を安くおさえてもらいたい。年金生活なので支払いが大変です。(70代以上)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が28件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が4件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が1件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- 避難前は親と同居をしていたが、避難で別れた世帯に対しての補助がないので正直不公平に感じてしまう。(30代)
- 生活が安定するまでの補償の継続をしてほしい。(60代)
- 帰還困難区域も線を引いて賠償も違うのも不公平と思う。満6ヶ年になるのだから当初の帰還困難区域と同等の賠償をしていただきたい。原発はこういったリスクを最初からわかっていたと思う。(60代)

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について】

- 事業の賠償がはっきりと分からない。会社ごとに説明に来てほしい。何年かしてその都度賠償の相談をして賠償が出る出ないでは、事業の投資など先が見えない状態では困る。(40代)
- 早く賠償手続きも終わらせたいです。もっと、国、県、自治体が、避難している人1人1人に寄り添い、県外避難者に対して賠償の仕方について親切に教えてほしいです。賠償手続きの仕方についても本当に不親切だと思います。(40代)

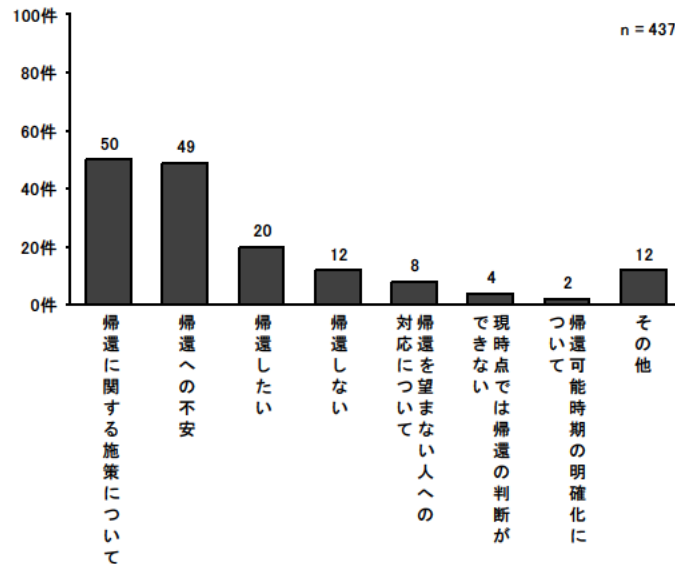
【所有する住まい・土地に対する賠償全般について】

- なぜ土地、住宅の名義人にだけ賠償金が入り、世帯主であった私には、土地、住宅の賠償金を使う権利がないのでしょうか。(50代)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が50件と最も多く、次いで「帰還への不安」が49件、「帰還したい」が20件などとなっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還に関する施策について】

- より多くの住民が帰還できるよう、十分な職場の確保を進めて欲しい。(40代)
- 帰還するのが早すぎる。あと2～3年後でも良いのでは？帰還するにも住む家の準備も出来てなく帰還せよとは不思議。(50代)
- さまざまなアンケート調査から予測できることは、帰還する村民が半分程度で、そのうちの多数が高齢者であるということ、そして、30代以下の若者は、帰還することにあまり関心がなくなってきているのではと危惧するところです。冷静な、現実的な判断を望みます！(50代)

【帰還への不安】

- 他の土地での新しい生活に慣れた頃に、戻って大丈夫と言われても、なかなか無理があると思います。初めの数年は戻ろうと思っても、これ程年数が経つと生活は変わるし、村の不便な環境では大変です。(30代)
- 避難指示の解除への不安が未だ大きい。安心して国・村が解除するんだと喜ぶ所だが、帰村しても十分な除染が完了していない地域に、家族が揃って安心して住める環境と言えるだろうか？(50代)
- 若い人が少しでも飯館に戻る様にならないと5年後～10年後どうなるのか？ものすごく不安の方が強いです。(60代)

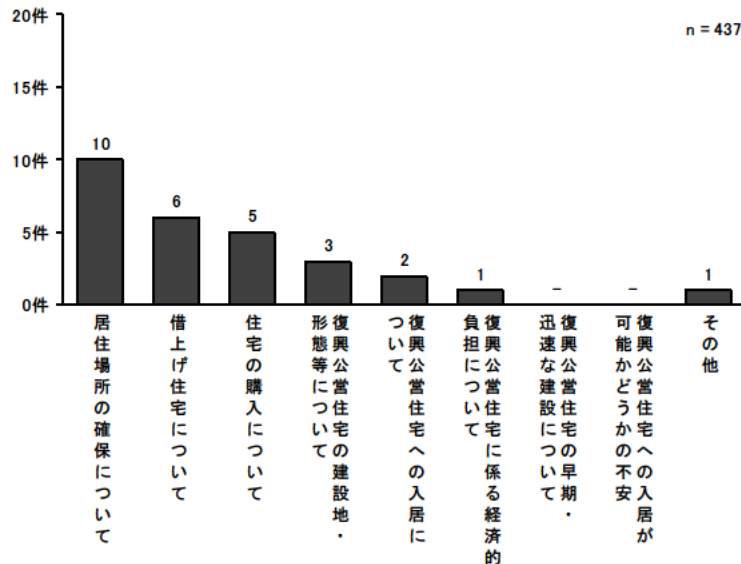
【帰還したい】

- 自分のふるさとの山菜、きのこを自由に取って食べられるようになったら帰りたい。(60代)
- 帰村してもどうなるか心配はあるが自分で建てた家なので帰ります。(70代以上)
- 製材業以外の仕事をこの地で何か…と考えた事もありましたが適したものは皆無です。やはり出来ることなら村で生活したいです。(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が10件と最も多く、次いで「借上げ住宅について」が6件、「住宅の購入について」が5件などとなっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 家を建てたいが、飯館の家は父の名義の家だったので、自分が支援を受けて家を建てるのはできない。住居を確保できる支援があれば嬉しい。(30代)
- 各市町村に飯館村民だけが住める土地や住宅団地の確保とミニコミュニティの場所を作る。(50代)
- 子供、孫と住む又は交流できるよう村外に家が欲しいので、もっと移り住みやすくしてほしいです(老後考えると手が出ない)。(50代)

【借上げ住宅について】

- 避難が解除されても、すぐに生活基盤が安定したものになるわけではないので、国、県、村には継続した支援をお願いしたい。例えば借上げ住宅の無償提供、医療費の免除とか。(10~20代)
- 避難先に住居と職場を借りて生活しています。家賃補助があるので何とか暮らしていますが、この先いつ借上げ住宅から退去しなくてはならないのか不安です。(60代)
- 飯館の土地が自由に野菜を作れるようになるまで今の川俣での借上げ住宅の支援があれば、生きがいの野菜作りができるので助かります。あと2~3年の住宅の支援をお願いしたいものです。(70代以上)

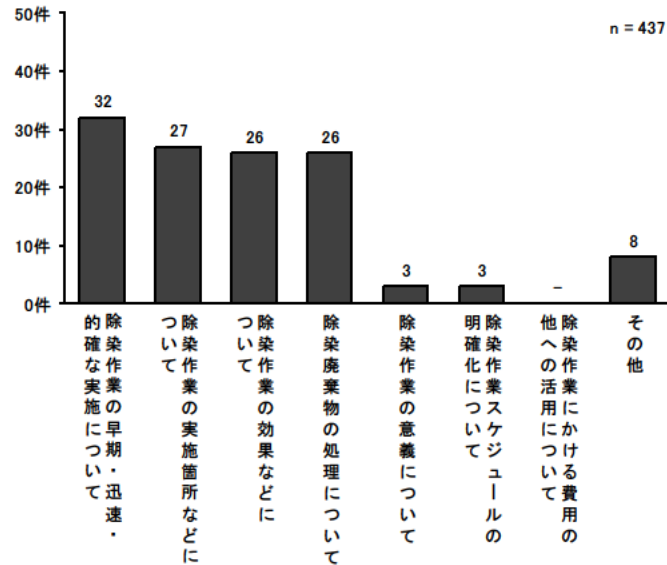
【住宅の購入について】

- 親が高齢だがいまだに家族がばらばらで生活している。川俣に家を建設し一緒に生活できる環境を作りたい。(40代)
- 今一番の不安、問題は、まだ持ち家を持っていないと言う事。東電の家の枠はあって建てるにしても、金銭面での不安が続きます。(50代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が32件と最も多く、次いで「除染作業の実施箇所などについて」が27件、「除染作業の効果などについて」、「除染廃棄物の処理について」がともに26件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[除染作業の早期・迅速・的確な実施について]

- 線量が高い場所は定期的に除染してほしい。(40代)
- とにかく放射線を下げて下さい。それでないと何も始まりません！！(60代)
- 除染を全て終了し、仮置き場も片付けられて、元の美しい状態に戻してほしい。(30代)

[除染作業の実施箇所などについて]

- 避難前、帰還困難区域に住んでおり、除染はしませんとの事ですが、他の行政区同様、宅地・農地は除染して欲しいと思っております。(60代)
- 水田農地側の県道の法面除染が終わってないです。このままですか？河川の中が雑木が太くなり台風シーズンが来ると流れが悪くなり増水し農地に入ると思います。(60代)
- 山林の除染。山奥までとは言わないがある程度の所まではやってほしい。(60代)

[除染作業の効果などについて]

- 放射能は除染したとはいえ、これからどのような結果が出るのか不安です。(40代)
- 農業が出来るようにしてもらいたい。除染をしてもらっても自宅も田、畑も山に囲まれています。裏が山、周りが山。そのような場合除染してもあまり変わらないのではないのでしょうか。心配です。(50代)
- 宅地、田畑の除染については良いと思いますが、私の場合山に囲まれた一軒家なので、時々自宅に戻り線量などみても確実に戻ってきている様に感じます。(50代)

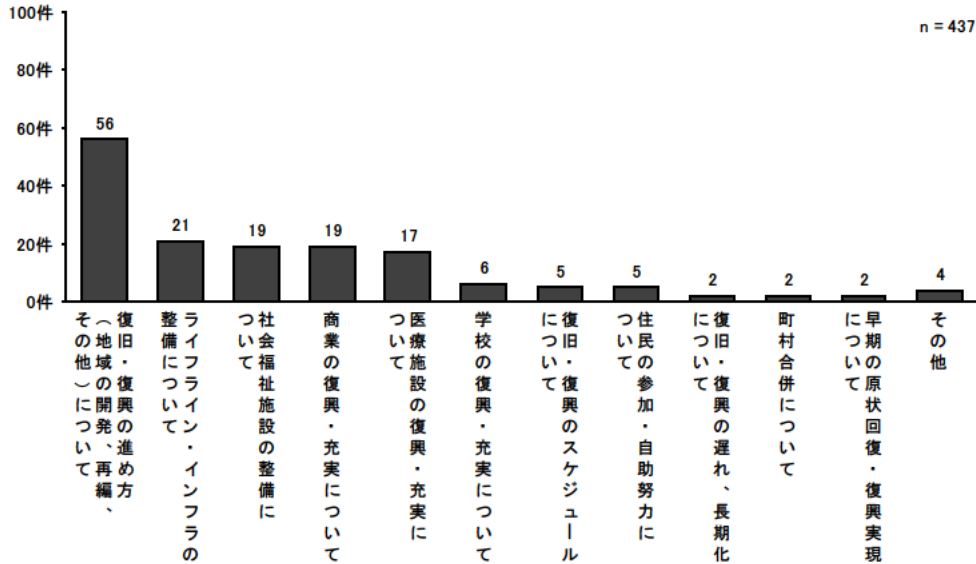
〔除染廃棄物の処理について〕

- フレコンバッグをなんとかできませんか？あの山を見ると子供たちが帰りたいと思わない。(30代)
- 多くのフレコンバッグがあり、自然環境の良さが失われている。美しい村の名前が泣いている。この課題が解決しなければ、何もスタートしたとは言えない。今後、3年～5年後ぐらいには、すべて撤去するか一時何処かに保管する事が必要だと思う。(60代)
- 除染で出た汚染土を早くなくすこと。それでないと帰っても何も出来ない。田んぼの真ん中に置くとは何事ですか。10年、20年も置くことになると思います。(70代以上)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が56件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が21件、「社会福祉施設の整備について」、「商業の復興・充実について」がともに19件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- 避難解除後に飯舘村へ戻ってくる人が少なかったとしても、お正月やお彼岸、お盆など、年の行事などに人々が集えるような場所になってほしいと思う。私自身、避難先の便利な生活に慣れてしまったが今でも飯舘村に帰ると気持ちが和らぎ便利さだけが生活の中で大切ではないと感じられます。人とのつながりが強い飯舘村に少しずつ戻っていったらいいなと思います。（10～20代）
- 今後、空地や空家が多数あると思うので、その有効な活用を考えてほしい。このままではただ廃れるのみ。人口増加対策と土地活用対策は全然別個で考えるべき。（40代）
- 今後の飯舘村について、外部ファシリテーターを交えて、行政、議会、村民間の前向きな意見交換を自由参加で開催してほしい。（30代）

【ライフライン・インフラの整備について】

- 村内のバス巡回等。また村外への足も考えてほしい。（50代）
- 各地区の街路灯をもっと設置してほしい。（60代）
- 道路の拡張、カーブの解消、側溝の修繕等もお願いしたい。（70代以上）

【社会福祉施設の整備について】

- 訪問介護、デイサービス、出来れば訪問看護等を充実し、在宅生活支援が必要。（70代以上）
- 6年近い避難生活で体力が落ちてきた。これ以上体力が落ちないよう村に戻っての介護サービスを実施してほしい。（70代以上）
- 老いた人達の為に、デイサービス、移動入浴車等、以前利用出来た事を早く再開してほしい。（60代）

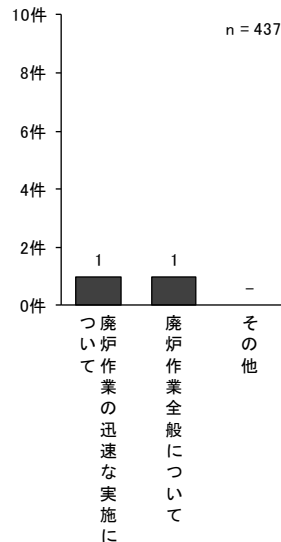
[商業の復興・充実について]

- 活性化の為に、ショッピングモールを招致してはどうでしょうか？村の方だけではなく、多方面から人が来るように、そして、いずれ若者も帰村できるように。(40代)
- 巡回スーパーを行って貰いたい。(70代以上)
- 商業施設の再開、新設も大事だと思う。わざわざとなりの町まで買物に行くのは大変(特に冬などは)。(50代)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」、「廃炉作業全般について」がともに 1 件となっている。

＜図表 3-4-9 原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業の迅速な実施について】

- 国・県は福島第二原発廃炉を早急に決定すべき。出来なければ日本の将来に不安を感じる。(60代)

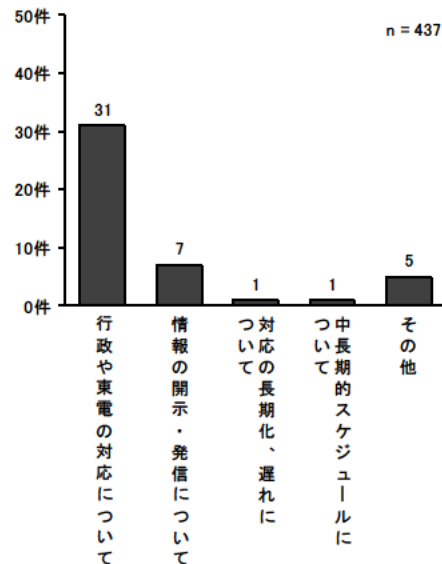
【廃炉作業全般について】

- 東電の事故処理状況について、水の処理もそうですが収束するのは 30 年後だとのこと。30 年後には私は生きていないと思われます。いつも収束を頭に持ちながら生きて行かなければならない状況が村内に居ればあります。(60代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が31件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が7件、「対応の長期化、遅れについて」、「中長期的スケジュールについて」がともに1件などとなっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政や東電の対応について]

- 住民無視じゃなく、住民の意見を良く聞いてほしい。行政主体でなく住民主体を望む。(50代)
- 地区全体、住民がばらばらになりつつあり一日も早く方向性を決めて頂きたい。村当局も議会も本腰を入れて国に対し強く働きかけてほしい。(60代)
- 若者などが安心して戻ってこられる村にしてほしい。東京電力、国の責任において最後までしっかりやってほしい。(70代以上)

[情報の開示・発信について]

- 様々な観点からみて、専門家の考える安全性をわかりやすく説明してほしい。(10~20代)
- 原子力発電はまだまだこれからどうなるか不安の要素もあります。常に放射線量のお知らせなどがわかるように、原発の情報が知れるように。(60代)
- 今後も今までと同じく、情報提供(広報誌、お知らせ版)を継続していただきたいと思います。(70代以上)

[対応の長期化、遅れについて]

- 避難生活が長引き、今の生活も落ち着いてきている。基本的に動向が遅すぎる。(30代)

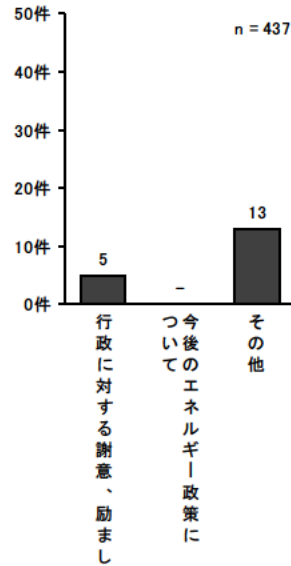
[中長期的スケジュールについて]

- 今後3年~5年で出来る事、10年後の展望等、どちらも大切だと思う。(60代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が5件などとなっている。

<図表3-4-11 その他についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政に対する謝意、励まし]

- ハード面の応援を頂いて感謝の念で一杯であります。6年も過ぎようとしていますが、少しずつ前進し、今を生かされ有難いことだと思っています。(60代)
- 復興関係の方々に感謝です。今、生きているのが精一杯です。なるべく迷惑かけずに生活したいです。(60代)
- 身体的にも、村に帰る事は大変困難な状態です。6年間、お世話になりました。(70代以上)

[その他]

- 何も望んでいない。考えられない。(60代)
- 家族の意見が違うので具体的には書けません。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

飯舘村住民意向調査

～ この調査は、国・福島県・飯舘村が共同で行う調査です。 ～

記入上の注意

● 調査の目的

この調査は、皆様の避難生活の現状や、将来への意向等、避難に関わる一般的な事項について国・県・村が共同で調査を行い、その結果を今後の避難者支援や復興の取り組みに活かしていくことを目的としています。つきましては、避難生活でお疲れのところ大変恐縮ですが、調査の目的・趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

※調査は記名式でお願いしております。差し支えなければ最後のページに「氏名」、「住所」、「連絡先」のご記入をお願いいたします。

● 調査をお願いする方

震災発生時、飯舘村に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。ご回答は、**世帯の代表者の方**をお願いいたします。

現在、世帯が何ヶ所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票の送付されたお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている間には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。

➤ 個人情報について

- ・調査票に記載いただいた個人情報は、飯舘村、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。
- ・また、回答はすべて統計的な処理を行い、**個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。**

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、**1月18日（水）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について

フリーダイヤル 0120-901-845

[設置期間：1月5日（木）～1月18日（水）10時から17時]
土・日・祝を除く

福島県

復興公営住宅について

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番地16号

避難地域復興局 生活拠点課

TEL 024-521-8617

飯舘村

飯舘村に関することについて

〒960-1892 福島県相馬郡飯舘村伊丹沢字伊丹沢580番地1

総務課企画係

TEL 0244-42-1613

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 あなたの現在の年齢(○は1つ)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. ~19歳 | 8. 50~54歳 |
| 2. 20~24歳 | 9. 55~59歳 |
| 3. 25~29歳 | 10. 60~64歳 |
| 4. 30~34歳 | 11. 65~69歳 |
| 5. 35~39歳 | 12. 70~74歳 |
| 6. 40~44歳 | 13. 75~79歳 |
| 7. 45~49歳 | 14. 80歳以上 |

【すべての方にうかがいます。】

問 2 現在のあなたの職業を教えてください。

仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業(就業形態) (○は1つ)

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 自営業・会社経営者(継続中もしくは再開済) | 7. パート・アルバイト |
| 2. 自営業・会社経営者(休業中) | 8. 学生 ⇒ <u>問3へ</u> |
| 3. 会社員(勤め人)(事務や内勤を主とする業務) | 9. 無職(職を探していない) ⇒ <u>問3へ</u> |
| 4. 会社員(勤め人)(労務や外勤を主とする業務) | 10. 無職(職を探している) ⇒ <u>問3へ</u> |
| 5. 団体職員 | 11. その他 [具体的に |
| 6. 公務員 |] |

【仕事に就いている方(問2(1)で「1」から「7」、「11」と回答した方)にうかがいます。】

(2) 業種 (○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 農・林・漁・畜産業 | 7. 金融・保険業 |
| 2. 建設業 | 8. 医療・福祉 |
| 3. 製造業 | 9. 教育 |
| 4. 電気・ガス・水道業 | 10. 公務 |
| 5. 運輸業 | 11. その他 [具体的に |
| 6. 卸・小売り・飲食、サービス業 |] |

東日本大震災発生時および震災後の状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3 震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|------------|-----------|---------------------------|
| 1. 草野 | 7. 大倉 | 13. 上飯樋 | 19. 前田 |
| 2. 深谷 | 8. 佐須 | 14. 比曾 | 20. 二枚橋・須萱 |
| 3. 伊丹沢 | 9. 宮内 | 15. 長泥 | 21. その他 |
| 4. 関沢 | 10. 飯樋町 | 16. 蕨平 | (わからない場合は住所を
記載してください) |
| 5. 小宮 | 11. 前田・八和木 | 17. 関根・松塚 | 〔 〕 |
| 6. 八木沢・芦原 | 12. 大久保・外内 | 18. 白石 | |

【すべての方にうかがいます。】

問 4 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 6. 給与住宅(社宅、公務員宿舎など) |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 8. 親戚・知人宅 |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 9. その他〔具体的に |
| 5. 公営住宅 | 〕 |

【すべての方にうかがいます。】

問 5-1 あなた(もしくはあなたのご家族)は、避難後に村のご自宅へどの程度戻られていますか(一時帰宅の形も含みます)。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------|-----------|
| 1. 一度も自宅には戻っていない | ⇒問 6 へ |
| 2. 何度か自宅に戻ったが、現在はほとんど戻らない | ⇒問 6 へ |
| 3. 何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている | ⇒ (年 回程度) |
| 4. 定期的に自宅に戻っている | ⇒ (月 回程度) |
| 5. 長期宿泊制度により宿泊中である | ⇒問 6 へ |
| 6. その他(具体的に: |) ⇒問 6 へ |

▶【問 5-1 で「3. 何度か自宅に戻っており、現在も時々戻っている」「4. 定期的に自宅に戻っている」と回答した方にうかがいます。】

問 5-2 避難前のご自宅へ定期的に戻られる理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 自宅を管理するため | 6. 地域の復興組合の作業のため |
| 2. お墓を管理するため | 7. 知人に会いに行くため |
| 3. 地域の行事に参加するため | 8. 仕事のため |
| 4. ペットの世話をするため | 9. その他〔具体的に |
| 5. 心身のリフレッシュのため | 〕 |

【すべての方にかがいます。】

問 6 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。(○は1つ)

<p>【 浜 通 り 】</p> <p>1. いわき市 2. 相馬市 3. 南相馬市 4. 広野町 5. 檜葉町 6. 川内村 7. 新地町</p>	<p>【 中 通 り 】</p> <p>8. 福島市 9. 郡山市 10. 白河市 11. 須賀川市 12. 二本松市 13. 田村市 14. 伊達市 15. 本宮市 16. 桑折町 17. 川俣町 18. 大玉村 19. 西郷村 20. 三春町</p>	<p>【 会 津 】</p> <p>21. 会津若松市 22. 喜多方市 23. 会津美里町</p> <p>【 福島県内のその他の市町村(1 から 23 以外) 】</p> <p>24. 福島県内のその他の市町村 →具体的にご記入ください <input type="text"/> (市・町・村)</p> <p>【 福島県外 】</p> <p>25. 福島県外 →具体的にご記入ください <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村)</p>
--	---	--

【すべての方にかがいます。】

問 7 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

(1) 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

(2) 「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア)未就学児(小学校入学前)	人	エ)15歳以上18歳未満 (中学生を除く)	人
イ)小学生	人	オ)18歳以上65歳未満	人
ウ)中学生	人	カ)65歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

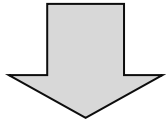
問 8 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償) | 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償) | 7. 親戚・知人宅 |
| 3. 公営住宅(2.は除く。有償) | 8. 持ち家(ご本人またはご家族所有) |
| 4. 民間賃貸住宅(有償) | 9. その他 (具体的に |
| 5. 給与住宅(社宅など) |) |

【すべての方にうかがいます。】

問 9 飯舘村の避難指示が解除された後の飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。

1. 戻りたいと考えている(将来的な希望も含む)



「1」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

問 9-1-1 飯舘村へ戻りたい時期を教えてください。(○は1つ)

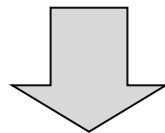
1. 解除後すぐに戻りたい
2. 解除後3年以内に戻りたい
3. 解除後5年以内に戻りたい
4. 解除後10年以内に戻りたい

問 9-1-2 飯舘村へ戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。(○は1つ)

1. 家族全員での帰還を考えている
2. 家族一部での帰還を考えている
3. まだわからない

問 9-2-1 飯舘村へ戻る
(○はいくつでも)

1. 道路、バス、学校、病院
2. どの程度の住民が戻る
3. 放射線量の低下の目途、
4. 中間貯蔵施設の情報
5. 原子力発電所の安全性
6. 放射線の人体への影響
7. 働く場の確保の目途
8. 住宅確保への支援に関
9. その他 { 具体的に
10. 現時点で家族間の意見
11. 現時点ではどのような情



問 10-1 へ

問 9-2-2 今後も
等、飯
います

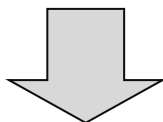
1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない

ついてお聞かせください。

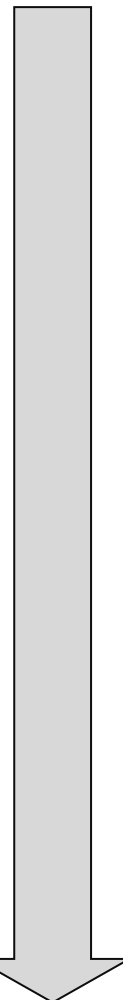
「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。(○は1つ)

2. まだ判断がつかない

3. 戻らないと決めている



「2」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください



「3」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

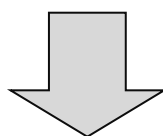
ことを判断するために必要なことを教えてください。

などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
かの状況
除染成果の状況

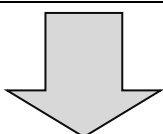
に関する情報(事故収束や廃炉の状況)
に関する情報

する情報

が分かれており、帰還意向について回答できない
報があれば判断できるかわからない



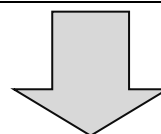
行政参加や住民同士のコミュニティ
館村との“つながり”を保ちたいと思
か。(○は1つ)



問 11 へ

問 9-3 今後も行政参加や住民同士のコミュニティ等、
飯館村との“つながり”を保ちたいと思
か。(○は1つ)

1. そう思う
2. そう思わない
3. わからない



問 12-1 へ

IV 参考資料

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 10-1 飯舘村に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。
(特に重要と思うものに3つまで○)

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 被ばく低減対策 | 9. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善 |
| 2. 商業施設の再開や新設 | 10. 村内への復興住宅建設 |
| 3. 農・林・畜産業の再開支援 | 11. 放射線量の測定・公表(空間線量・水)の継続 |
| 4. 雇用確保・就業支援 | 12. 道路や農地、農業用施設の整備 |
| 5. 医療、介護福祉施設の充実 | 13. その他〔具体的に〕 |
| 6. 村内での保育所・預かり保育の再開 | 14. 特にない |
| 7. 村内での学校や教育施設の再開や新設 | |
| 8. 村内巡回バスの運行 | |

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 10-2 帰還した場合のお住まいに、一緒に住む予定の人数を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|-------|---------|
| 1. 1人 | 5. 5人 |
| 2. 2人 | 6. 6人 |
| 3. 3人 | 7. 7人以上 |
| 4. 4人 | |

【問9で「1. 戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 10-3 帰還した場合のお住まいは、どのような形態となりますか、又は希望されますか。
(○は1つ)

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| 1. 元の持ち家(自宅) | } ⇒ <u>問 13 へ</u> |
| 2. 元の持ち家(自宅)をリフォーム | |
| 3. 元の場所に持ち家を新築 | |
| 4. 自宅とは別の場所(村内)に新たに一戸建の持ち家を建てたい | ⇒ <u>問 10-4 へ</u> |
| 5. 村営住宅 | ⇒ <u>問 10-5 へ</u> |
| 6. 家族のどなたかのお住まい・実家 | } ⇒ <u>問 13 へ</u> |
| 7. 親戚・知人宅 | |
| 8. その他〔具体的に〕 | |
| 9. 現時点では判断できない | |

【問 10-3 で「4. 自宅とは別の場所（村内）に新たに一戸建の持ち家を建てたい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-4 自宅とは別の場所を希望される理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 元の持ち家(自宅)周辺の放射線量の高さが心配だから |) |
| 2. 元の持ち家(自宅)周辺に住む人が少ないと思うから | |
| 3. 飯舘村内の新たな場所で生活を開始したいから | |
| 4. 元の持ち家(自宅)が荒廃又は取り壊ししているから | |
| 5. その他(具体的に) | |

【問 10-3 で「5. 村営住宅」と回答した方にうかがいます。】

問 10-5 村では、自宅に戻っても一人暮らしが難しい高齢者や、村内で働く方などのための村営住宅(復興住宅)を深谷地区の村内復興拠点エリアに建設する予定です。また、草野大谷地地区、飯樋桶地内地区にも新しく村営住宅の建設を予定しています。村営住宅が建設された場合、入居を希望しますか。(○は1つ)

- | | | |
|---|---|-------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 村内復興拠点(深谷地区)の村営住宅に入居したい 2. 大谷地住宅に入居したい 3. 桶地内住宅に入居したい 4. その他既存の村営住宅に入居したい(場所等 | } | ⇒ <u>問 10-6</u> へ |
| | |) ⇒ <u>問 13</u> へ |

問 10-5 で「1. 村内復興拠点(深谷地区)の村営住宅に入居したい」「2. 大谷地住宅に入居したい」「3. 桶地内住宅に入居したい」と回答した方にうかがいます。】

問 10-6 新しく整備を計画している村営住宅について、どのようなサービスがあればよいと考えますか。(○は1つ)

- | | | |
|--|---|-----------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 安否確認や見守りのサービス 2. 健康相談・生活相談のサービス 3. 健康増進・介護予防サービス 4. 配食サービス 5. 移動販売サービス 6. その他(具体的に | } | ⇒ <u>問 13</u> へ |
| | |) |

【問 9 で「2. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】

問 11 今後、どのような支援を望みますか。(○は3つまで)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 県借上げ住宅制度の継続 2. 仮設住宅の入居期間の延長 3. 子育て支援(母親同士のつながりづくりなど) 4. 要介護者への支援 5. 就労先の紹介・あっせん 6. 運動・レクリエーション・スポーツ活動への支援 | <ol style="list-style-type: none"> 7. 趣味などを通じた生きがいづくり支援 8. 村民同士の交流の場の確保 9. 放射線被ばくを軽減するための勉強会 10. 行政情報の継続的な発信 11. 相談窓口の設置 12. その他(具体的に |
| |) |



問 13 へ

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-1 戻らないと決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから
2. 放射線量が低下せず不安だから
3. 仮仮置場の片づけが終わらないから
4. 原子力発電所の安全性に不安があるから
5. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから

【今後の生活に関わるもの】

6. 一人暮らしなので生活が不安だから
7. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
8. 他の住民も戻りそうにないから
9. 帰還までに時間がかかるから
10. 避難先で仕事を見つけているから
11. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
12. 避難先の方が生活利便性が高いから

【村内の復旧状況に関わるもの】

13. 飯舘村に戻っても仕事がなさそうだから
14. 飯舘村での事業の再開が難しいから
15. 営農などができそうにないから
16. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
17. 飯舘村外への移動交通が不便だから
18. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
19. 医療環境に不安があるから
20. 介護・福祉サービスに不安があるから
21. 教育環境に不安があるから
22. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから
23. その他 (具体的に)

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-2 帰還しない場合に、今後のお住まいとして、希望する(既に居住している場合を含む)住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 持ち家(一戸建) | 7. 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2. 持ち家(集合住宅) | 8. 親戚・知人宅 |
| 3. 民間賃貸住宅(一戸建) | 9. その他 (具体的に) |
| 4. 民間賃貸住宅(集合住宅) | |
| 5. 公営住宅 | 10. 現在のお住まい |
| 6. 給与住宅(社宅など) | 11. 現時点では判断できない |

【問9で「3. 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 12-3 今後、どのような支援を望みますか。(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 復興公営住宅に関する情報提供 | 6. 情報提供の継続(広報誌・お知らせ版等) |
| 2. 仮設住宅の入居期間の延長 | 7. 村イベント等への継続招待 |
| 3. 借上げ住宅制度(家賃補助)の延長 | 8. 村民との交流に関する支援 |
| 4. 移転先での農林業、商工業再開への支援 | 9. その他 (具体的に) |
| 5. 健康管理への支援(総合健診、放射線に関する健診) | |



あなたのお考えについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 13 今後、村の教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。
(○は3つまで)

1. 奨学金など就学援助制度の充実
2. 学童保育、預かり保育などの保育施設の整備
3. スクールバスの一層の充実
4. 国内外研修など感動体験プログラムの充実
5. 他の学校に転校した子どもたちとの交流プログラム
6. その他(具体的に)
7. 教育環境の整備に満足している

【すべての方にうかがいます。】

問 14 村外に転校した子どもの教育の充実を図るため、どのようなことが必要だとお考えですか。
(○はいくつでも)

1. 奨学金など就学援助制度の充実
2. 他の学校に転校した子どもたちとの交流プログラム
3. 給食費等の補助
4. その他(具体的に)

【すべての方にうかがいます。】

問 15 除染が終了した後の家屋及び家屋周辺の維持管理についてはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

1. 自分で管理する
2. 管理を知人や親せきに任せたい
3. その他(具体的に)

【農地を所有するすべての方にうかがいます。】

問 16 除染が終了した後の農地の維持管理についてはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

1. 全て自分で管理する
2. 自分で耕作できる面積以外は、他の農家に任せたい
3. 管理を知人や親せきに任せたい
4. 管理を農地管理組合(仮称)等の公的団体があれば任せたい
5. その他(具体的に)

【すべての方にうかがいます。】

問 17 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にご記入ください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移り頂くことが重要と考えております。このため、本調査でいただいたご回答については、今後の施策を進めるための貴重な基礎資料として活用させていただきますので、ご回答にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、ご回答いただいた現在の状況や今後のご意向等について、改めて伺わせていただく場合がございますので、差支えなければ、ご氏名、現在のご住所、ご連絡先についてご記入していただけると幸いです。

F1 あなたの氏名を教えてください

F2 現在のあなたの住所(番地、アパート名・部屋番号までご記入ください)

F3 あなたの連絡先(電話番号)

以上でご回答いただく内容は終わりです。
ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、
1月18日(水)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**飯舘村 住民意向調査
報告書**

平成29年3月

復興庁 福島県 飯舘村

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

